

2018年度
就職・採用活動に関する調査（大学等）
調査結果【速報版】

2018年10月

本調査結果（速報版）は今後、分析・検討、データの更なる精査を経て、最終版を公表する予定。

調査の概要

(1) 調査の目的

就職・採用活動については、早期化・長期化の是正のため、国公私立の大学、短期大学及び高等専門学校関係団体の代表で構成する就職問題懇談会が経済団体等に対し、意見交換を重ね、要請を行ってきた結果、2015年度卒業・修了予定者から広報活動の開始時期は卒業・修了前年度の3月、採用選考活動の開始時期は卒業・修了年度の8月に変更（後ろ倒し）された。

これについては、卒業・修了前年度の学修時間を確保できたという成果が確認された一方で、卒業・修了年度の1学期全期間を通じての学修に支障が生じている実態が窺われるなど、改善を要すると思われる点も確認された。これを踏まえて、就職問題懇談会、経済界及び関係府省で、議論を重ね、2016年度卒業・修了予定者については、学生の学業への配慮を十分に行いながら、広報活動の開始時期は卒業・修了前年度の3月を維持しつつ、採用選考活動の開始時期は卒業・修了年度の6月に変更することとなった。それ以降同様の日程が維持されており、今年度で3年目となっている。

このような背景を踏まえ、就職・採用活動の状況を把握し、今後の就職・採用活動の円滑な実施の検討に資することを目的とし、本調査を実施した。

(2) 調査主体

文部科学省（就職問題懇談会と協力して実施。）

※調査票の郵送、回収、集計はテントセント株式会社にて実施。

(3) 調査実施方法

対象：全国の国公私立大学、短期大学、高等専門学校 合計1,178校

方法：調査票の送付

期間：2018年7月4日（水）～8月8日（水）

※8月1日現在の状況を回答。

(4) 回答率

発送数：1,178件

有効回答件数：1,091件

回答率：92.6%

【内訳】

国立大学	100.0%	公立大学	95.7%	私立大学	95.2%
公立短期大学	82.4%	私立短期大学	84.5%		
国立高専	96.1%	公立高専	100.0%	私立高専	100.0%

(5) 留意点

この「速報版」における「大学等」とは、大学、短期大学及び高等専門学校である。

I. 回答大学の属性

学校種別

調査回答大学数	国立大学	公立大学	私立大学	公立短期大学	私立短期大学	国立高専	公立高専	私立高専
1,091	86	88	580	14	268	49	3	3
100%	7.9%	8.1%	53.2%	1.3%	24.6%	4.5%	0.3%	0.3%

大学院設置の有無（短期大学、高等専門学校を除く）

調査回答大学数	設置している	設置していない
754	599	155
100.0%	79.4%	20.6%

設置している学部

調査回答数	人文科学	社会科学	理学	工学	農学	医科学 歯学 看護学	薬学
1,091	342	421	126	242	76	271	72
244.5%	31.3%	38.6%	11.5%	22.2%	7.0%	24.8%	6.6%

保健（医学、歯学、看護学、薬学以外）	商船	家政	教育	芸術	その他	無回答
178	8	206	411	129	182	3
16.3%	0.7%	18.9%	37.7%	11.8%	16.7%	0.3%

※次頁以降の集計では、「人文科学」、「社会科学」、「家政」、「教育」、「芸術」、「その他」を設置している大学を「文系」とし、「理学」、「工学」、「農学」、「医学、歯学、看護学」、「薬学」、「保健（医学、歯学、看護学、薬学以外）」、「商船」、を設置している大学を「理系」としている。

地域

調査回答大学数	北海道・東北	関東（東京以外）	東京	中部	近畿	中国・四国	九州
1,091	135	167	173	189	201	109	117
100.0%	12.4%	15.3%	15.9%	17.3%	18.4%	10.0%	10.7%

本年度の卒業対象学生数

調査数	100名未満	100以上 500名未満	500名以上 1000名未満	1000名以上 2000名未満	2000名以上 4000名未満	4000名以上 5000名未満	無回答
1,091	159	583	129	117	60	32	11
100.0%	14.6%	53.4%	11.8%	10.7%	5.5%	2.9%	1.0%

Ⅱ. 就職・採用活動時期に関する大学等の取組について

【企業に対する「申合せ」の周知状況について】

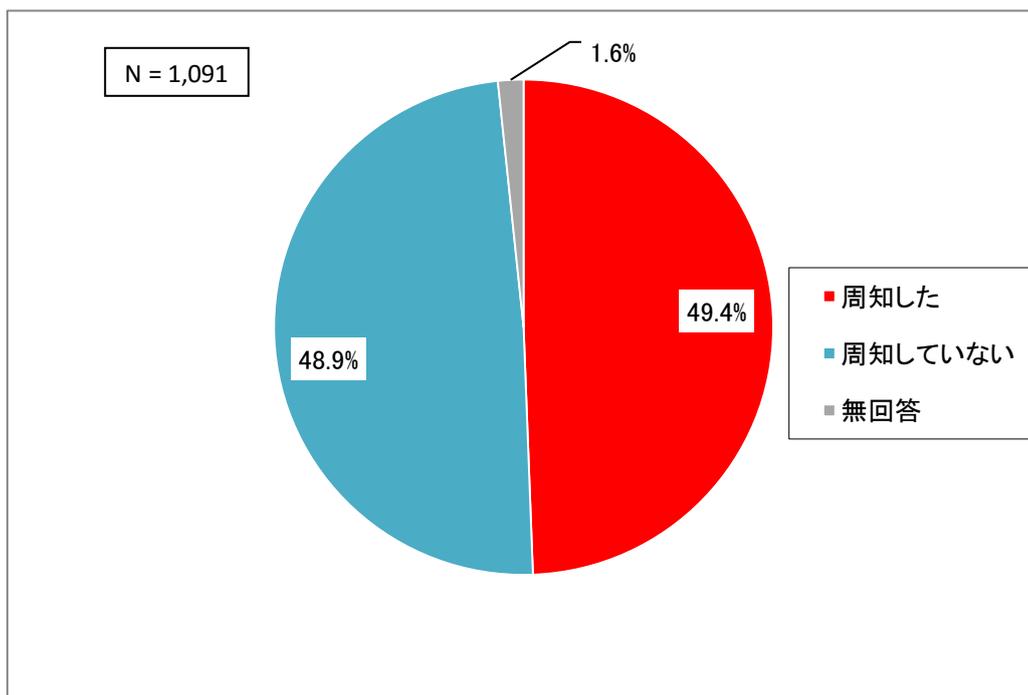
< (1) 企業に対する「申合せ」の周知状況 >

○企業に対して、就職問題懇談会の「申合せ」に記載されている就職・採用活動開始時期の遵守や学生の学業への配慮等を周知したか尋ねたところ、「周知した」と回答した大学等は49.4%、「周知していない」と回答した大学等は48.9%であった。

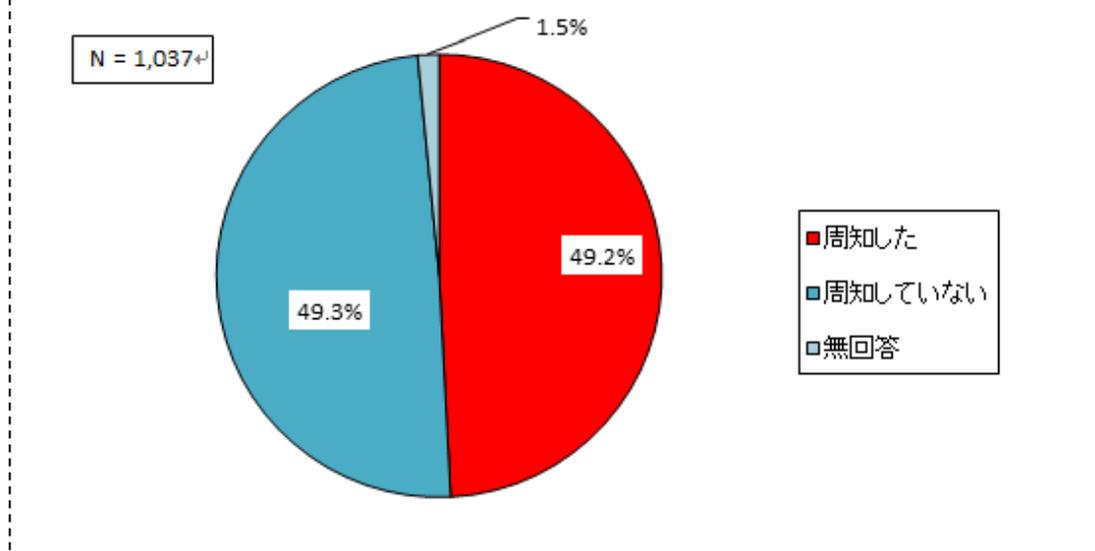
○なお、昨年度調査と比較すると「周知した」の割合はほぼ変わらない。

【企業に対して就職問題懇談会の「申合せ」の内容を周知しましたか】

(単一回答)



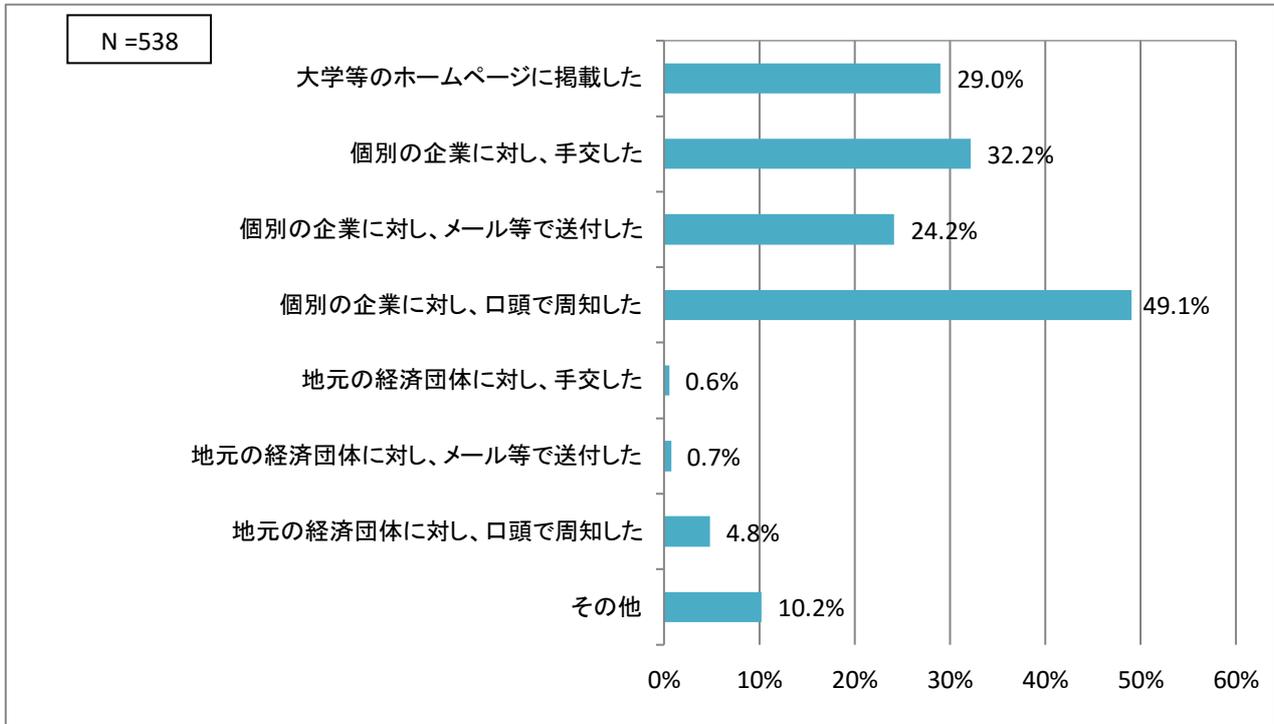
【参考：昨年度調査】



< (2) 企業への「申合せ」の周知方法 >

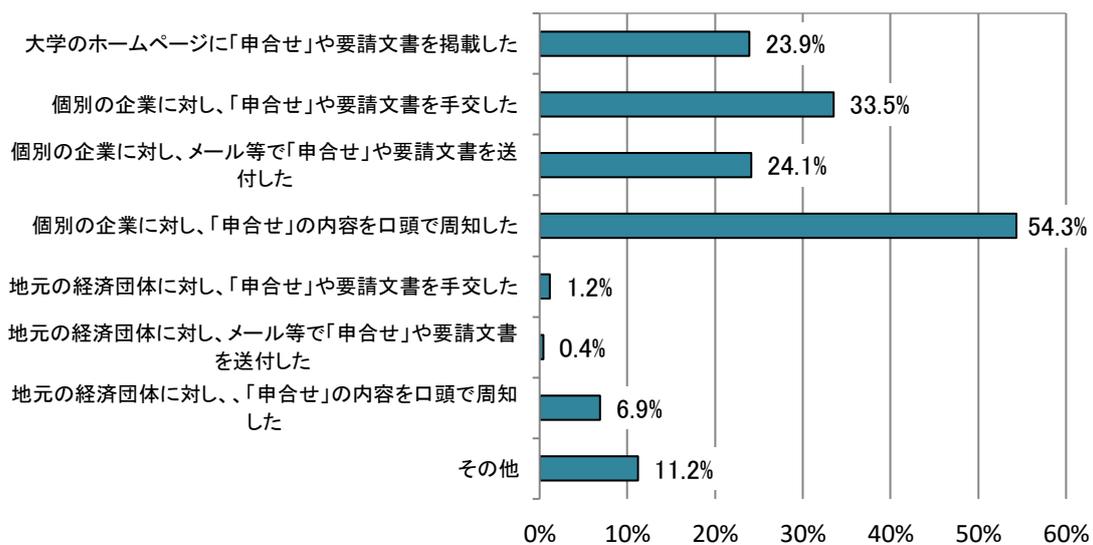
○申合せを「周知した」と回答した大学等（539校）に対し、どのような方法で企業に対し周知したのか尋ねたところ、「個別の企業に対し、を口頭で周知した」と回答した学校が49.1%と最も多く、次いで「個別の企業に対し、手交した」（32.2%）、「大学等のホームページに掲載した」（29.0%）であった。

【企業等に対してどのように「申合せ」の内容を周知しましたか】(複数回答)



※539校から無回答1校を除外

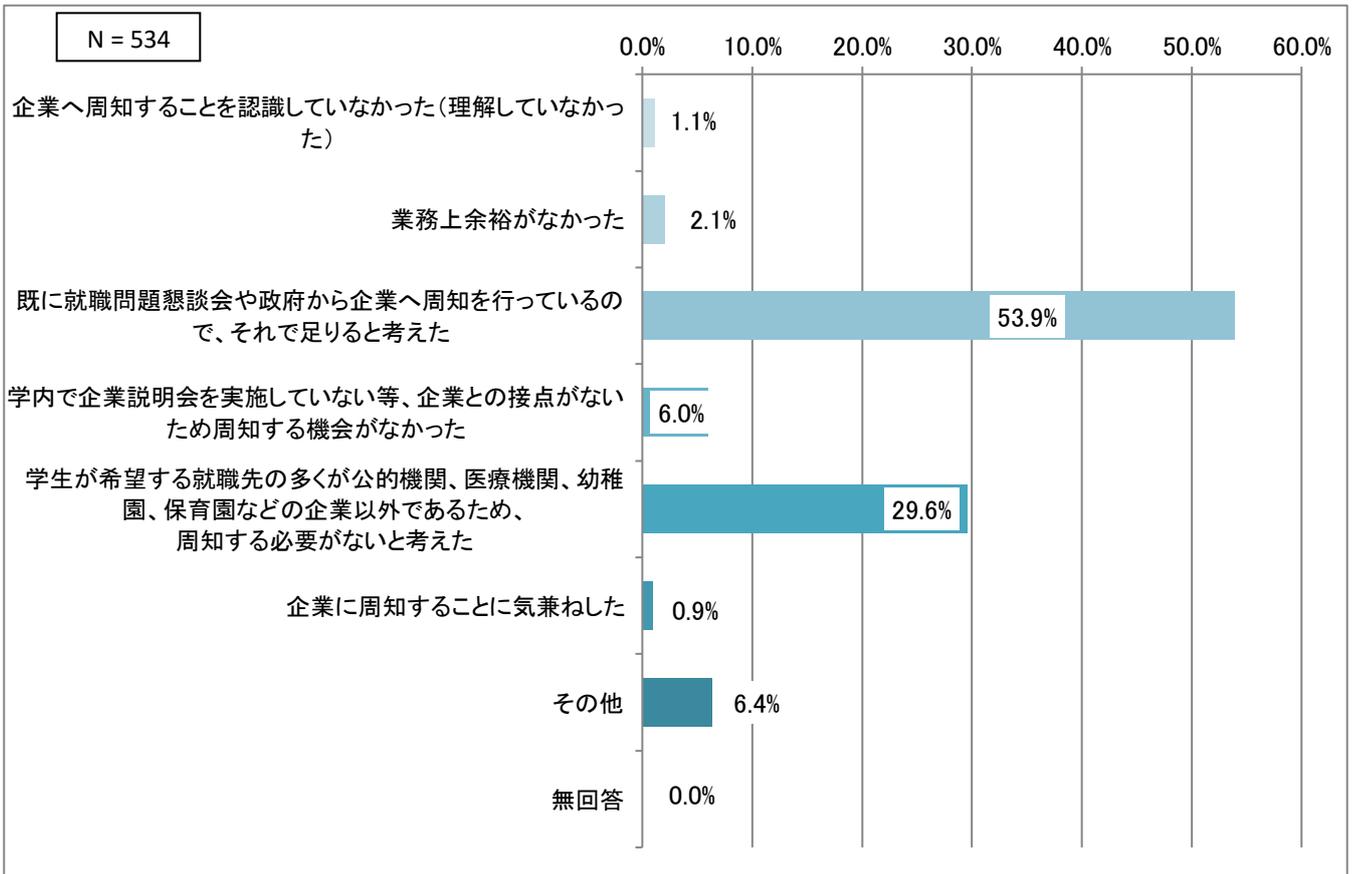
【参考：昨年度調査】N=510



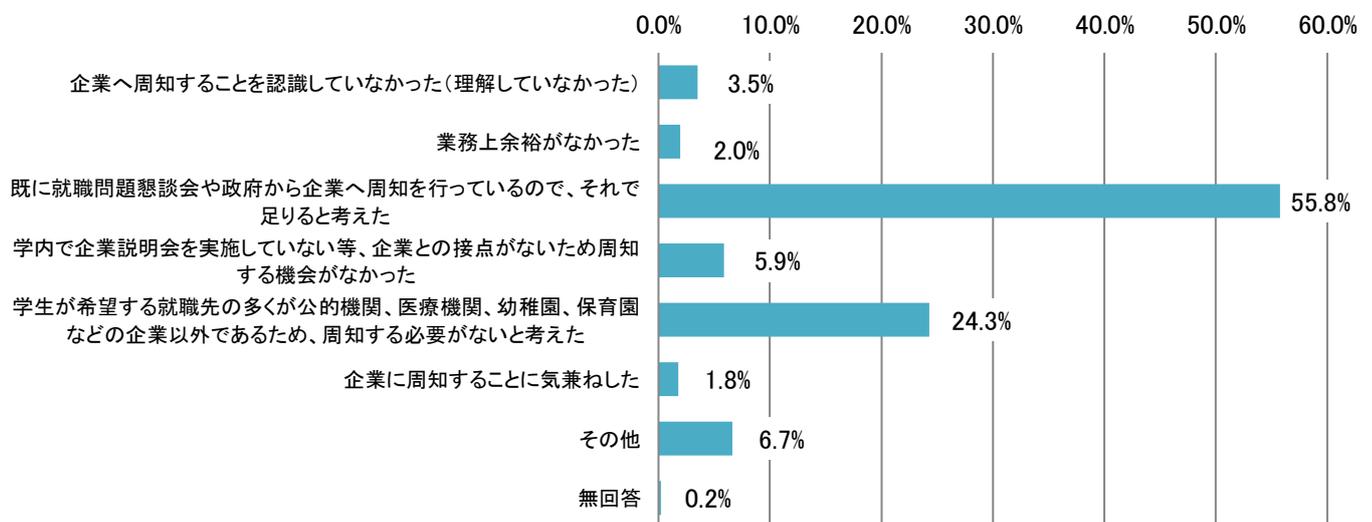
< (3) 企業に対して周知しなかった理由 >

○申合せを「周知していない」と回答した大学等（534 大学）に周知しなかった理由を尋ねたところ、「既に就職問題懇談会や政府から企業へ周知を行っているので、それで足りると考えた」と回答した大学等が 53.9% と最も多く、次いで「学生が希望する就職先の多くが公的機関、医療機関、幼稚園、保育園などの企業以外であるため」（29.6%）と回答する大学等が多かった。

【企業に対して周知しなかった理由は何ですか】（単一回答）



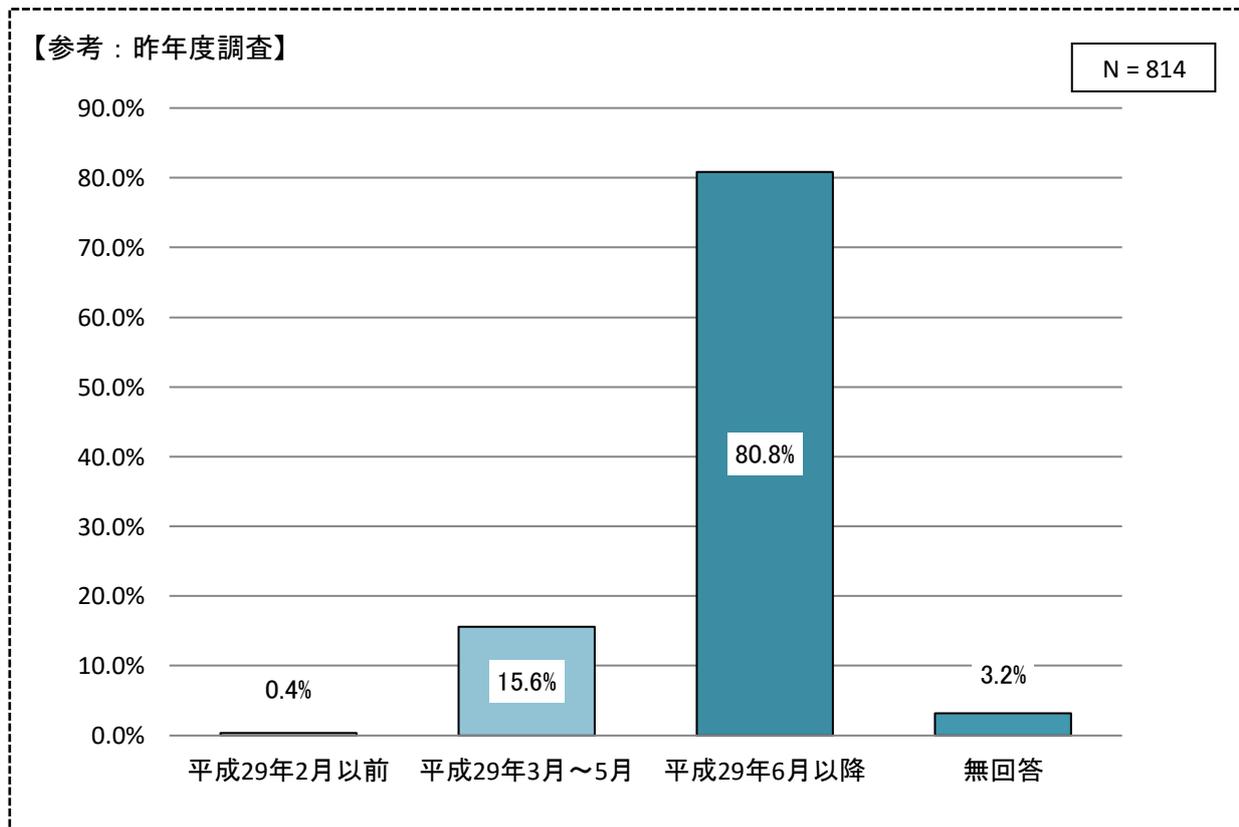
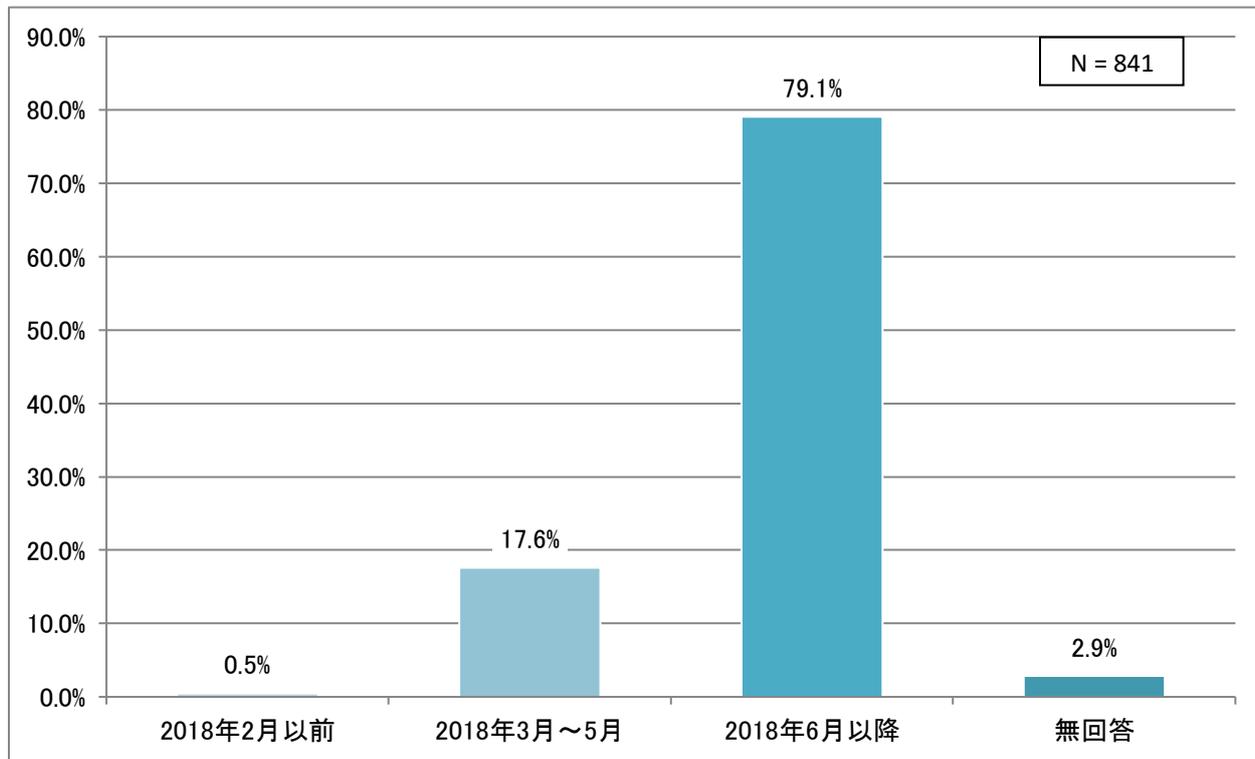
【参考：昨年度調査】 N=511



< (4) 学校推薦について >

○「申合せ」では「学校推薦は、卒業・修了年度6月1日以降とすることを徹底する」としているが、学校推薦としての推薦状の発行を何月以降に行っているか尋ねたところ、「2018年6月以降」との回答は79.1%であり、6月より前と回答した大学等は18.1%であった。
 ※「行っていない」と回答した250校を除外して集計した。

【学校推薦としての推薦状の発行は、何月以降に行っていますか】(単一回答)



Ⅲ. 本年度の就職・採用活動の状況

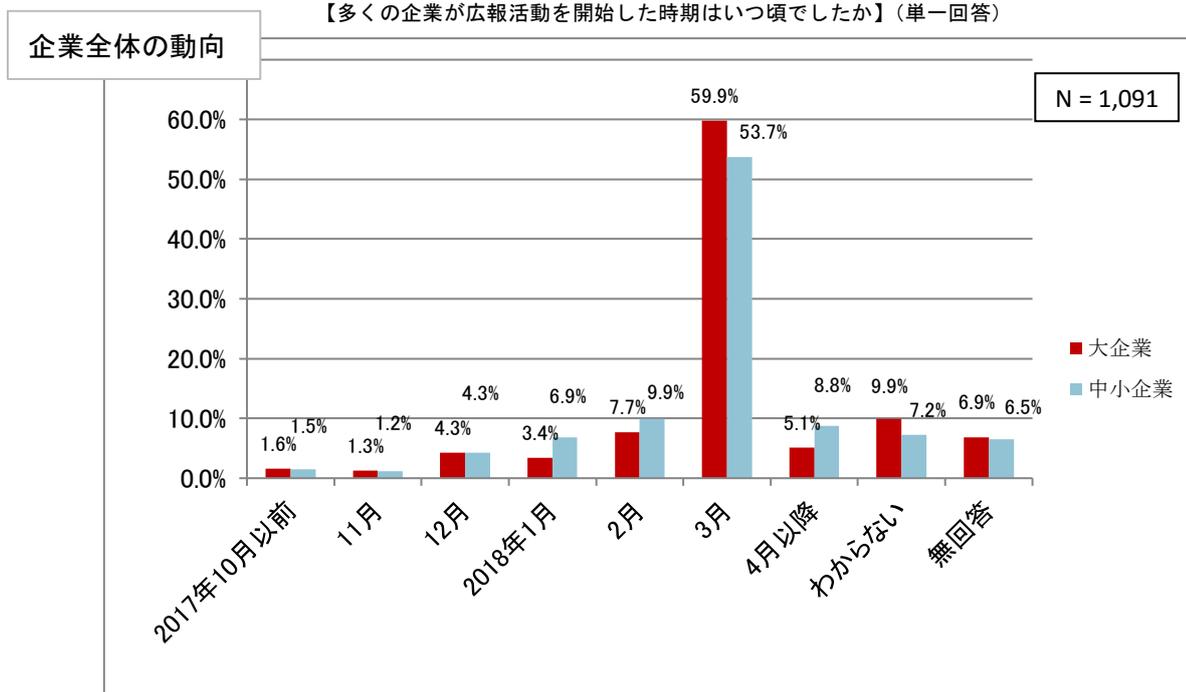
【本年度の卒業・修了予定者の就職・採用活動時期について】

(1) 広報活動開始時期

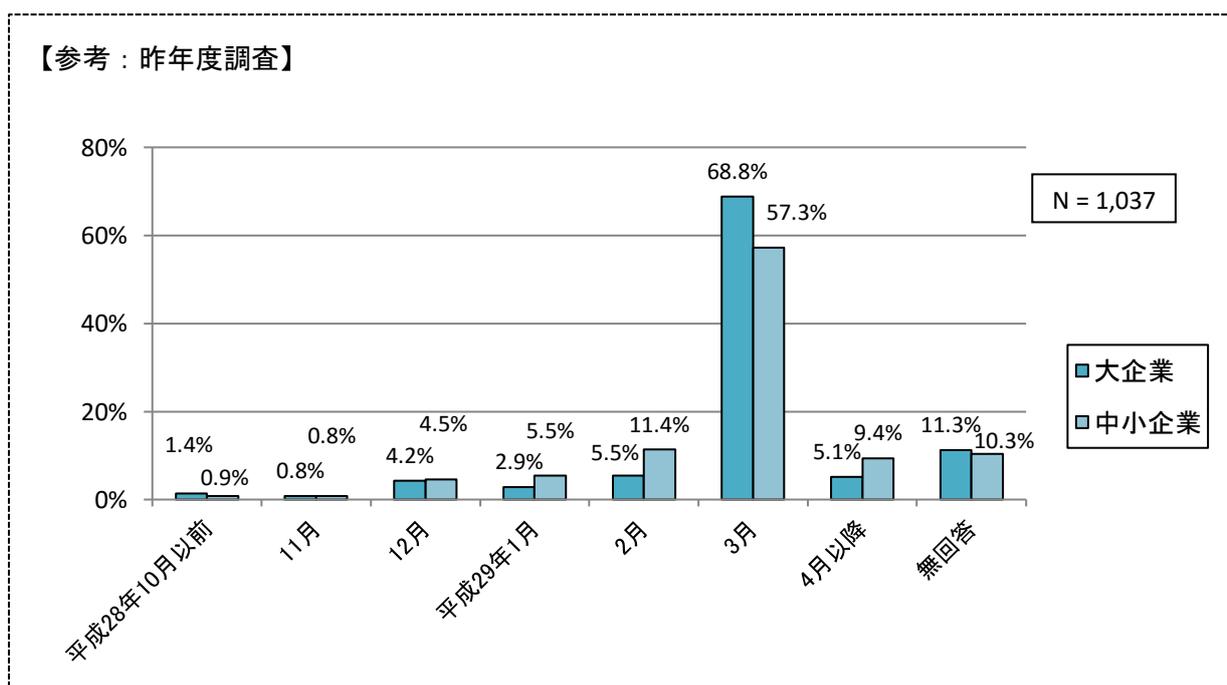
<全体>

- 学生が就職活動を行った企業について、企業が広報活動を開始した時期を尋ねたところ、大企業は「3月」と認識している大学等の割合が59.9%と最も多く、2018年3月以降という割合は65.0%であった。また、中小企業については「2018年3月」が53.7%と最も多く、62.5%の大学が3月以降に開始と回答した。
- 昨年度の調査と比較すると、大企業について3月以降と認識している大学等の割合は8.9ポイント減少し、中小企業について4.2ポイント減少した。

【多くの企業が広報活動を開始した時期はいつ頃でしたか】(単一回答)



【参考：昨年度調査】

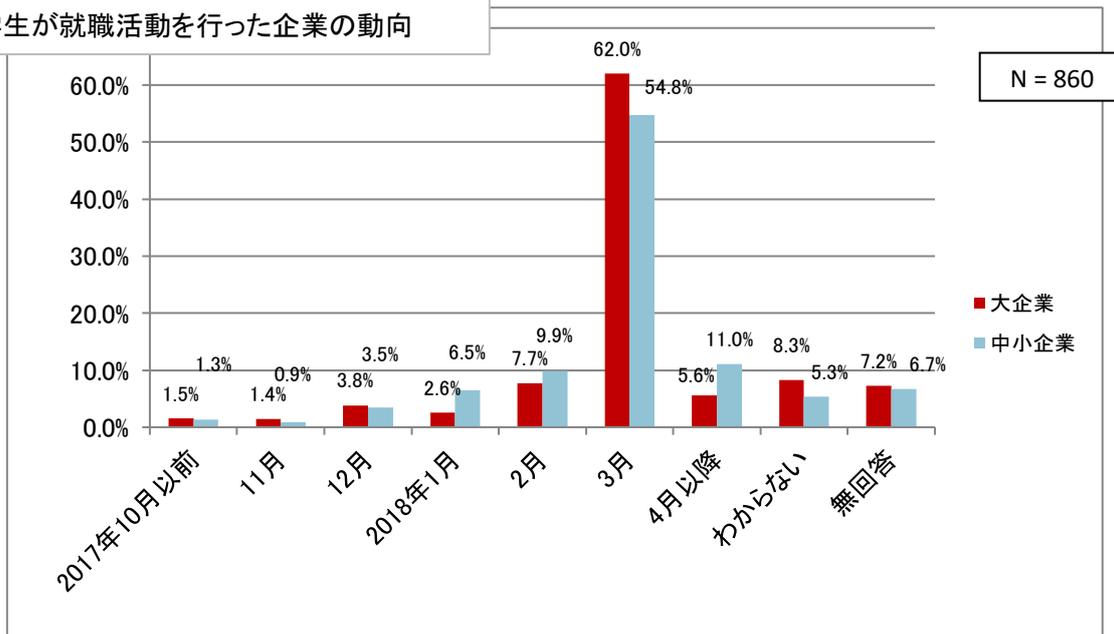


<文理別>

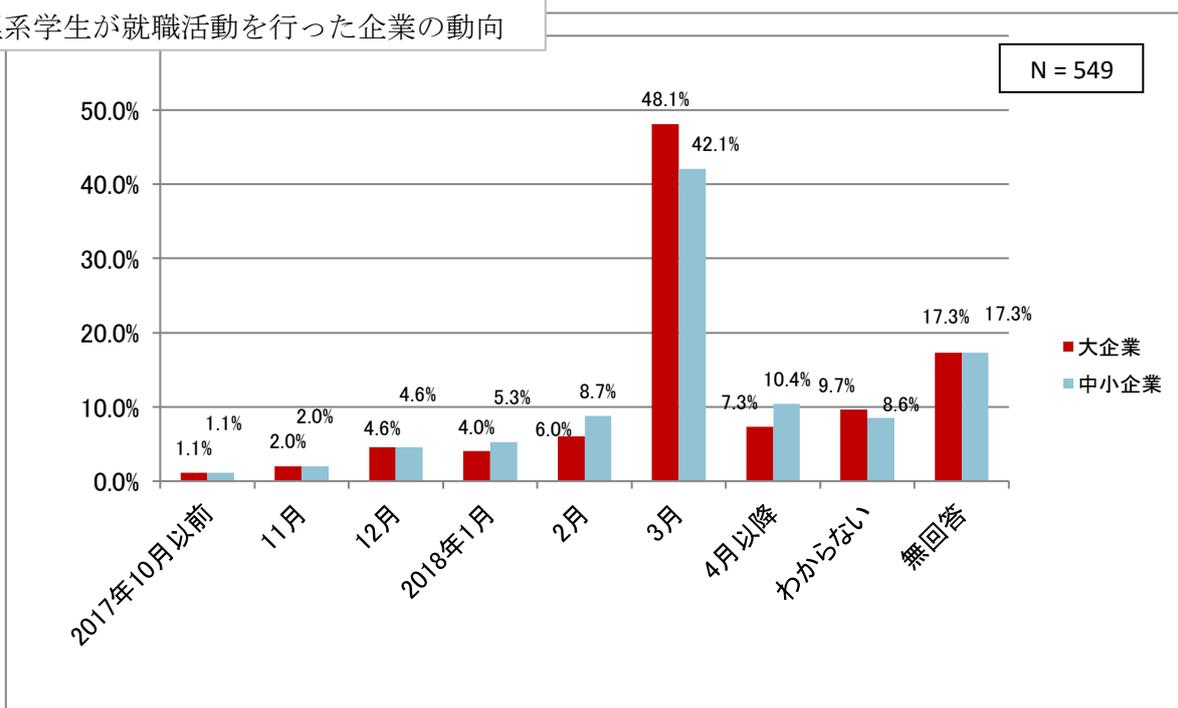
学生の文理別についてみると、企業の広報活動開始を3月以降と認識している大学の割合は以下の通りであった。

文系学生が就職活動を行った企業： 大企業 67.6% (▲10.0ポイント)
 中小企業 65.8% (▲5.6ポイント)
 理系学生が就職活動を行った企業： 大企業 55.4% (▲5.7ポイント)
 中小企業 52.5% (▲4.1ポイント)

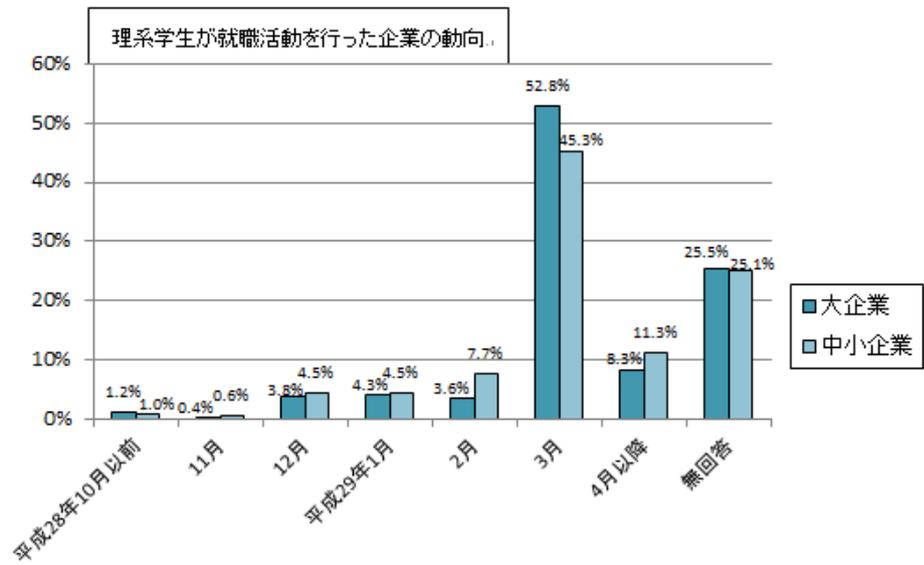
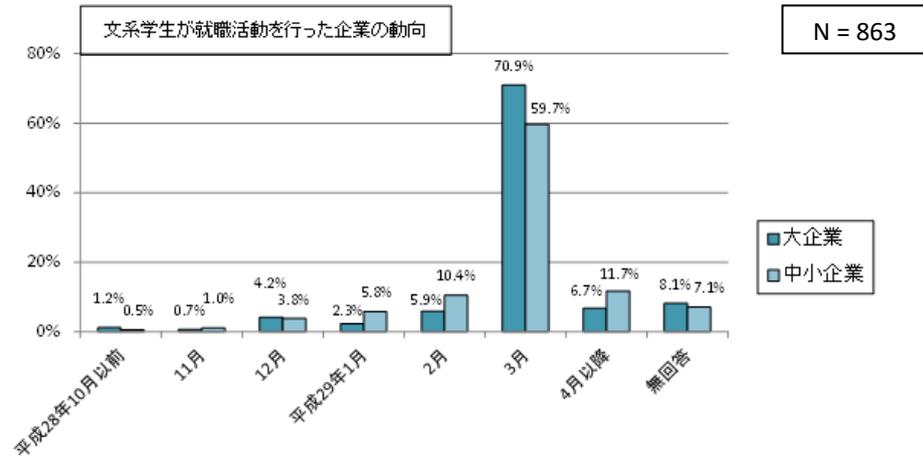
文系学生が就職活動を行った企業の動向



理系学生が就職活動を行った企業の動向



【参考：昨年度調査】

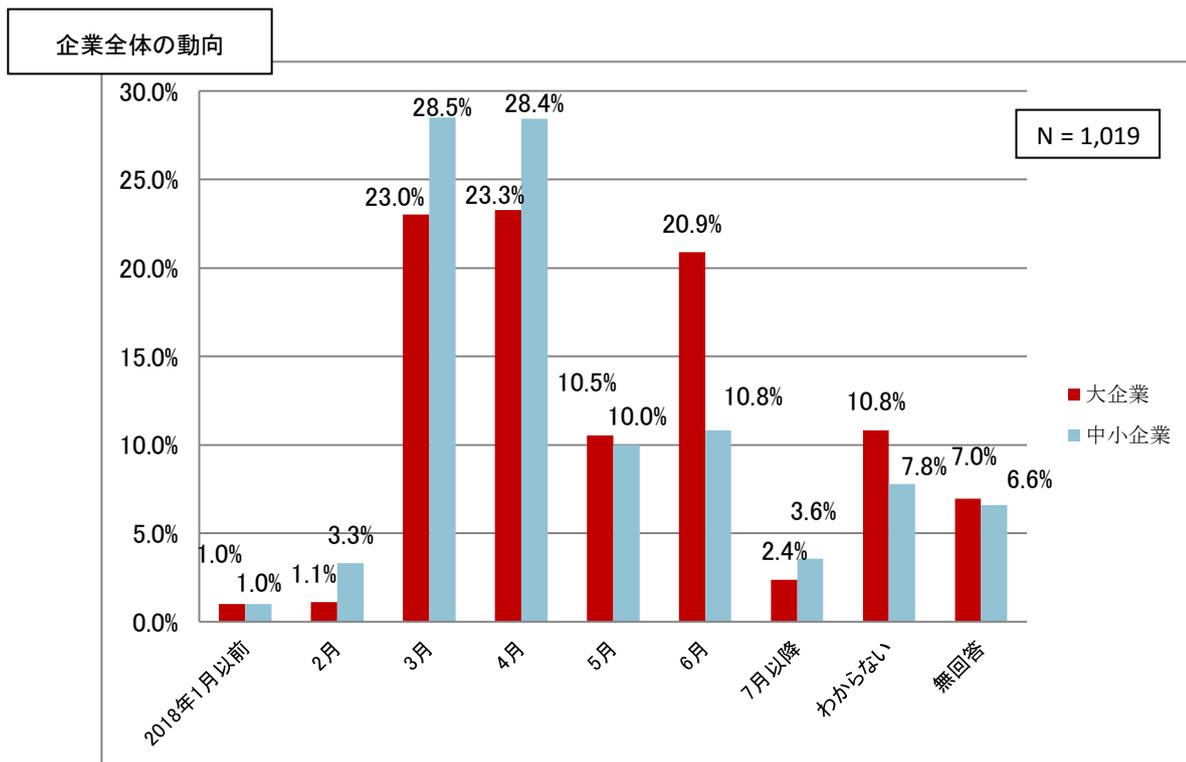


< (2) 採用選考活動開始時期 >

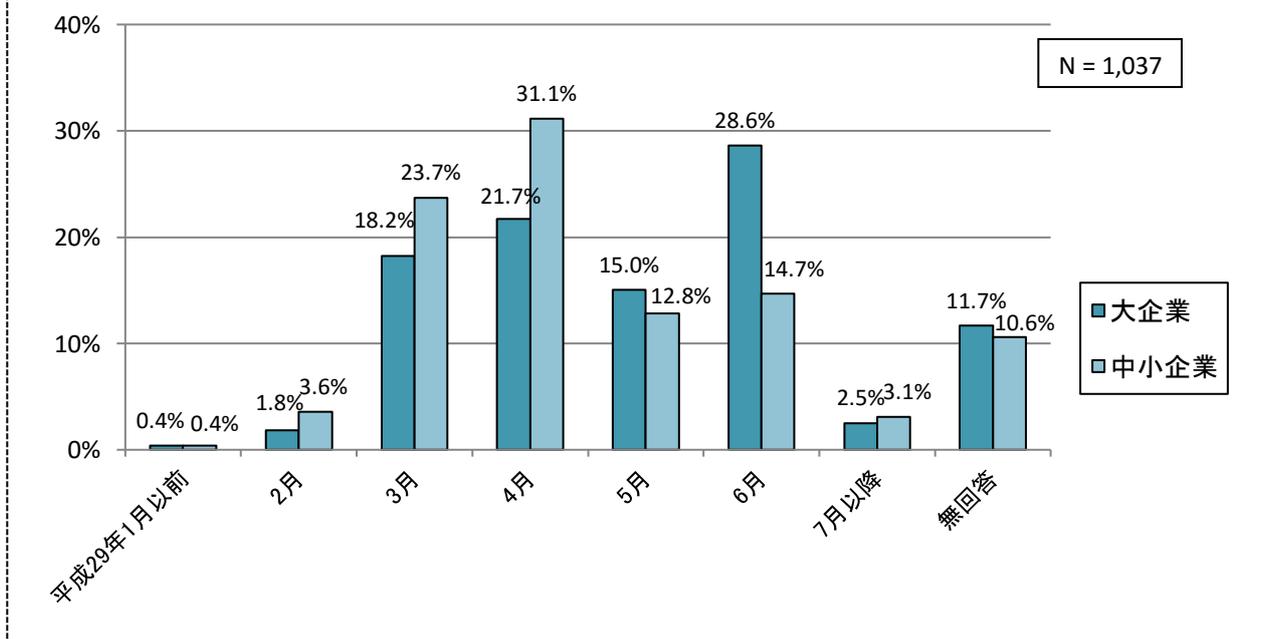
○学生が就職活動を行った企業について、企業が採用選考活動を開始した時期を尋ねたところ、大企業については「4月」と回答した大学等が23.3%と最も多く、6月以降という割合は23.3%であった。また、中小企業については「3月」が28.5%と最も多く、14.4%の大学等が6月以降に開始と回答した。

○昨年度の調査と比較すると、6月以降と認識している大学等の割合は大企業について、7.8ポイント減少し、中小企業については3.4ポイント減少した。

【多くの企業が採用選考活動を開始した時期はいつ頃でしたか】(単一回答)



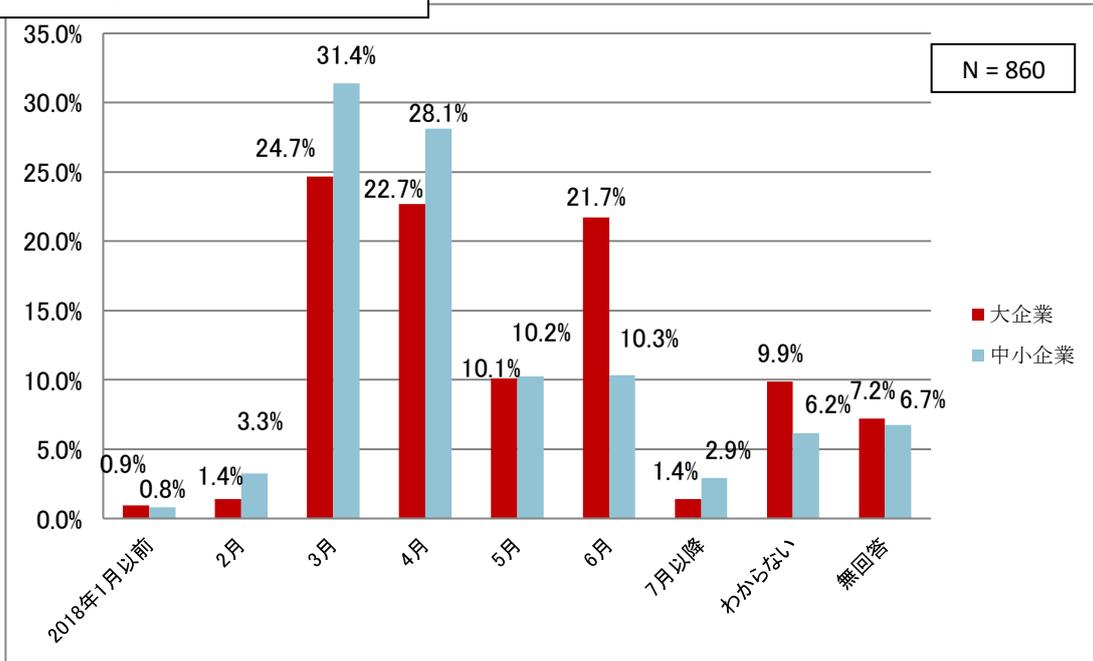
【参考：昨年度調査】



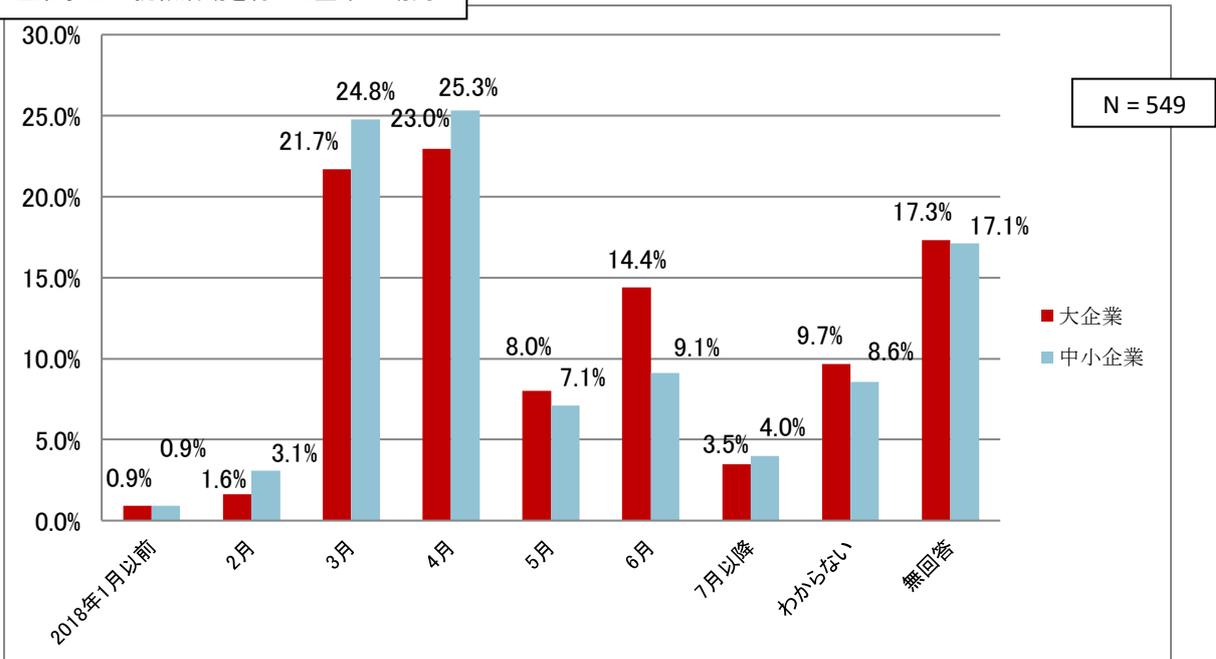
学生の文理別についてみると、企業の採用選考活動開始を6月以降と認識している大学の割合は以下の通りであった。

文系学生が就職活動を行った企業：大企業	23.1%	(▲8.7ポイント)
中小企業	13.2%	(▲4.5ポイント)
理系学生が就職活動を行った企業：大企業	17.9%	(▲6.6ポイント)
中小企業	13.1%	(▲3.7ポイント)

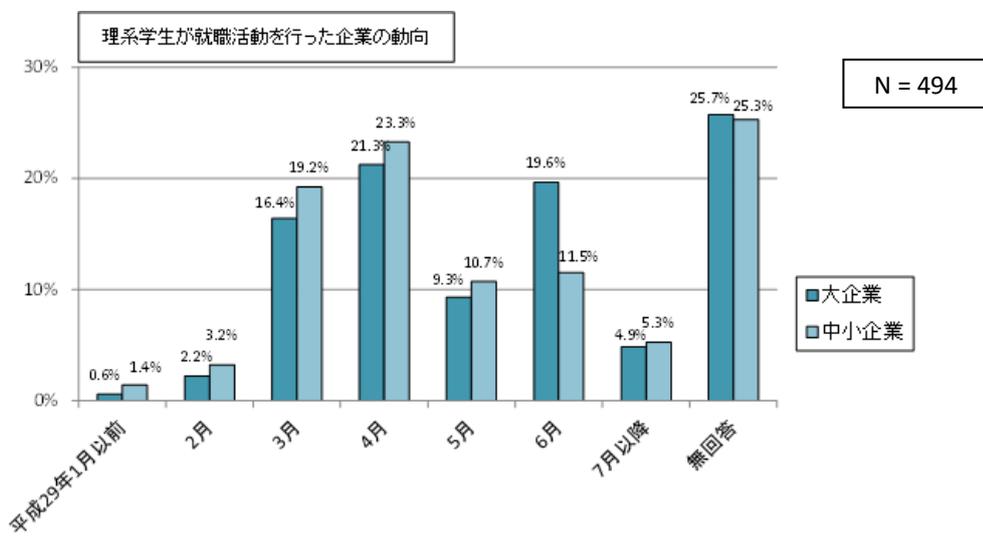
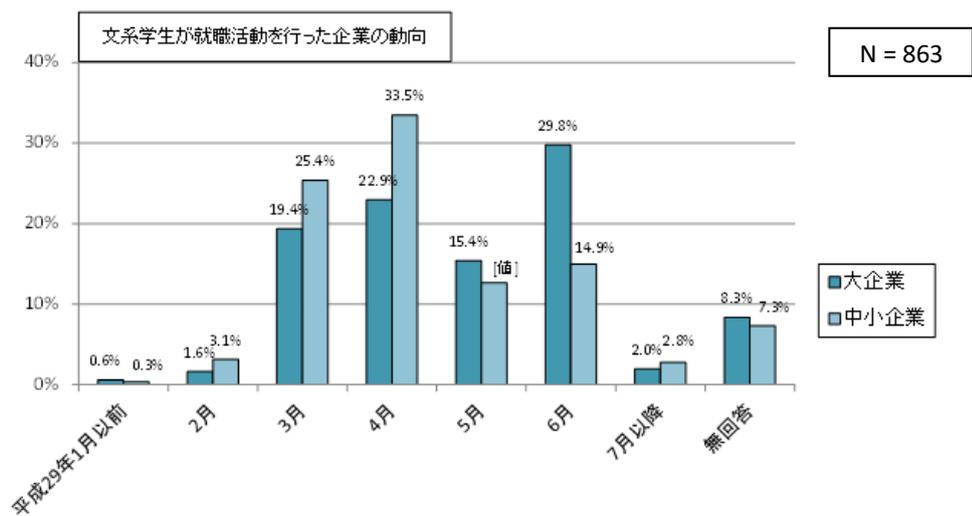
文系学生が就職活動を行った企業の動向



理系学生が就職活動を行った企業の動向



【参考：昨年度調査】

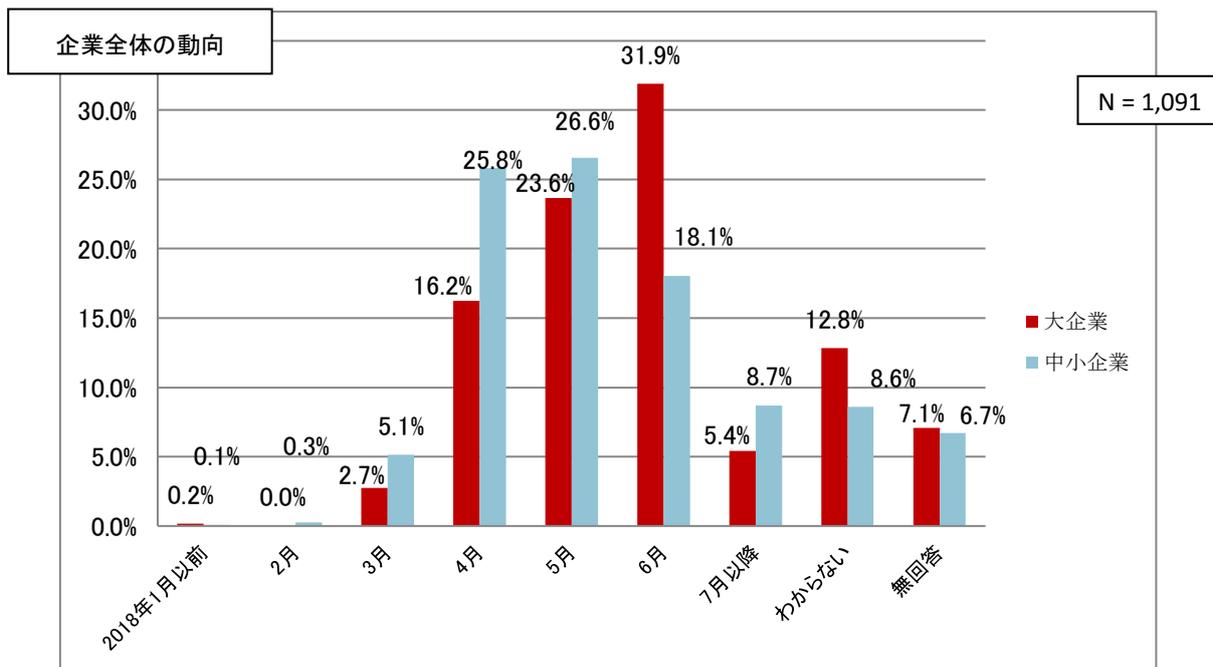


< (3) 採用面接のピーク >

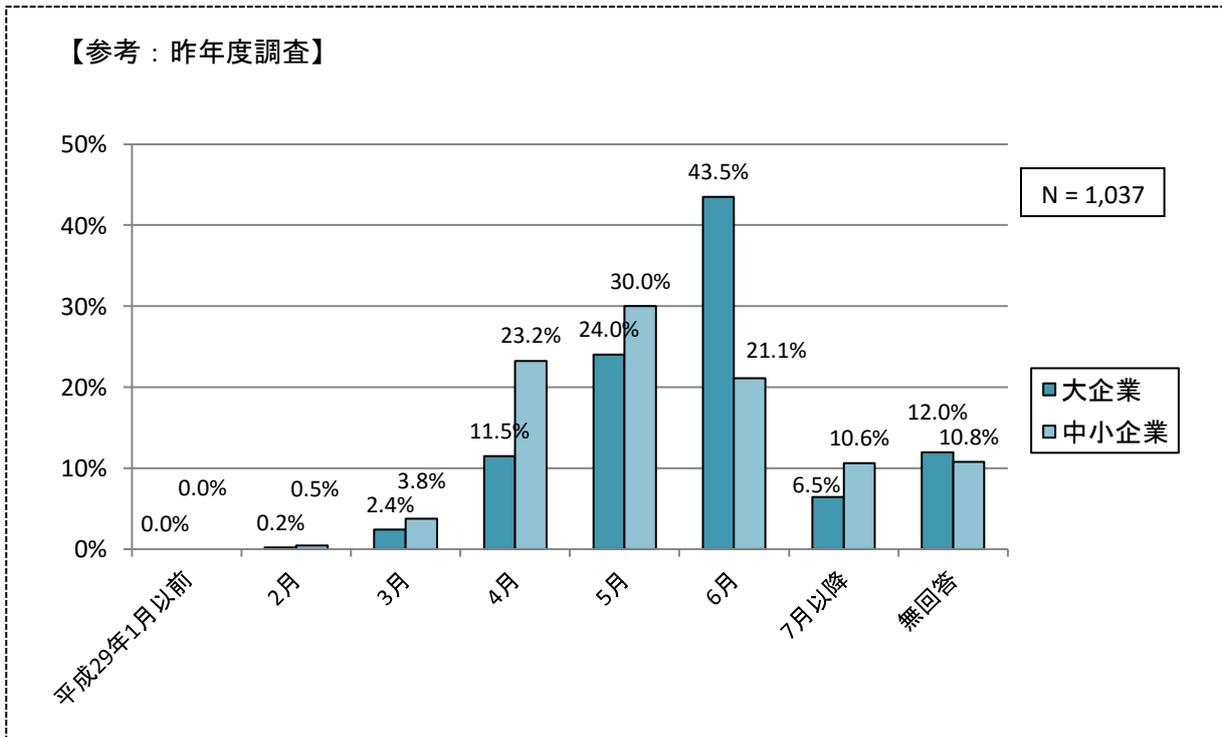
○学生が就職活動を行った企業について、多くの企業の採用面接のピークを尋ねたところ、大企業については「2018年6月」と回答した大学等が31.9%と最も多く、続いて「5月」(23.6%)、「4月」(16.2%)であった。また、中小企業については「2018年5月」が26.6%と最も多く、続いて「4月」(25.8%)、「6月」(18.1%)であった。

○なお、昨年度の調査と比較すると採用面接のピーク時期については、大企業は6月で、中小企業は4月～5月という傾向はかわらない。

【企業において、採用面接を実施した時期のピークは概ねいつ頃でしたか。】(単一回答)

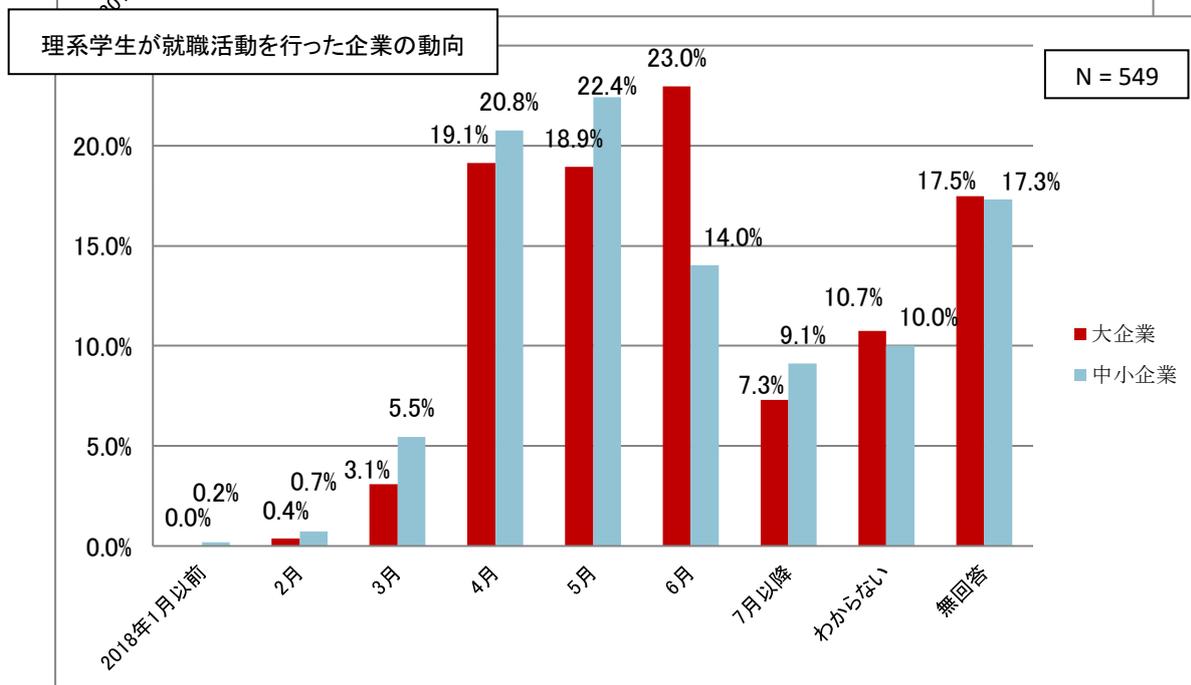
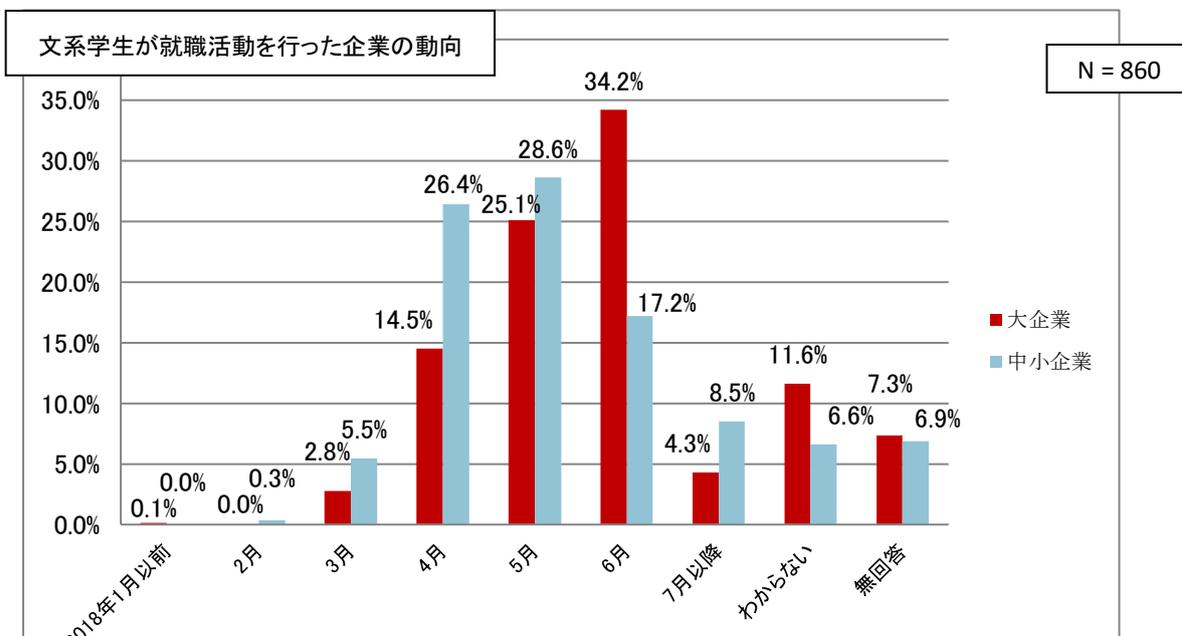


【参考：昨年度調査】

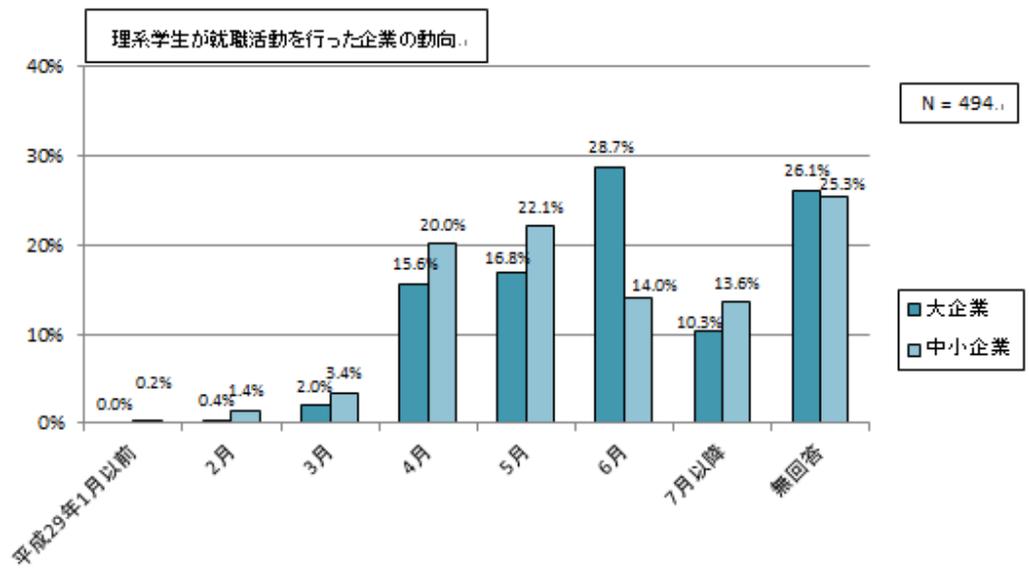
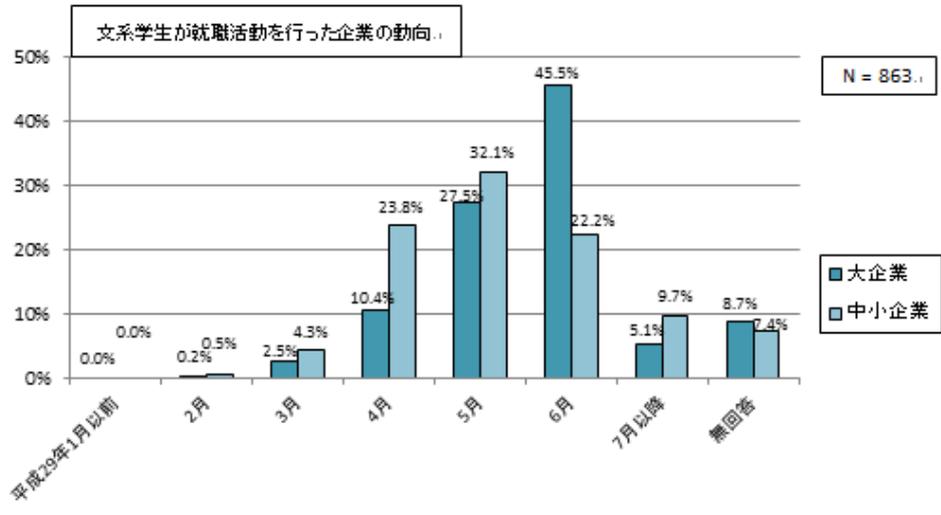


○学生の文理別にみると、採用面接のピーク時期として最も多い回答は以下のとおりであった。

文系学生が就職活動を行った企業：大企業 2018年6月（34.2%）
 中小企業 2018年5月（28.6%）
 理系学生が就職活動を行った企業：大企業 2018年6月（23.0%）
 中小企業 2018年5月（22.4%）



【参考：昨年度調査】

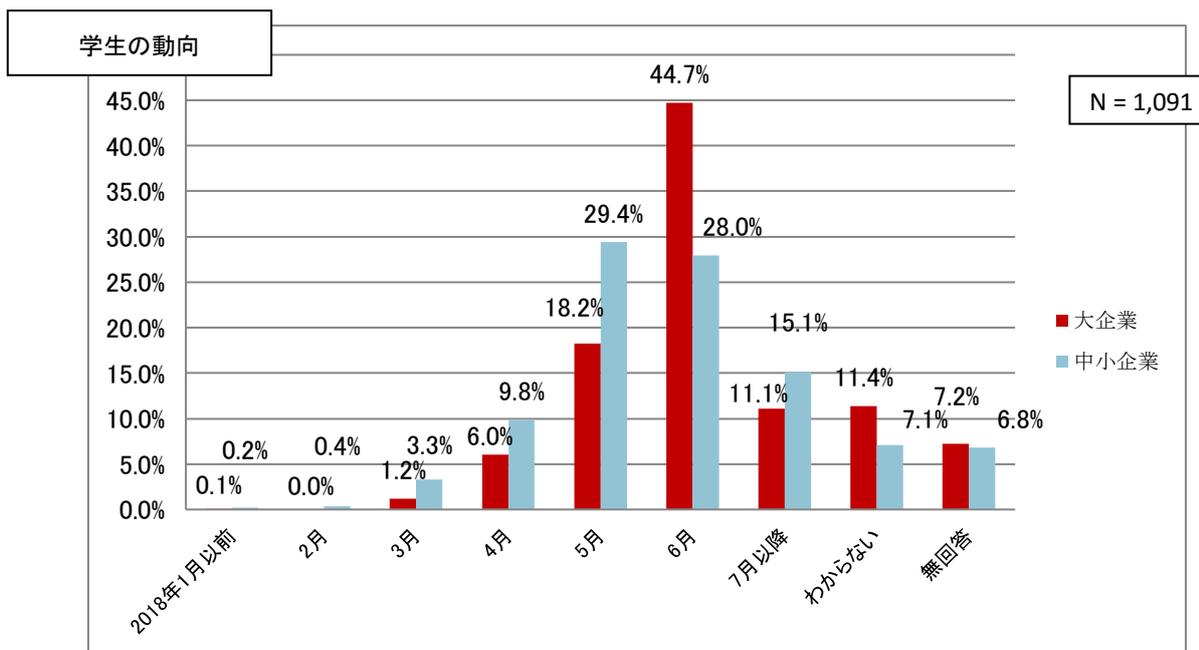


< (4) 学生が内々定を得た時期 >

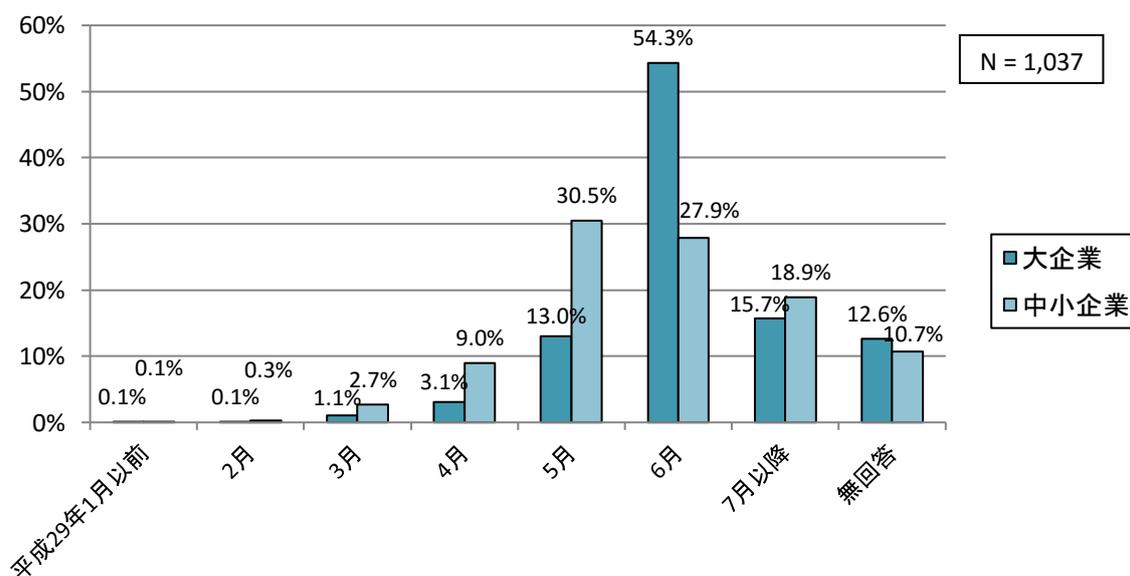
○多くの学生が企業から最初に内々定を得た時期を尋ねたところ、大企業については、「2018年6月」と回答した大学等が44.7%と最も多く、続いて、「5月」(18.2%)、「わからない」(11.4%)であった。また、中小企業については「2018年5月」と回答した大学等が29.4%と最も多く、続いて「6月」(28.0%)、「7月以降」(15.1%)であった。

○なお、昨年度の調査と比較すると、6月以降に学生が内々定を得たと回答した大学等の割合は、大企業が55.8%で14.2ポイント減、中小企業が43.1%でポイント3.7ポイント減であった。

【多くの学生が最初に内々定を得た時期は概ねいつ頃ですか】(単一回答)



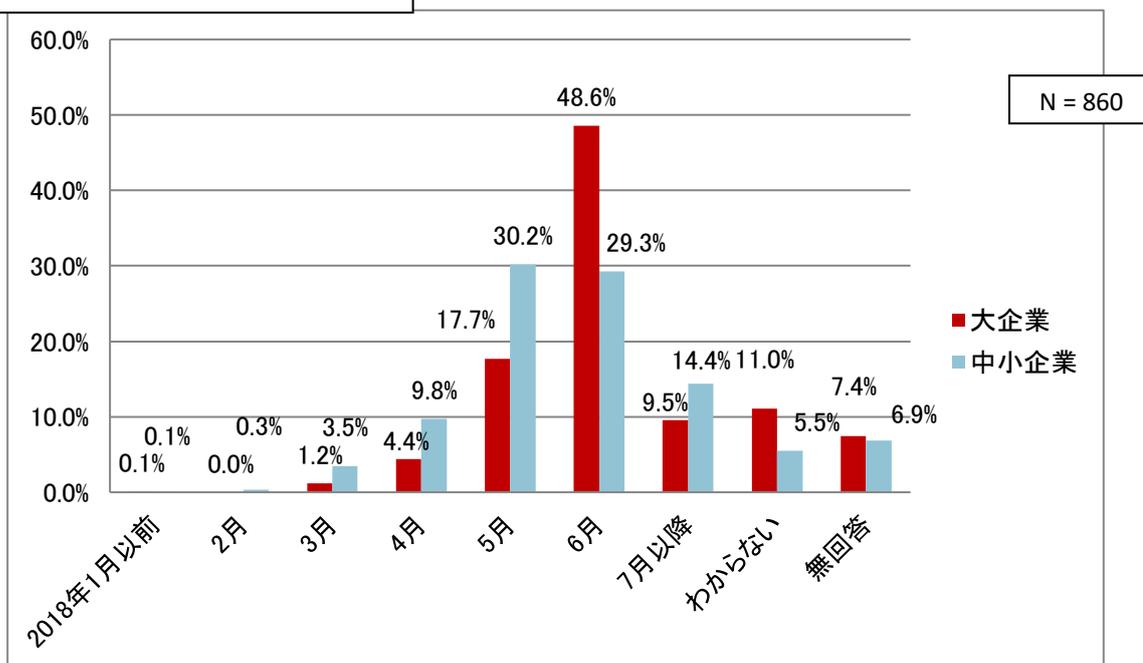
【参考：昨年度調査】



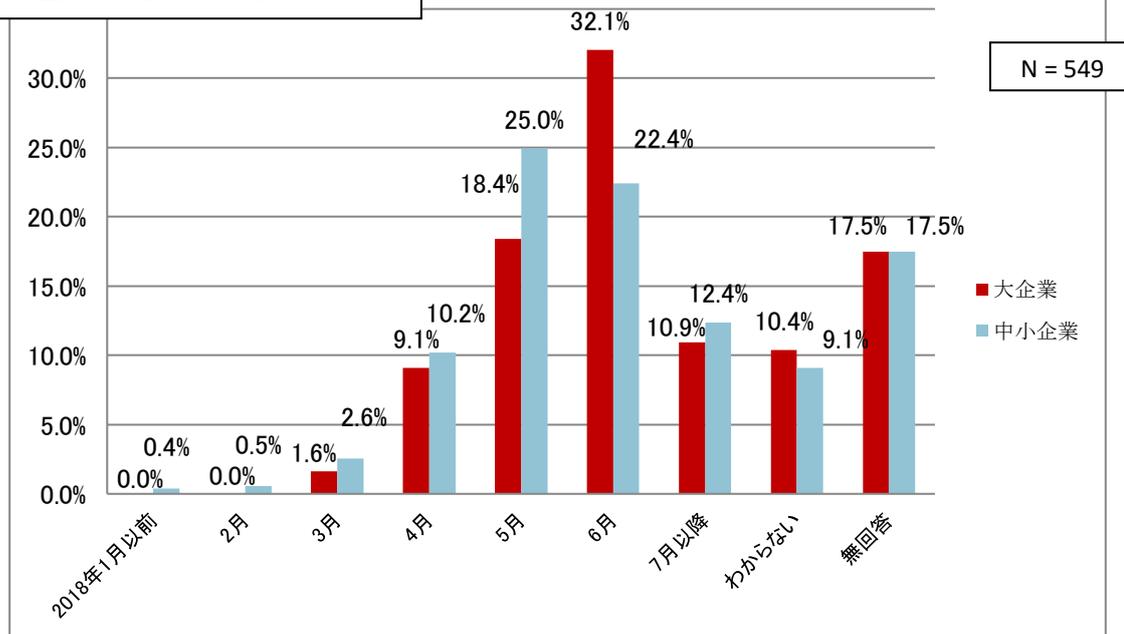
○学生の文理別にみると、6月以降に学生は内々定を得たという回答した大学等は以下のとおり。

文系学生： 大企業 58.1% (▲14.7ポイント)
 中小企業 43.7% (▲4.7ポイント)
 理系学生： 大企業 43.0% (▲11.1ポイント)
 中小企業 34.8% (▲1.4ポイント)

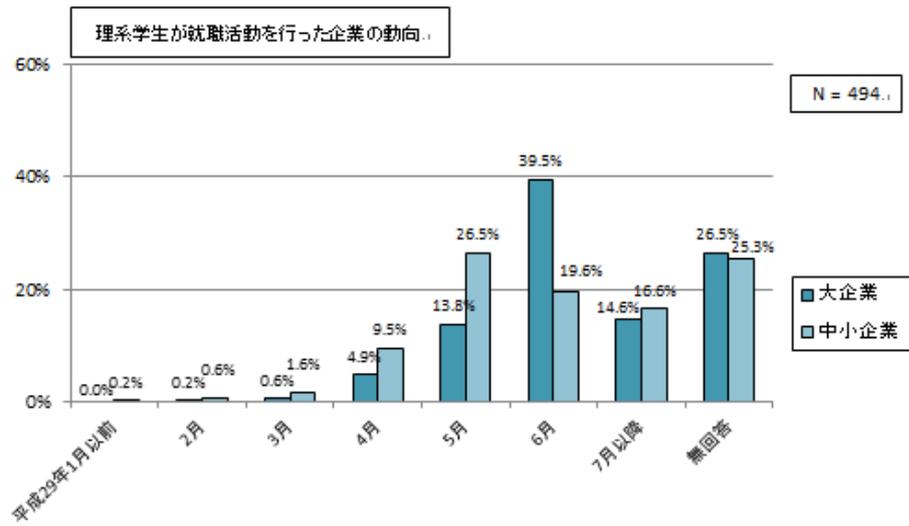
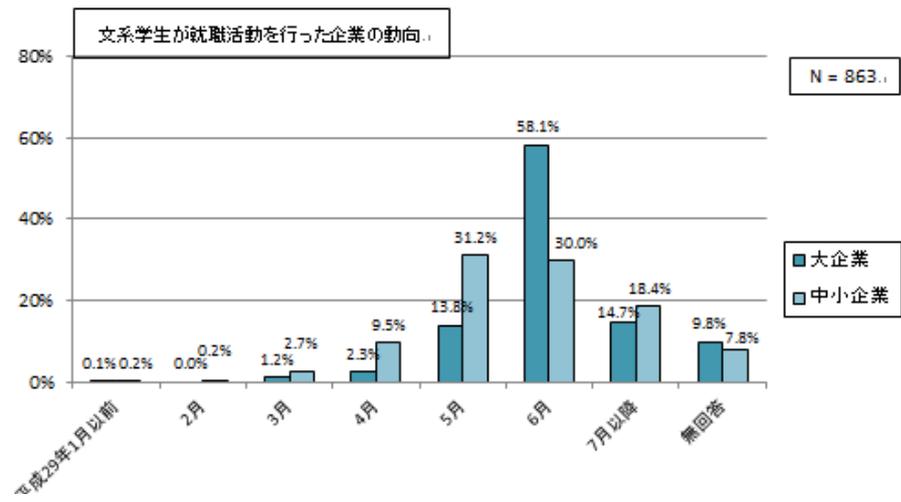
文系学生が就職活動を行った企業の動向



理系学生が就職活動を行った企業の動向



【参考：昨年度調査】

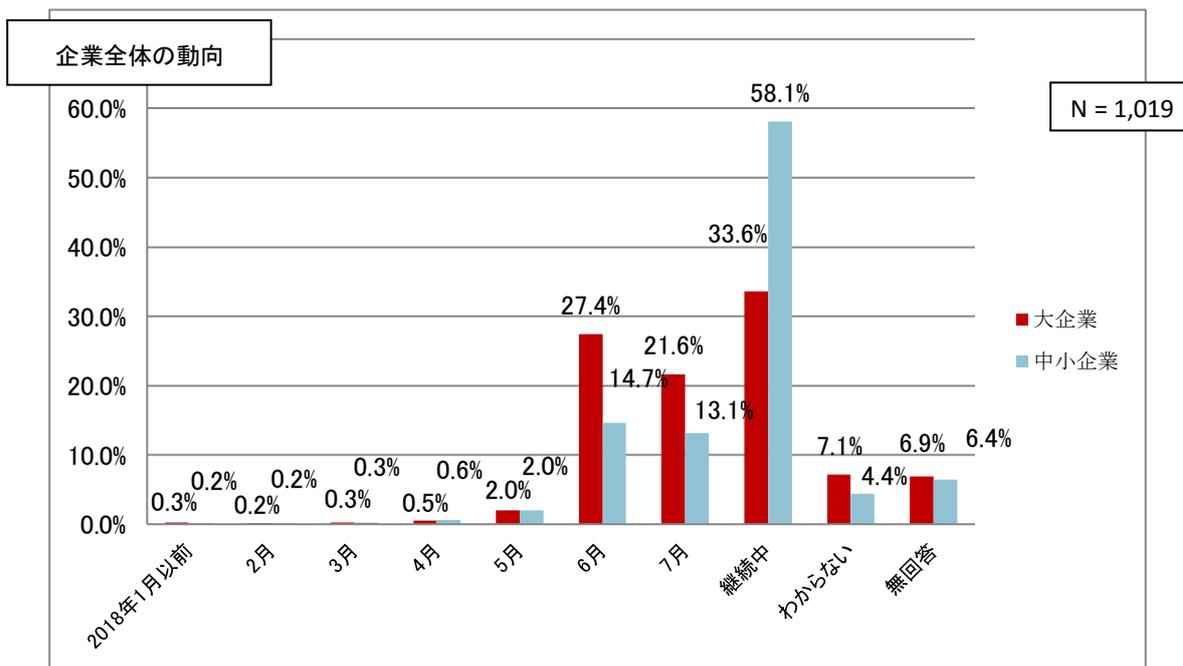


< (5) 学生が就職活動を終了した時期 >

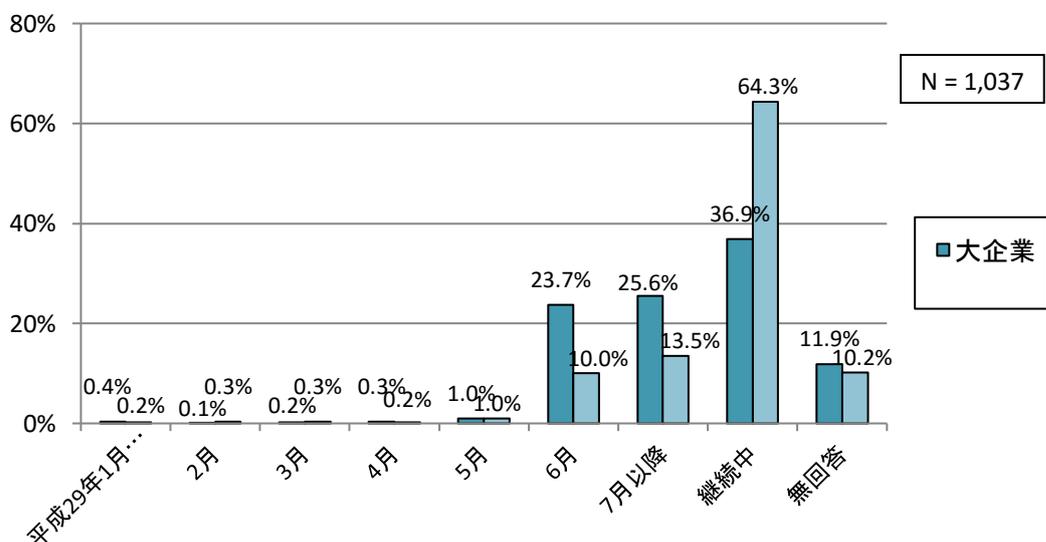
○学生が就職活動を終了した時期について、大企業については、「継続中」(33.6%)と回答した大学等が最も多く、続いて「6月」(27.4%)、「7月以降」(21.6%)であった。また、中小企業については「継続中」(58.1%)と回答した企業が最も多く、続いて「6月」(14.7%)、「7月以降」(13.1%)であった。

○昨年度と比較すると、継続中と回答した割合は大企業は3.3ポイント減少し、中小企業は6.2ポイント減少した。

【多くの学生が就職活動を終了した時期はいつ頃ですか】(単一回答)

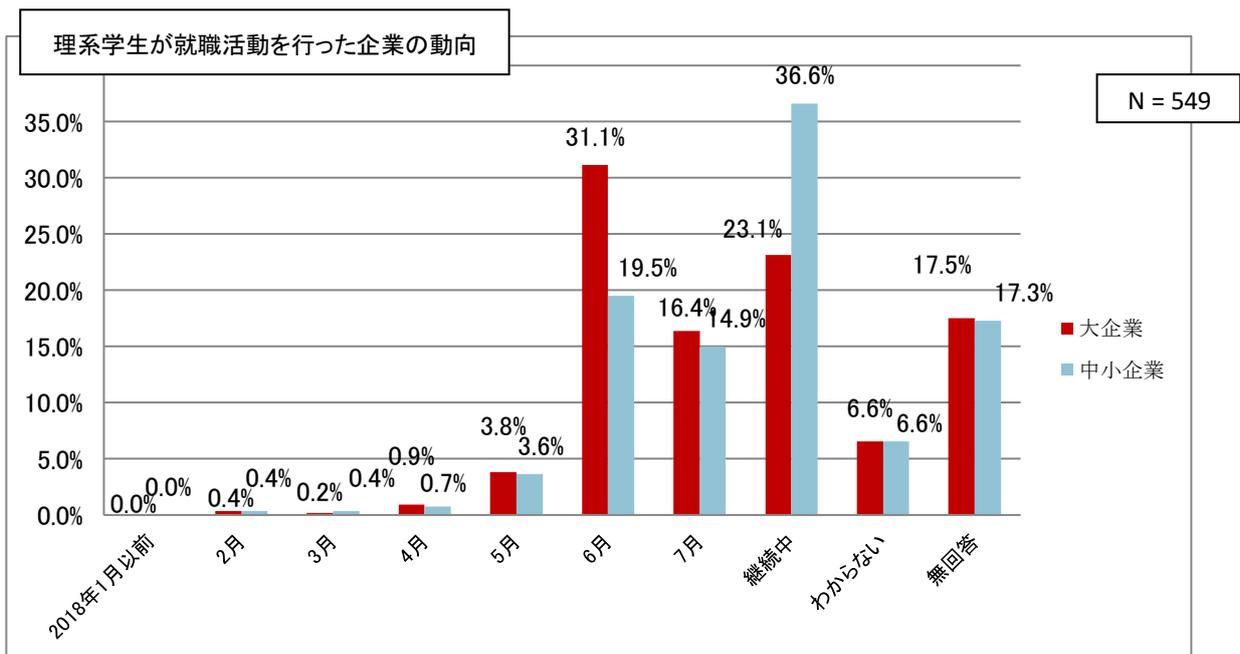
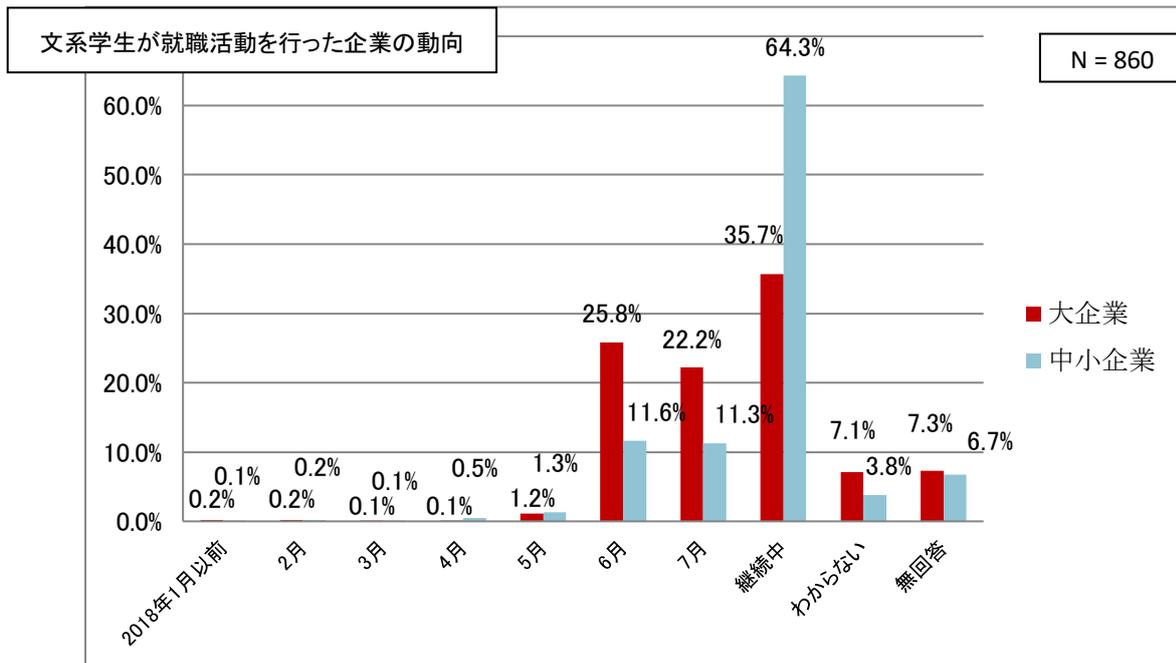


【参考：昨年度調査】

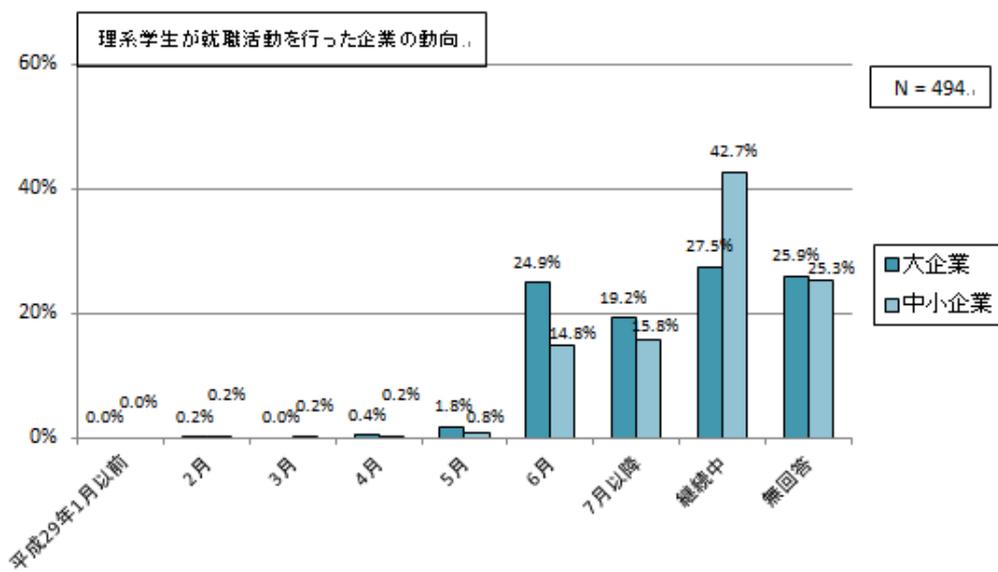
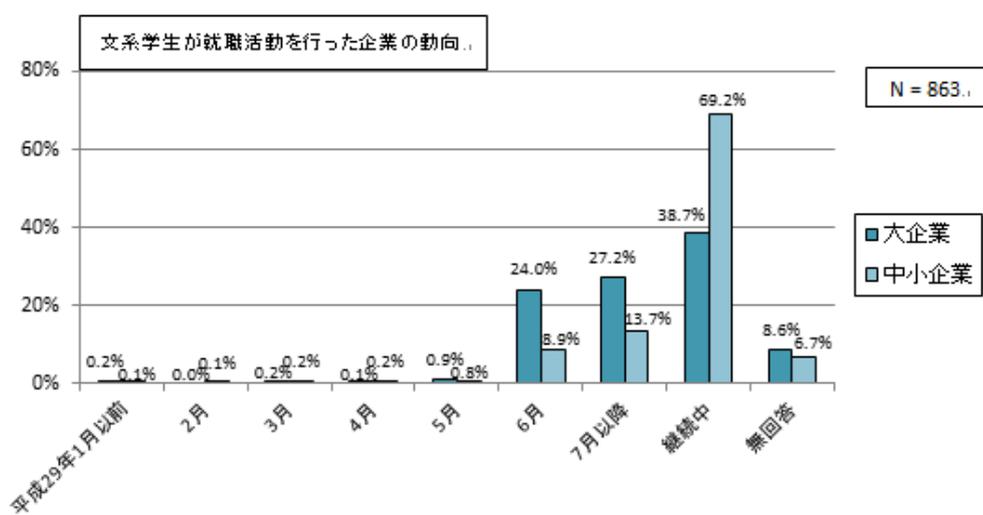


○文理別にみると、就職活動を継続中とした回答の割合は以下の通りであった。

文系学生：大企業 35.7% (▲3.0ポイント)
 中小企業 64.3% (▲4.9ポイント)
 理系学生：大企業 23.1% (▲4.4ポイント)
 中小企業 36.6% (▲6.1ポイント)



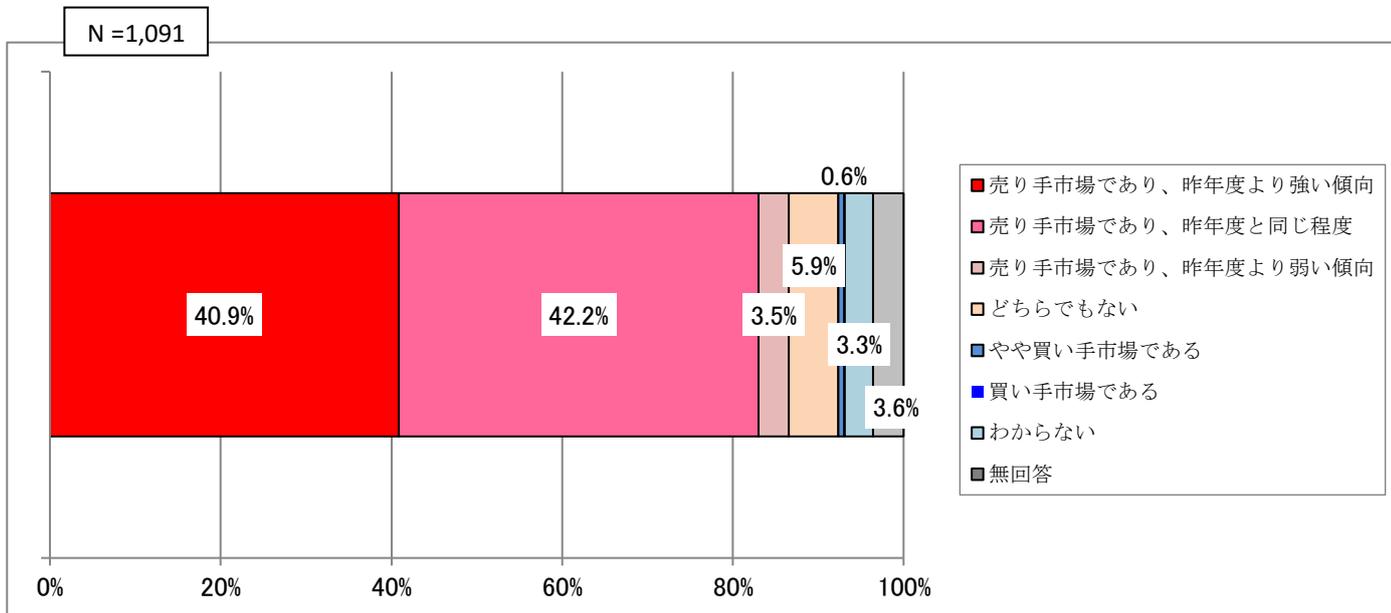
【参考：昨年度調査】



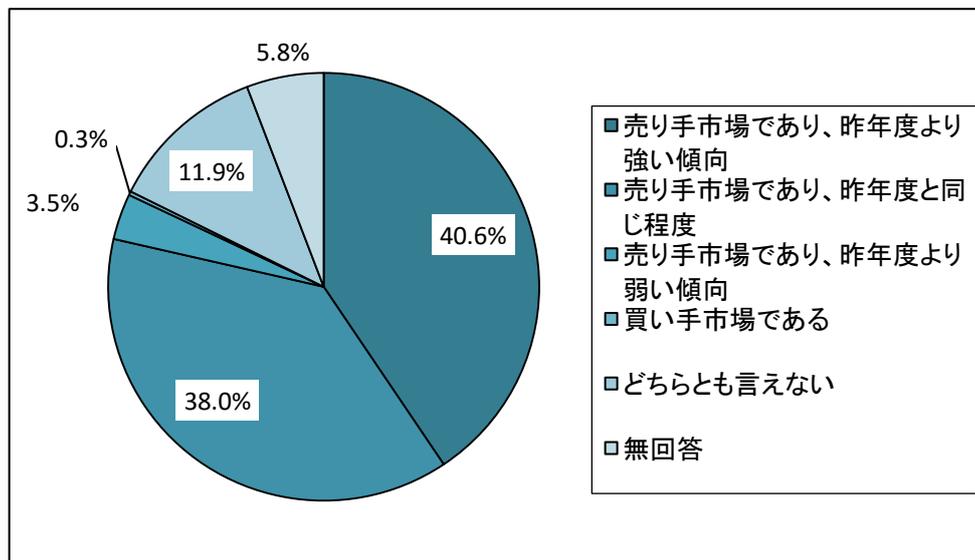
< (6) 本年度の就職・採用活動の状況 >

○本年度の就職・採用状況について尋ねたところ、「売り手市場であり、昨年度より強い傾向」と回答した大学等が40.9%と最も多く、売り手市場という回答の合計は86.6%となった。
 ○昨年度と比較すると「売り手市場」の回答割合は4.5ポイント高くなっている。

【本年度の就職・採用市場は全体として、売り手市場ですか、買い手市場ですか】(単一回答)



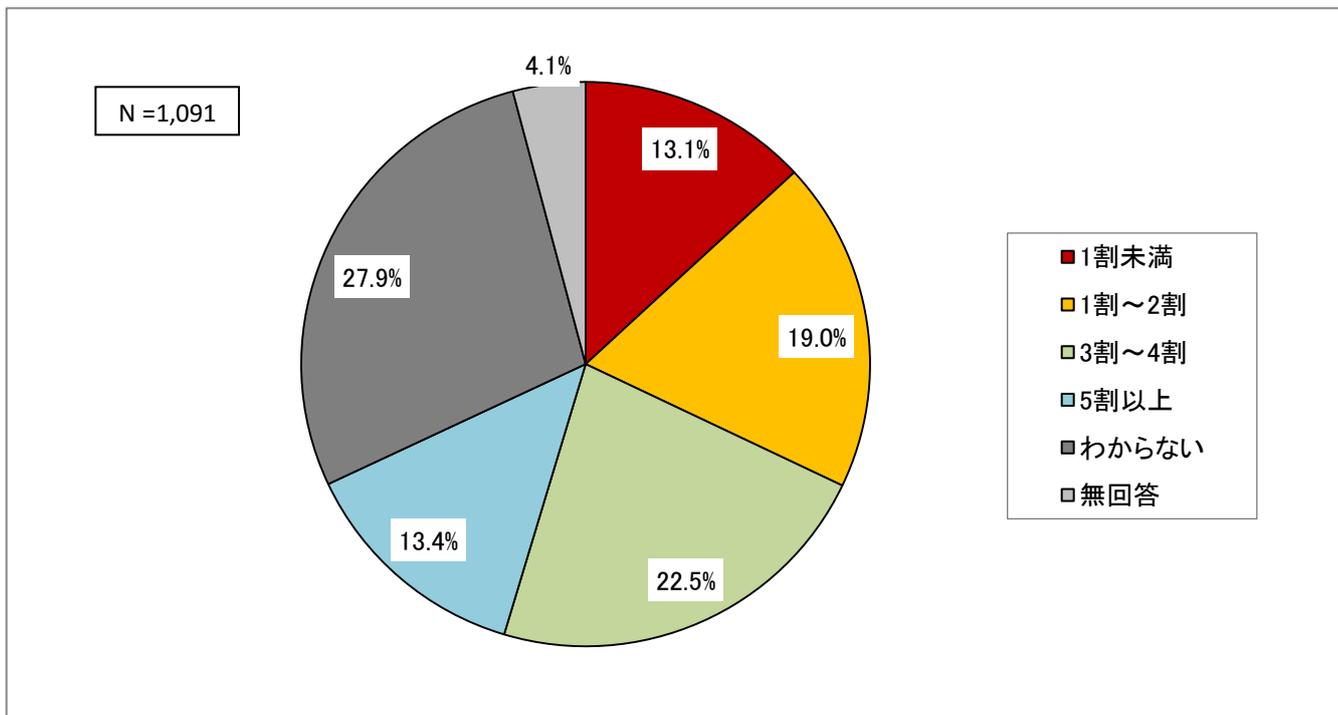
【参考：昨年度調査】 N=1005



< (7) 夏季・秋季の採用選考活動の状況 >

○本年度の就職・採用活動において、夏季・秋季から開始される採用選考活動を行う企業は全体のうちの程度の割合か尋ねたところ、「3割～4割」（22.5%）と回答した大学等が最も多く、次いで「1割～2割」（19.0%）であった。

【夏季・秋季から開始される採用選考活動を行う企業は全体のうちの程度の割合ですか】（単一回答）



IV. 就職・採用活動時期と学業等との関係

< (1) 広報活動の開始時期 >

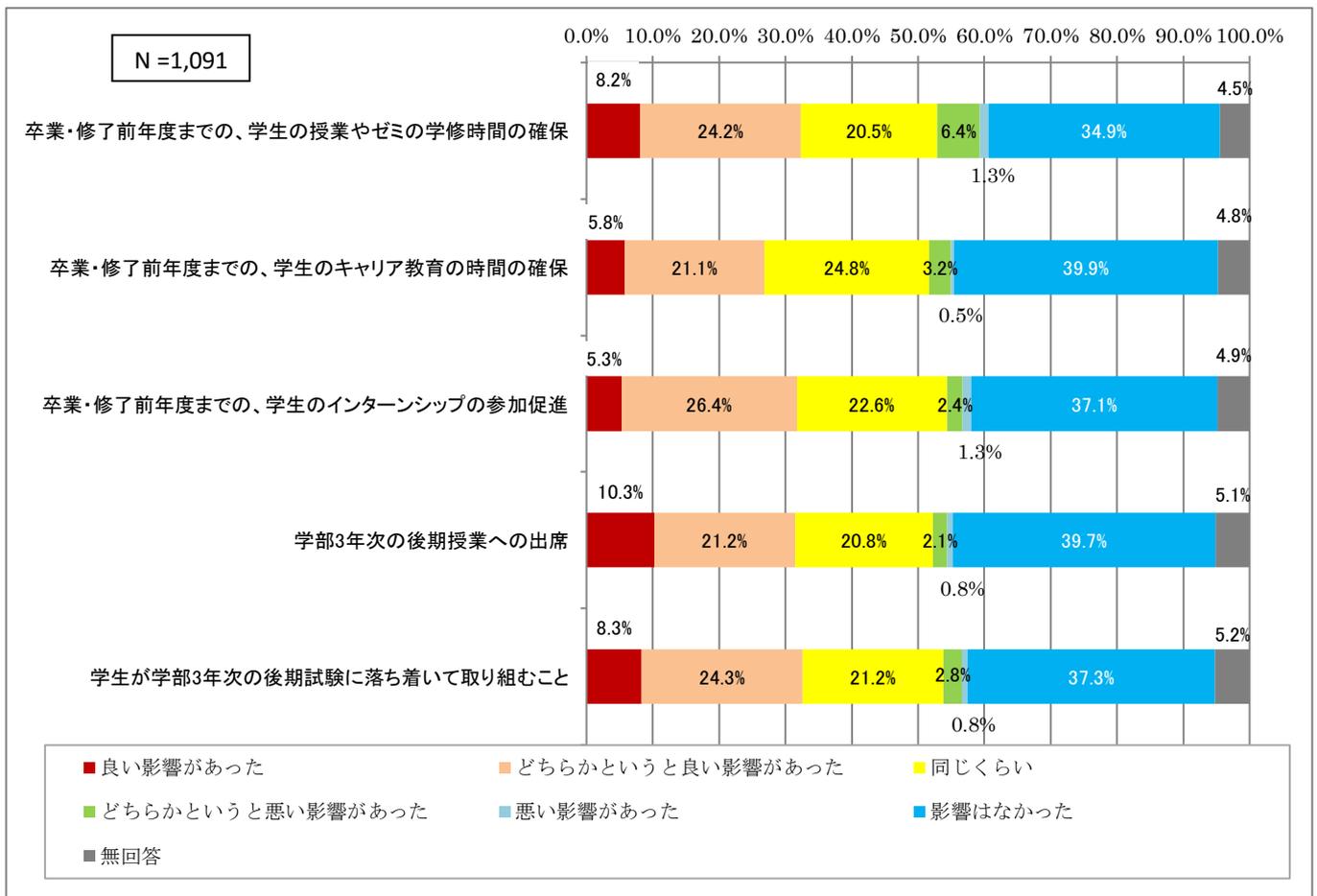
【広報活動の開始時期が卒業・修了前年度の3月1日以降であることについて】

○広報活動開始時期が卒業・修了前年度の3月1日以降となり、就職・採用活動の開始時期の後ろ倒しが続いていることについて、どのような影響があったか尋ねたところ、以下の項目で「良い影響があった」「どちらかというが良い影響があった」と回答した大学等の割合が高かった。

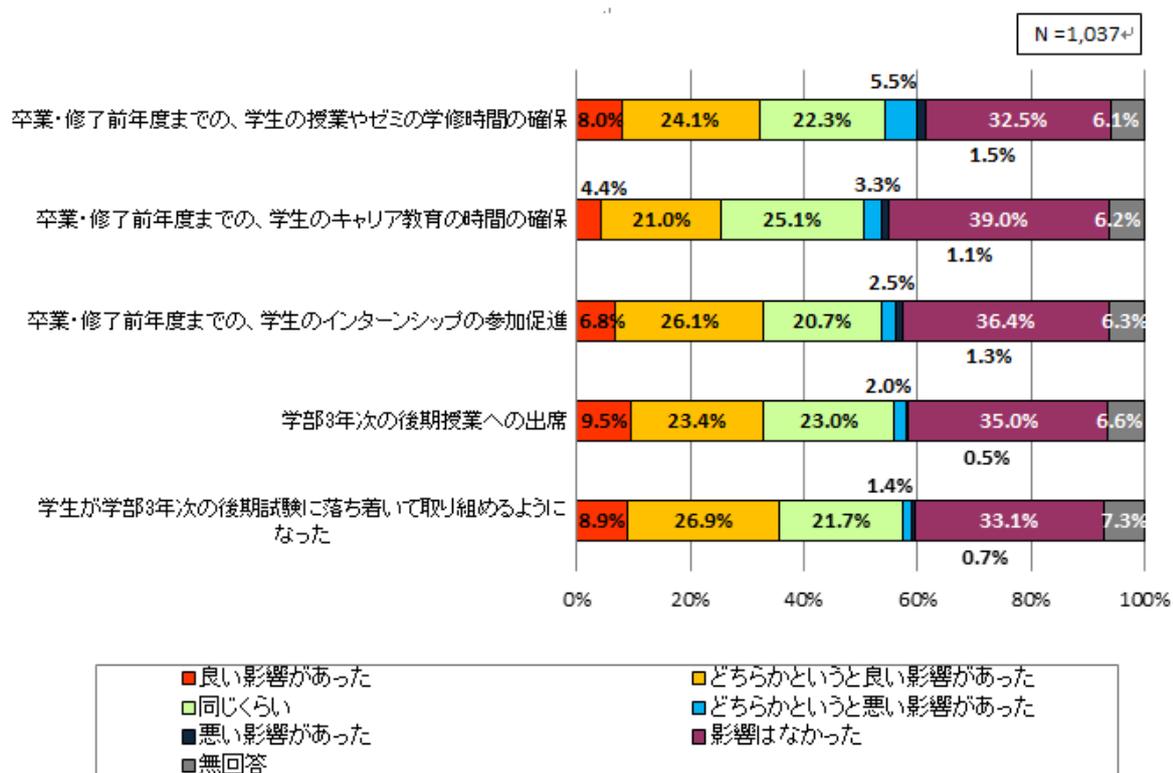
- ・ 学生が学部3年次の後期試験に落ち着いて取り組むこと 32.6%
- ・ 卒業・修了前年度までの、学生の授業やゼミの学修時間の確保 32.4%
- ・ 卒業・修了前年度までの、学生のインターンシップの参加促進 31.7%
- ・ 学部3年次の後期授業への出席 31.5%
- ・ 卒業・修了前年度までの、学生のキャリア教育の時間の確保 26.9%

○昨年度と比較すると、良い影響があったとの回答が、悪い影響があったとの回答を大きく上回っていることは変わらない。

【広報活動開始時期が卒業・修了前年度の3月1日以降となり、就職・採用活動の開始時期の後ろ倒しが続いていることについて、どのような影響がありましたか】(単一回答)



【参考：昨年度調査】



【就職・採用活動の開始時期が昨年度と同じ時期に設定されたことについて】

< (1) 良い影響があったと思うこと >

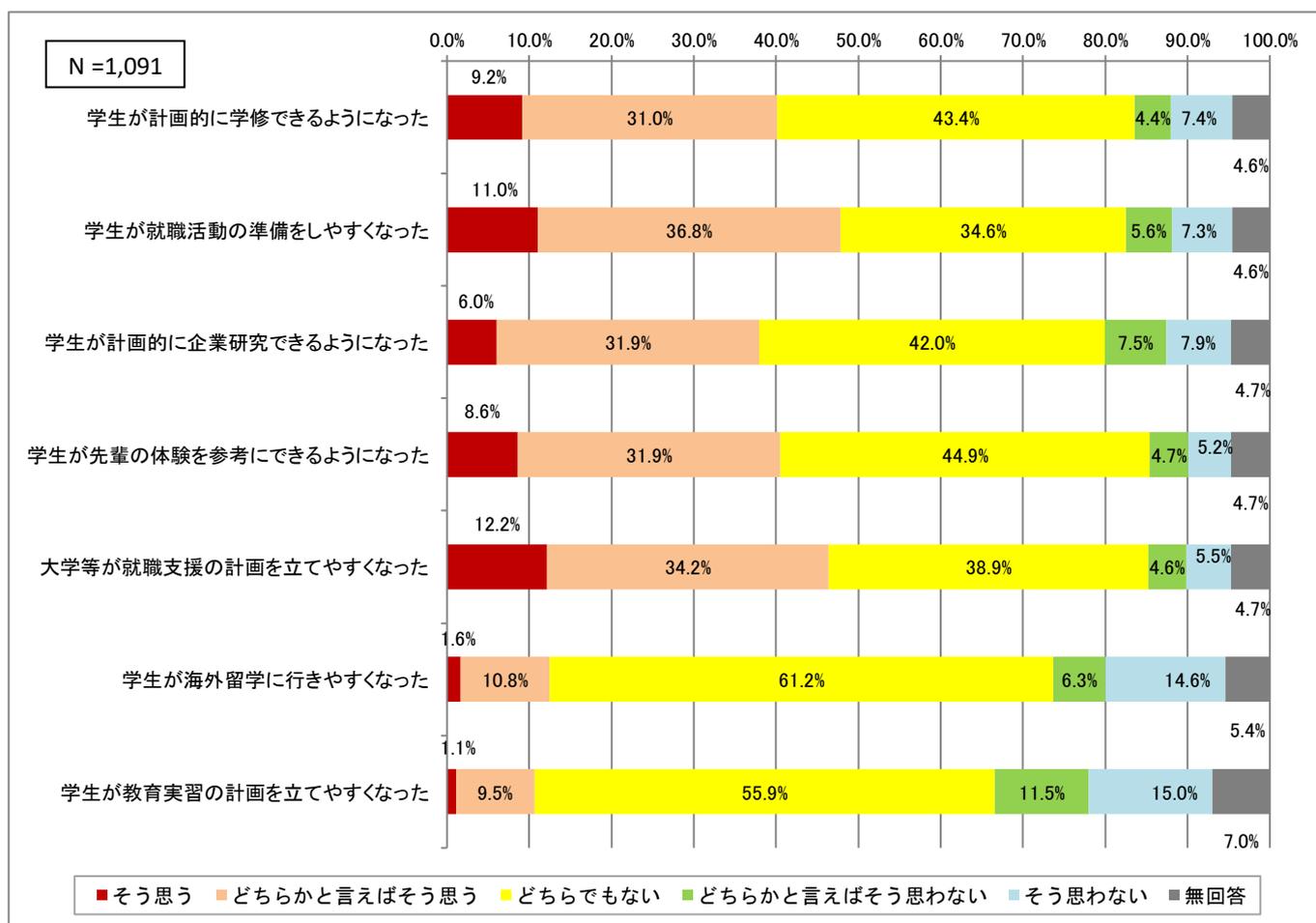
○採用選考活動開始時期が昨年度と同じ時期（広報活動3月1日以降、採用選考活動6月1日以降）に設定されたことについて、大学等への影響を尋ねたところ、以下の項目で「そう思う」「どちらかというと思う」と回答した大学等の割合が高かった。

- ・ 学生が就職活動の準備をしやすくなった（47.8%）
- ・ 大学等が就職支援の計画を立てやすくなった（46.4%）
- ・ 学生が先輩の体験を参考にできるようになった（40.5%）

なお、「学生が計画的に学習できるようになった。」という回答も40.2%と高い割合であった。

【就職・採用活動開始時期が、昨年度と同じ日程（広報活動3月、採用選考活動6月）に設定されたことについて、

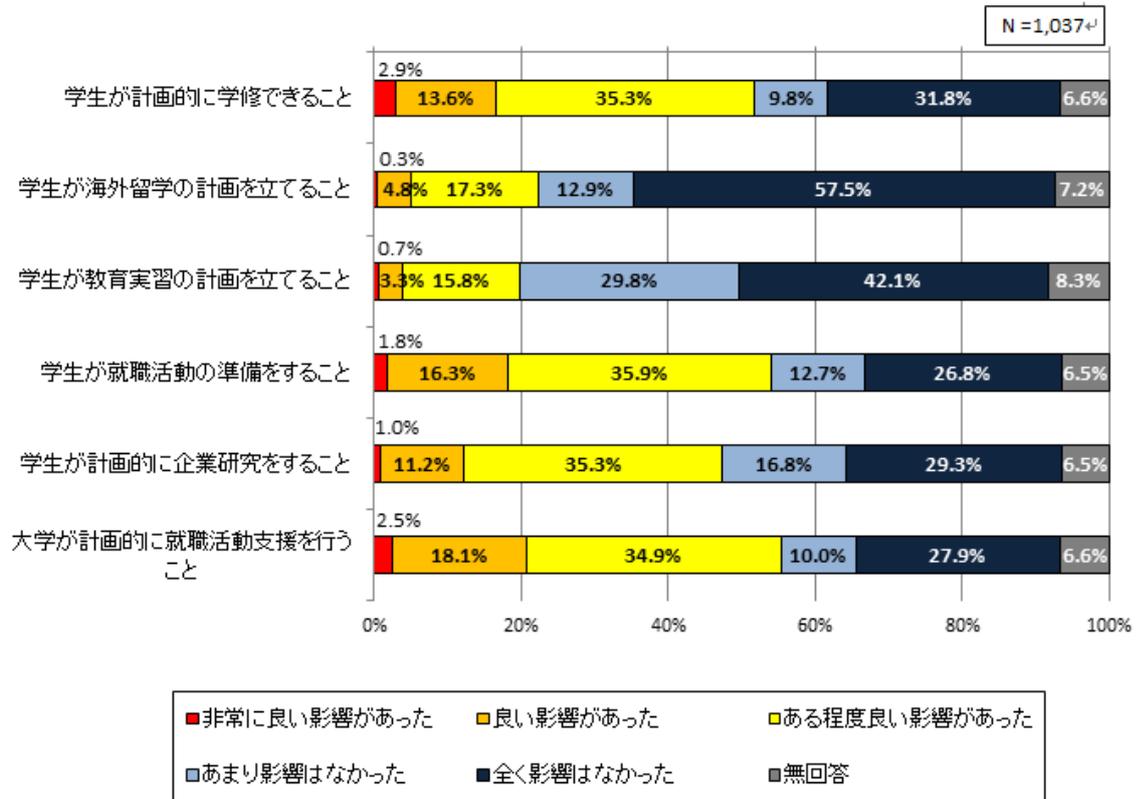
良い影響があったことはどのようなことでしたか】（単一回答）



※項目ごとに一つ選択

【参考：昨年度調査】

※設問の選択肢が異なるため単純に比較はできない。



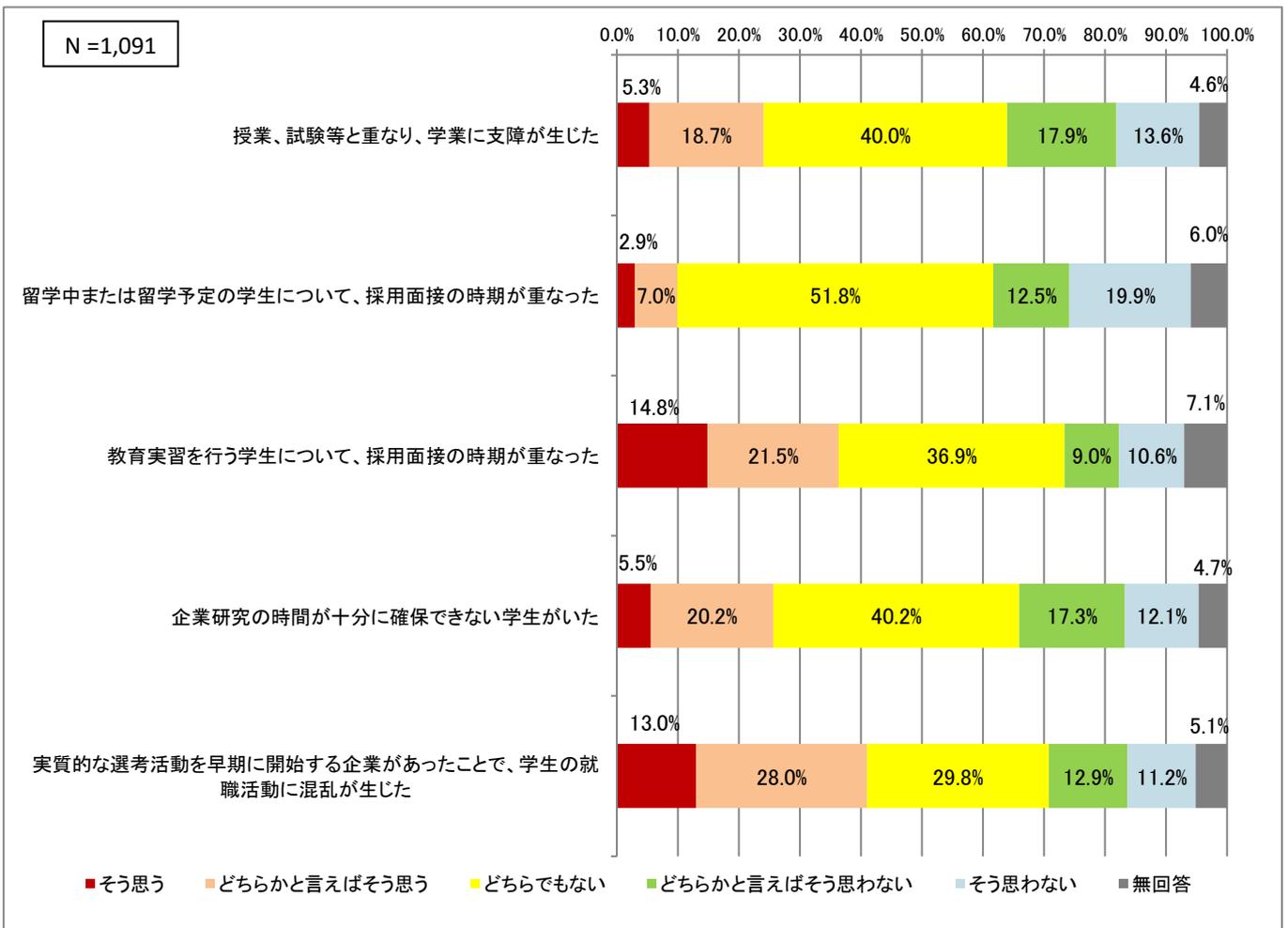
< (2) 課題となったこと >

○就職・採用活動開始時期が昨年度と同じ時期（広報活動3月1日以降、採用選考活動6月1日以降）に設定されたことについて、大学等として課題になったことを尋ねたところ、以下の項目で「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」と回答した大学の割合が高かった。

- ・実質的な選考活動を早期に開始する企業があったことで、学生の就職活動に混乱が生じた（41.0%）
- ・教育実習を行う学生について、採用面接の時期が重なった（36.3%）
- ・企業研究の時間が十分に確保できない学生がいた（25.7%）

【就職・採用活動開始時期が昨年度と同じ日程（広報活動3月、採用選考活動6月）に設定されたことについて課題となったことは何ですか。】

（単一回答）

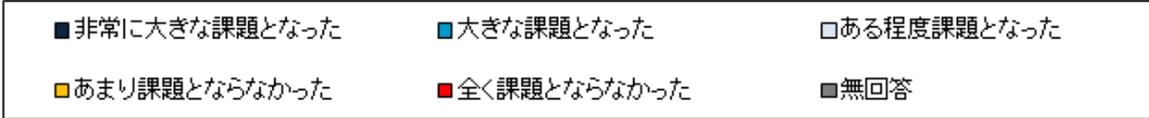
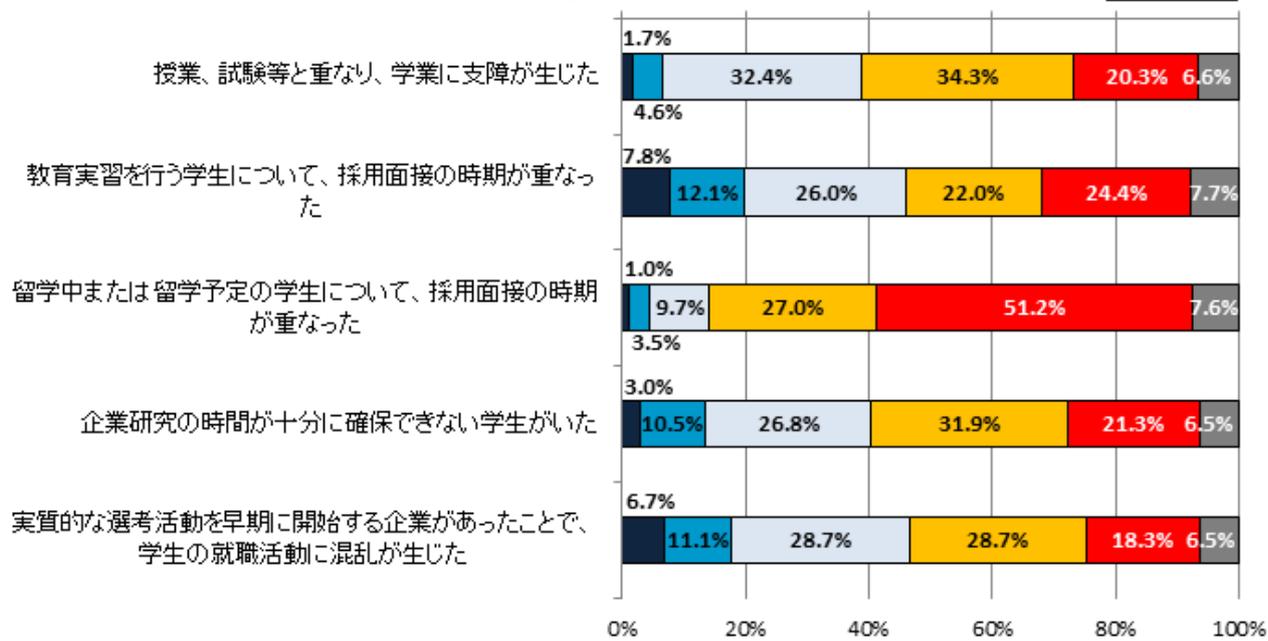


※項目ごとに一つ選択

【参考：昨年度調査】

※設問の選択肢が異なるため単純に比較はできない。

N = 1,037¹⁾

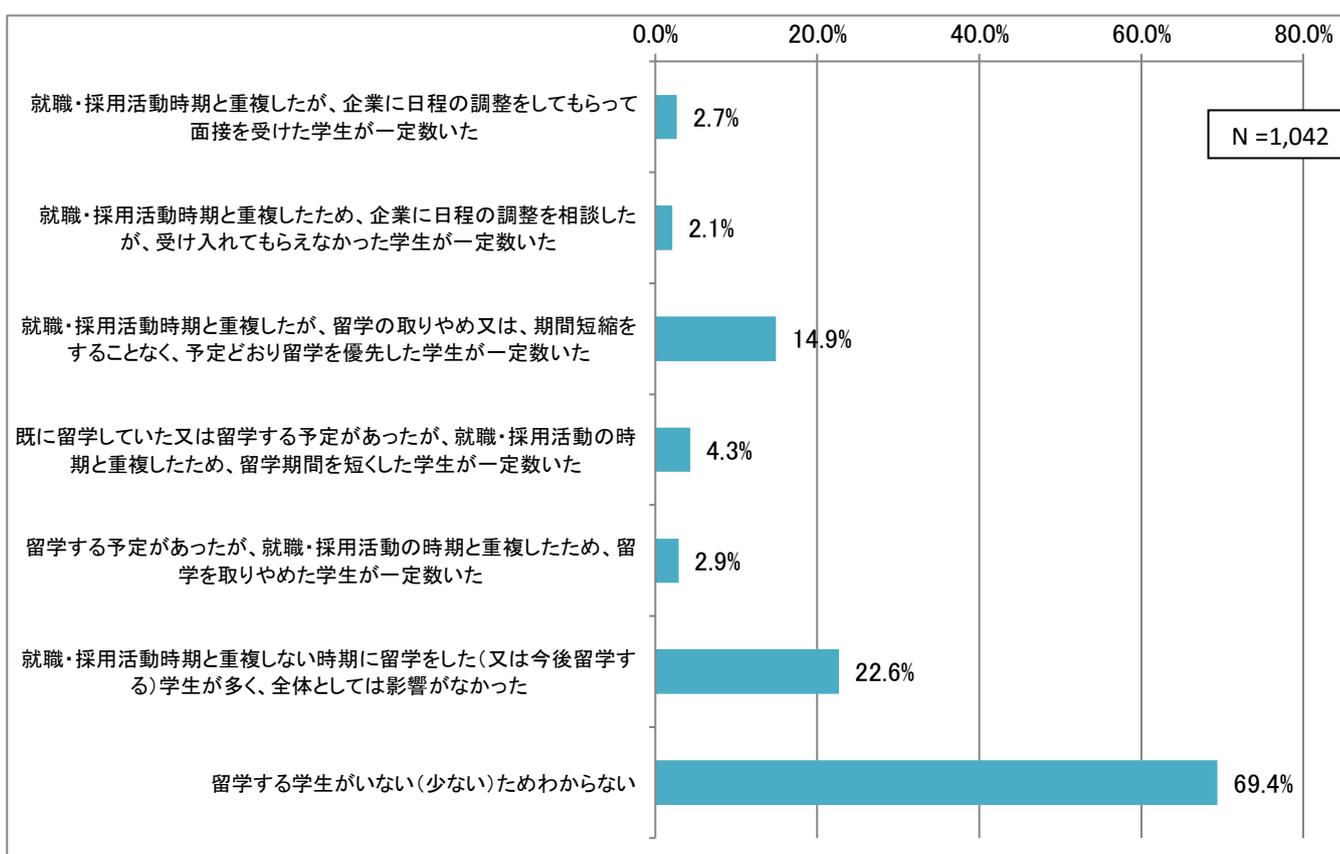


【留学経験者（留学中含む）への影響について】

- 就職・採用活動開始時期が昨年度と同様の時期に設定されたことにより、本年度卒業・修了予定者である学生の留学にどのような影響があったか尋ねたところ、「留学する学生が少ない（少ない）ためわからない」との回答を除けば以下の回答が多かった。
- ・就職・採用活動時期と重複しない時期に留学をした（又は今後留学する）学生が多く、全体としては影響がなかった（22.6%）
- ・就職・採用活動時期と重複したが、留学の取りやめ又は、期間短縮をすることなく、予定どおり留学を優先した学生が一定数いた（14.9%）
- 昨年度と比較すると全体的な傾向は変わらない。

【就職・採用活動開始時期が昨年度と同様の時期に設定されたことにより、本年度卒業・修了予定者である学生の留学にどのような影響がありましたか】

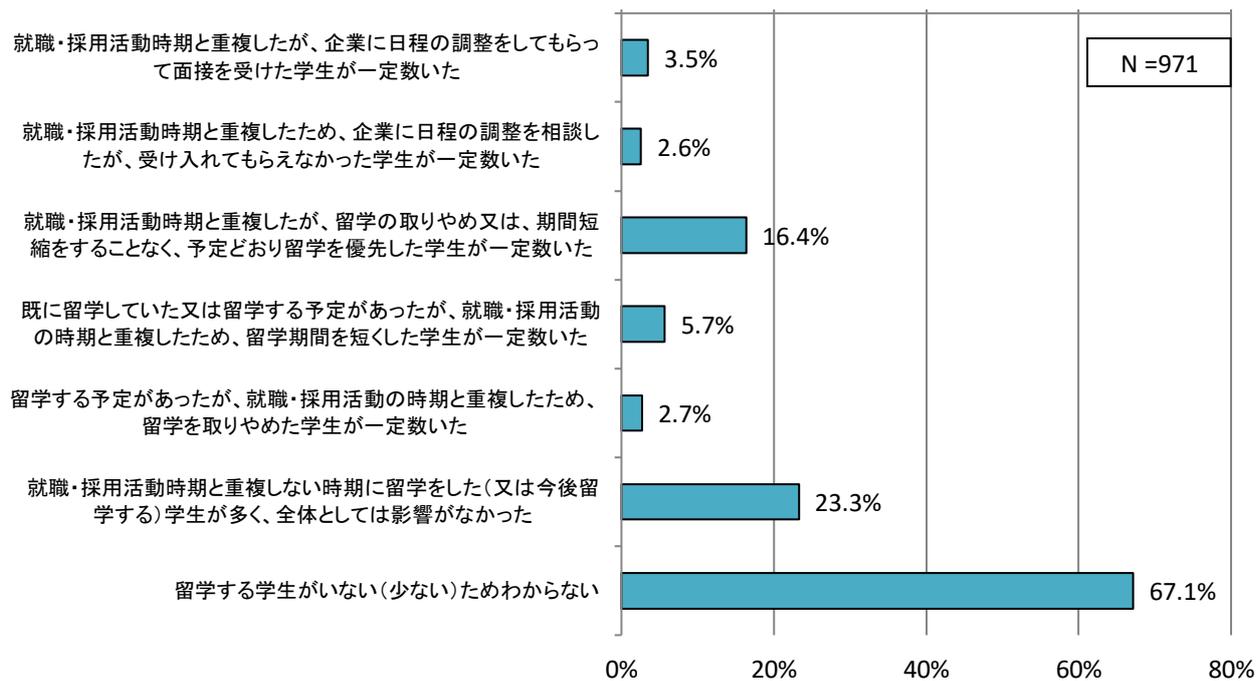
(複数回答)



※大学等全体の状況として「当てはまるもの」を最大3つまで選択

※1,091校から無回答49校を除外

【参考：昨年度調査】

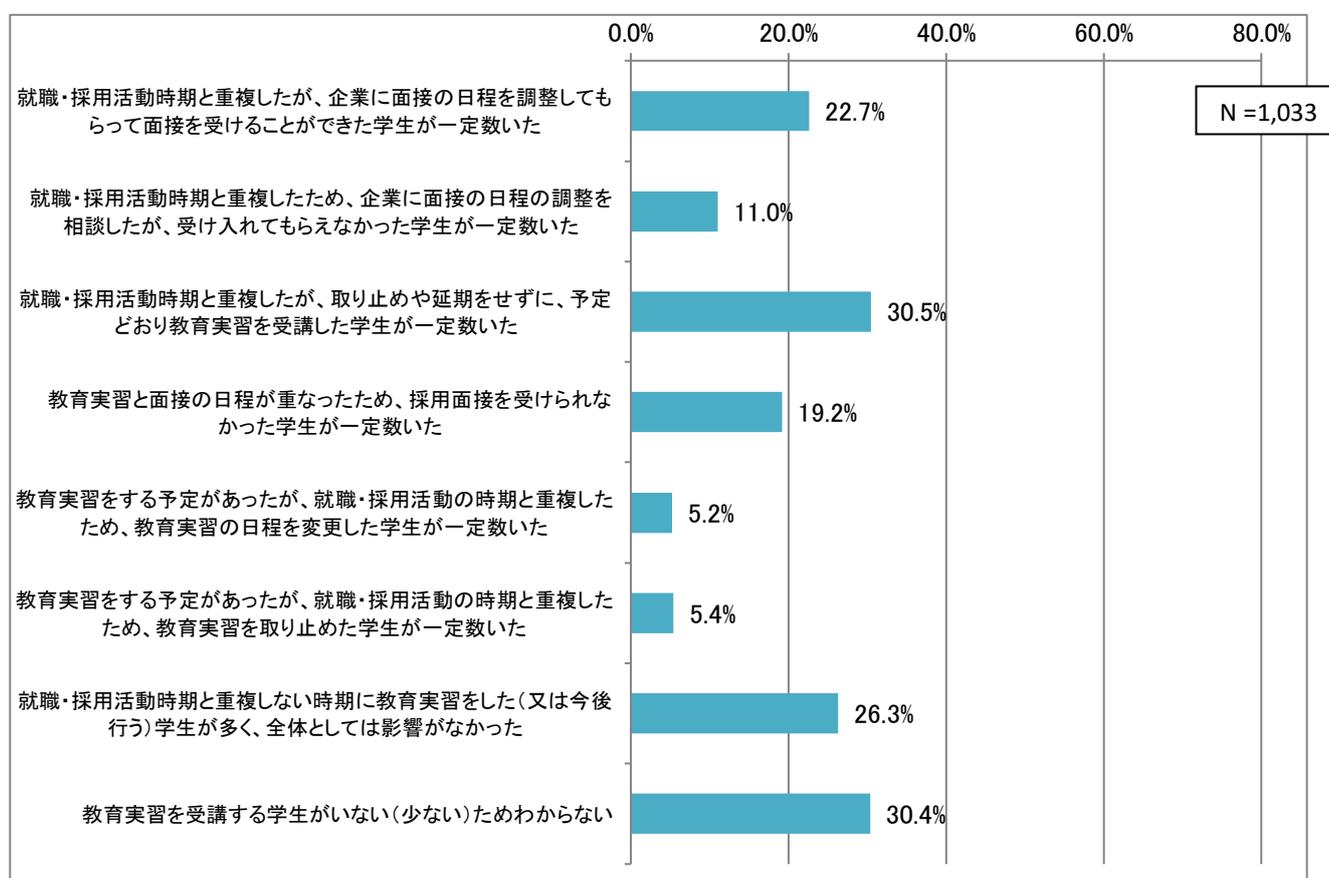


【教育実習受講者への影響について】

- 就職・採用活動開始時期が昨年度と同様の時期に設定されたことにより、本年度卒業・修了予定者である学生の教育実習にどのような影響があったか尋ねたところ、「就職・採用活動時期と重複したが、取り止めや延期をせずに、予定どおり教育実習を受講した学生が一定数いた」と回答した大学が30.5%と最も多く、次いで「教育実習を受講する学生がいない(少ない)ためわからない」(30.4%)、「就職・採用活動時期と重複しない時期に教育実習をした(又は今後行う)学生が多く、全体としては影響がなかった」(26.3%)が多かった。
- なお、昨年度と比較すると「教育実習と面接の日程が重なったため、採用面接を受けられなかった学生が一定数いた。」との回答は3.5ポイント減少した。

【就職・採用活動開始時期が昨年度と同様の時期に設定されたことにより、本年度卒業・修了予定者である学生の教育実習にどのような影響がありましたか】

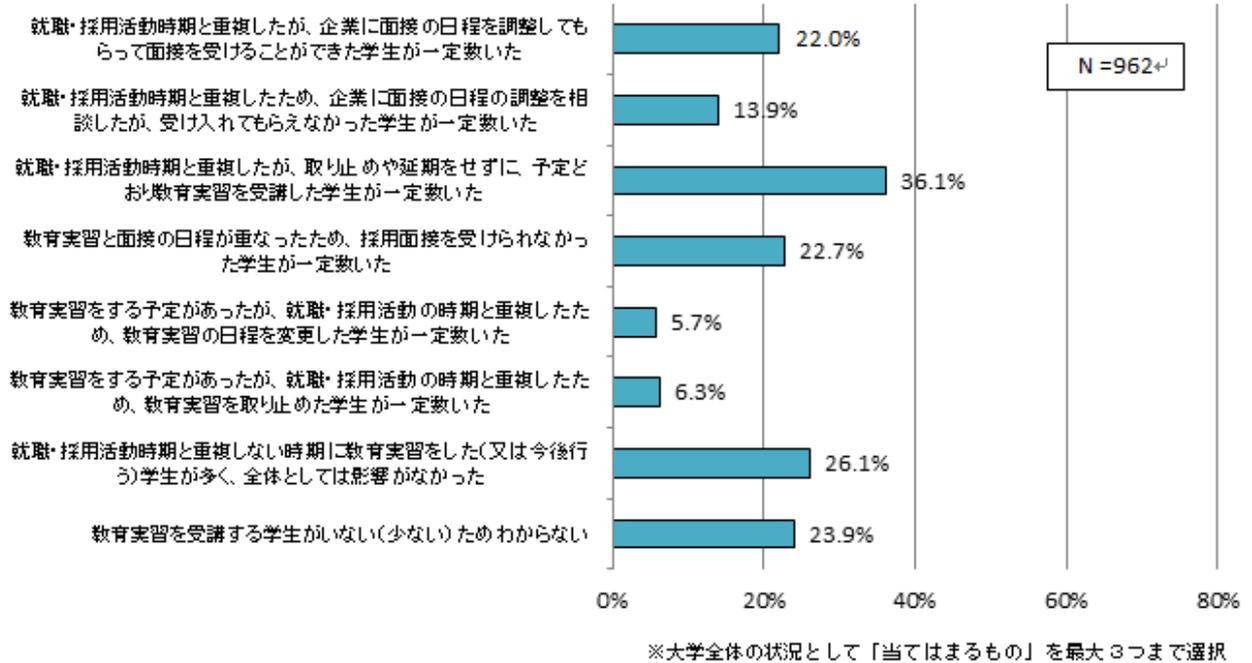
(複数回答)



※大学等全体の状況として「当てはまるもの」を最大3つまで選択

※1,091校から無回答58校を除外

【参考：昨年度調査】

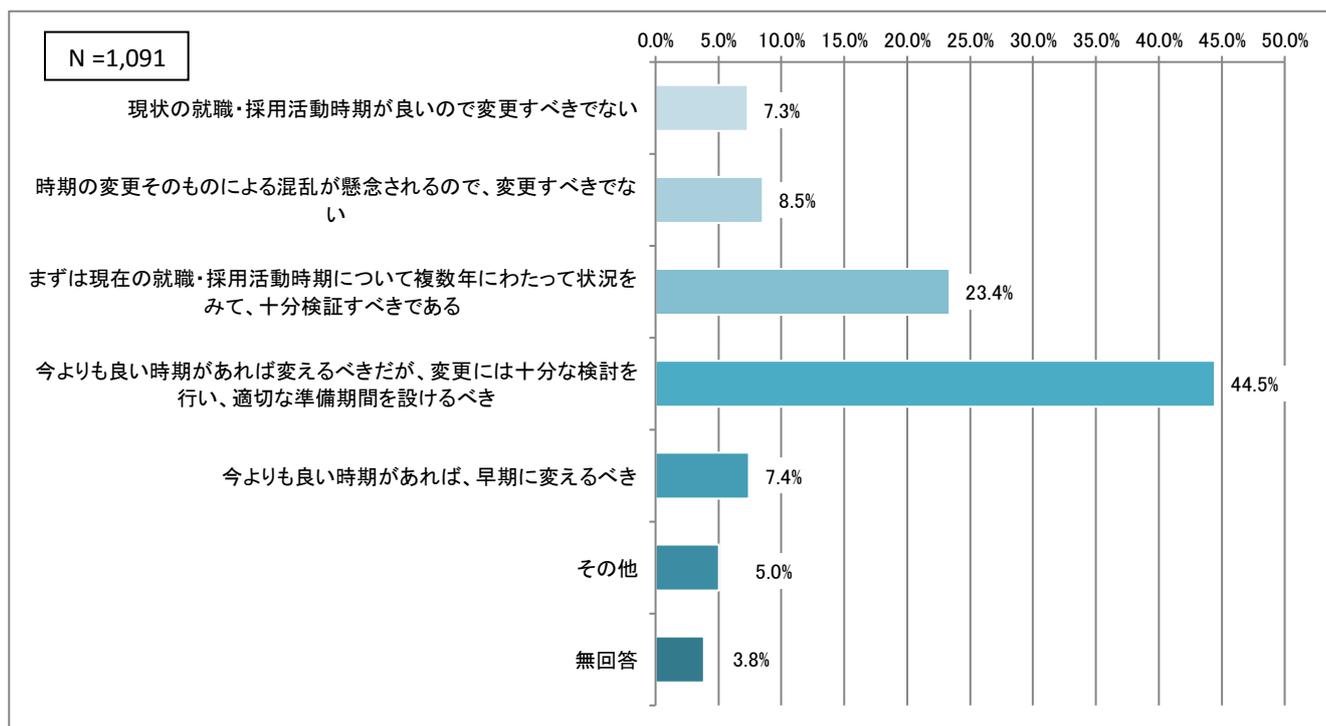


【就職・採用活動開始時期を変更することについてどのように考えるか。】

○就職・採用活動開始時期を変更することについてどのように考えているか尋ねたところ、「今よりも良い時期があれば変えるべきだが、変更には十分な検討を行い、適切な準備期間を設けるべき」と回答した大学が44.5%と最も多く、続いて「まずは現在の就職・採用活動時期について複数年にわたって状況を見て、十分検証すべきである」(23.4%)とする回答が多かった。

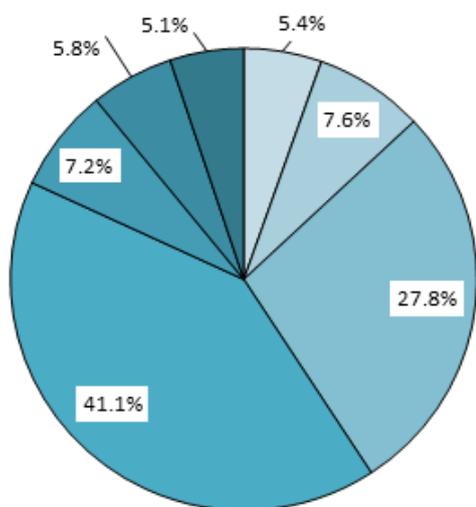
○時期の変更には慎重な検討が必要という意見が多い。

【就職・採用活動開始時期を変更することについてどのように考えていますか。】(単一回答)



【参考：昨年度調査】

N=1,037⁴⁾



- 現状の就職・採用活動時期が良いので変えるべきでない
- 時期の変更そのものによる混乱が懸念されるので、変更すべきではない
- まずは現在の就職・採用活動時期について複数年にわたって状況を見て、十分検証すべきである
- 今よりも良い時期があれば変えるべきだが、変更には十分な検討を行い、適切な準備期間を設けるべき
- 今よりも良い時期があれば、早期に変えるべき
- その他
- 無回答

V. 就職・採用活動における企業側の学業に対する配慮について

【学生に対する企業の配慮状況】

< (1) 企業側の学生への配慮状況 >

○本年度の就職・採用活動について、企業側が学生の学業に対する配慮をしていたか尋ねたところ、以下の項目については、配慮していると回答した大学等が配慮していないと回答した大学等より多かった。

・個別の面接日時等の設定に当たり、余裕をもって連絡が行われていた。など7項目

「配慮している」(57.5%) 「配慮していない」(16.7%)

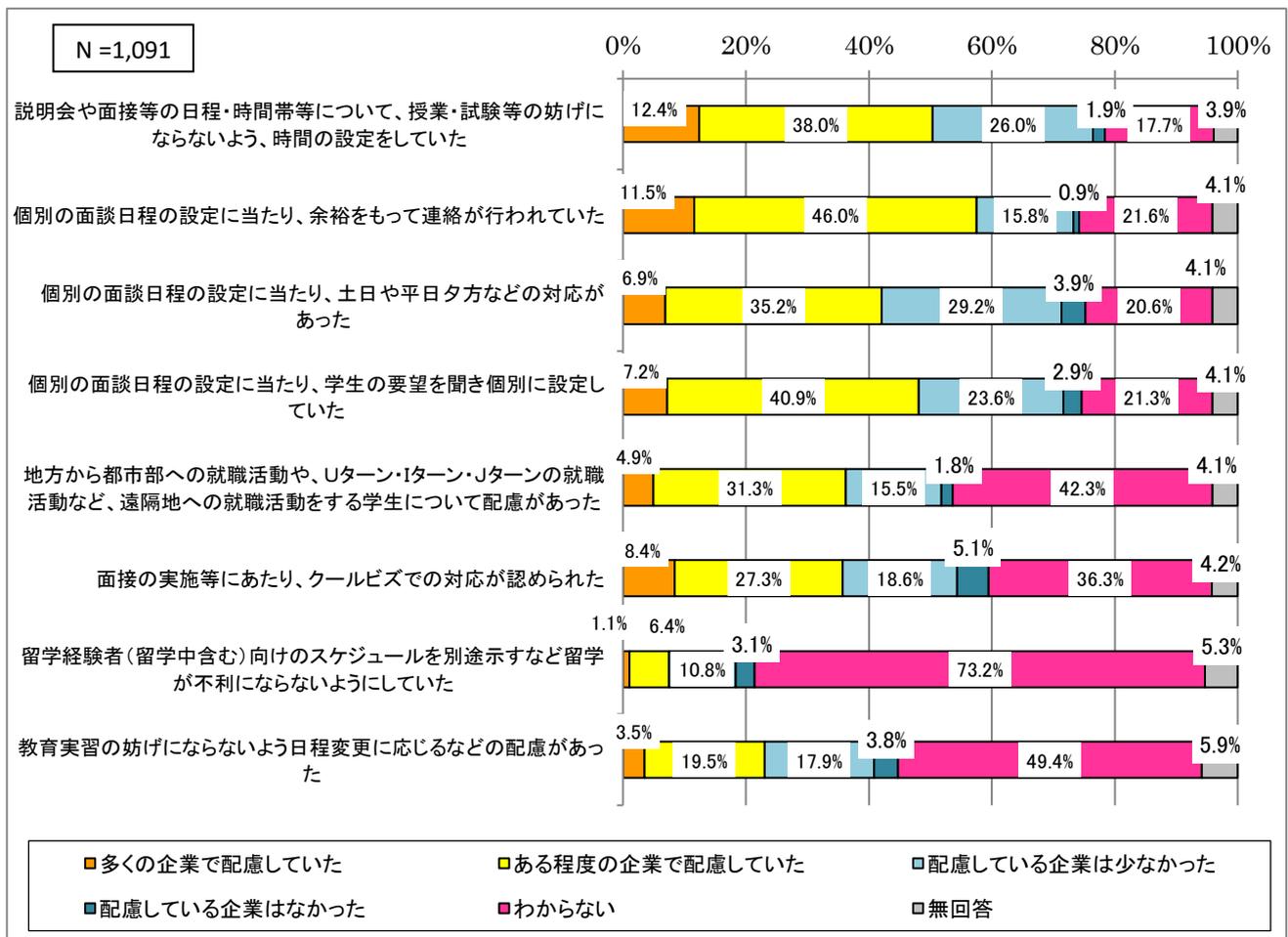
昨年度と比べると、いずれの項目も配慮していると回答した大学等の割合は増えている。

また、「教育実習の妨げにならないよう日程変更に応じるなどの配慮があった」は、今年度「配慮している」が「配慮していない」を上回った。

※配慮しているとは「多くの企業で配慮していた」、「ある程度の企業で配慮していた」と回答した大学等の合計。

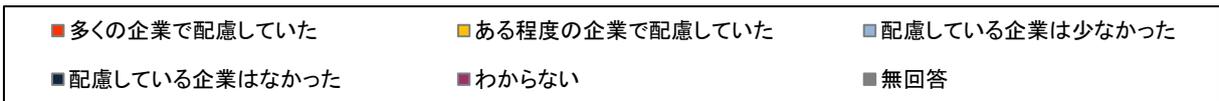
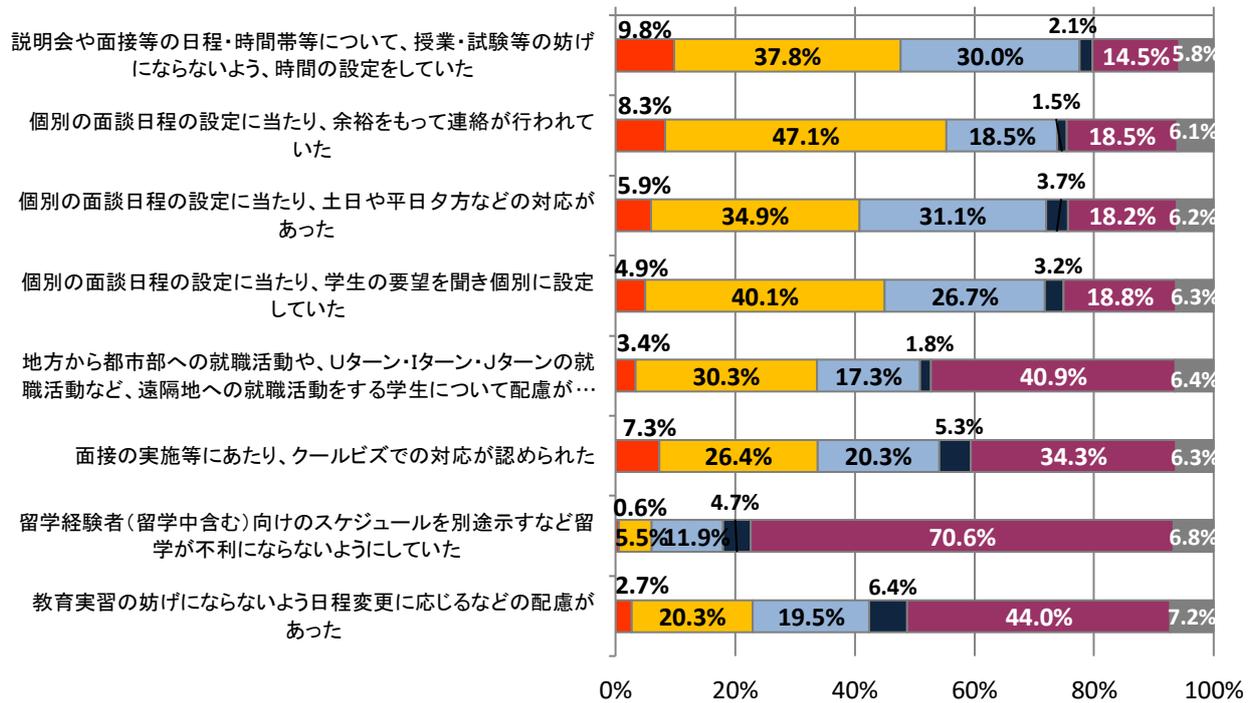
※配慮していないとは「配慮している企業は少なかった」、「配慮している企業がなかった」と回答した大学等の合計。

【本年度の就職・採用活動について、企業側は学生に配慮をしていましたか】(単一回答)



【参考：昨年度調査】

N=1,037



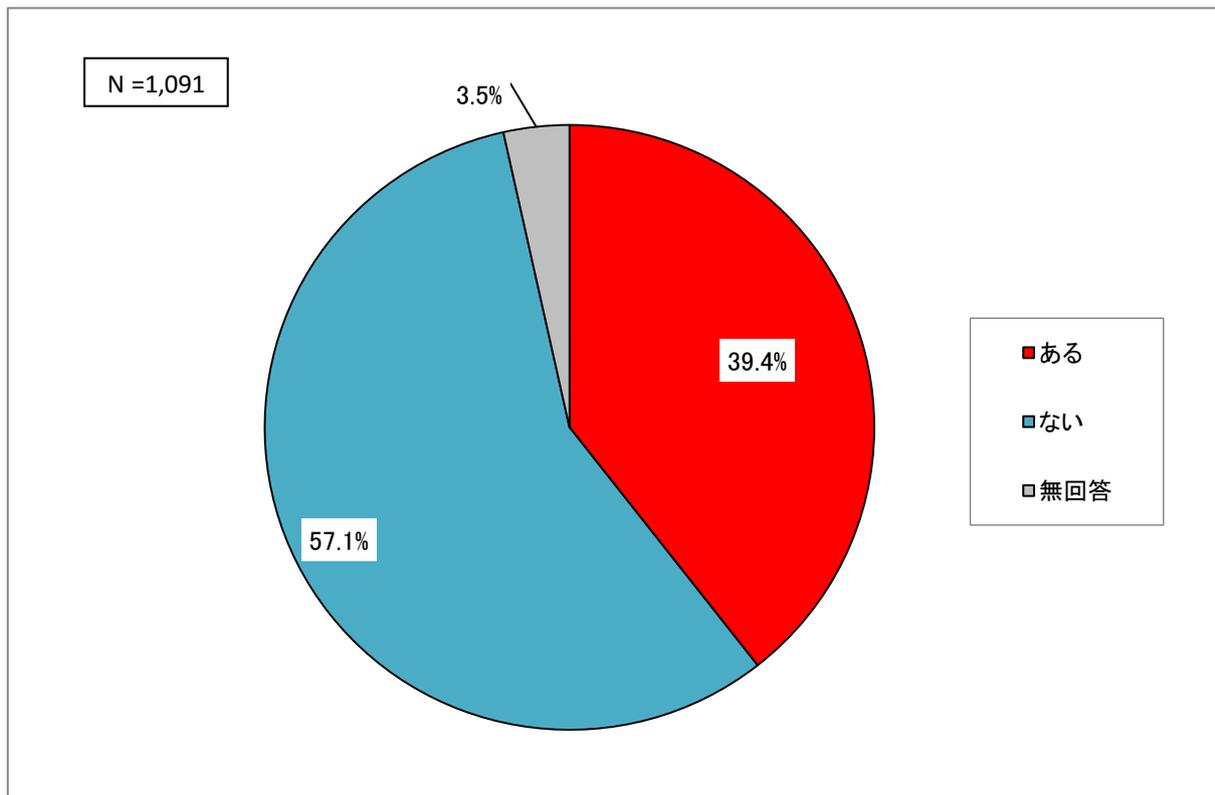
【授業、ゼミ、実験と面接が重なった際の企業の対応】

< (1) 学生からの相談状況 >

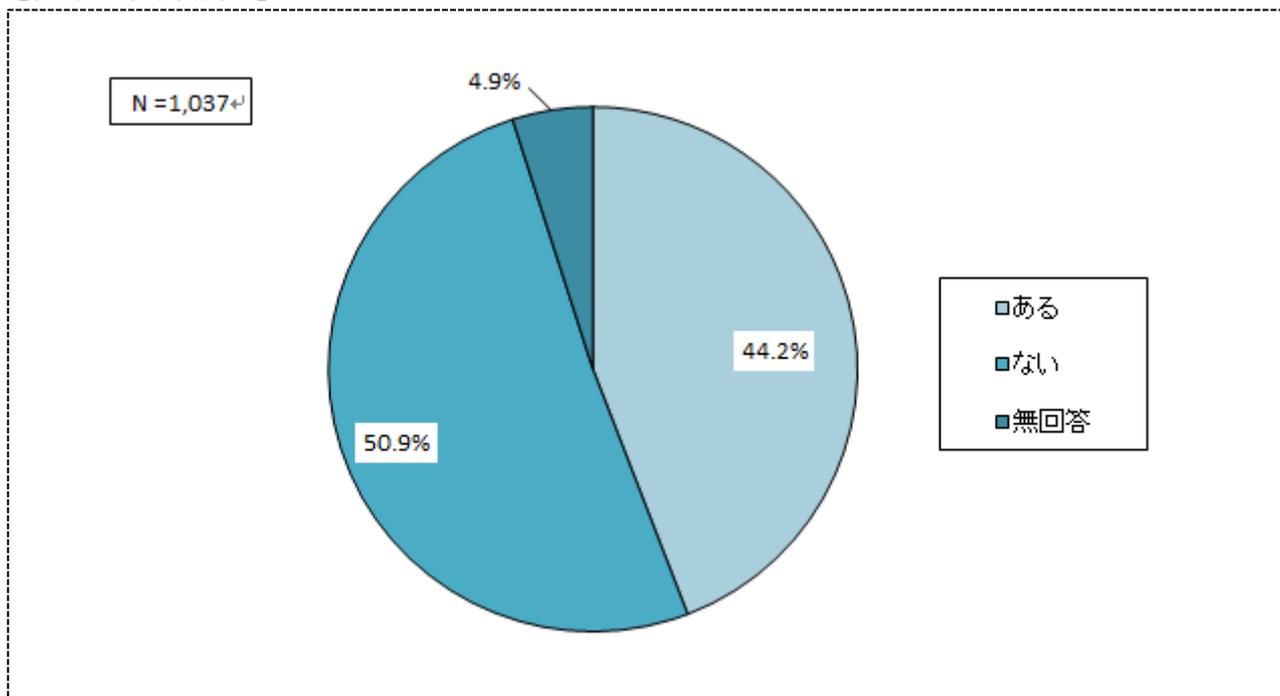
○学生から授業、ゼミ、実験などの時間と面接等の日程等が重なったため、企業に配慮してほしい旨の相談を受けたことはあるか尋ねたところ、「ある」と回答した大学の割合は39.4%であった。

【学生から授業、ゼミ、実験などの時間と面接等の日程等が重なったため、企業に配慮してほしい旨の相談を受けたことはありましたか】

(単一回答)



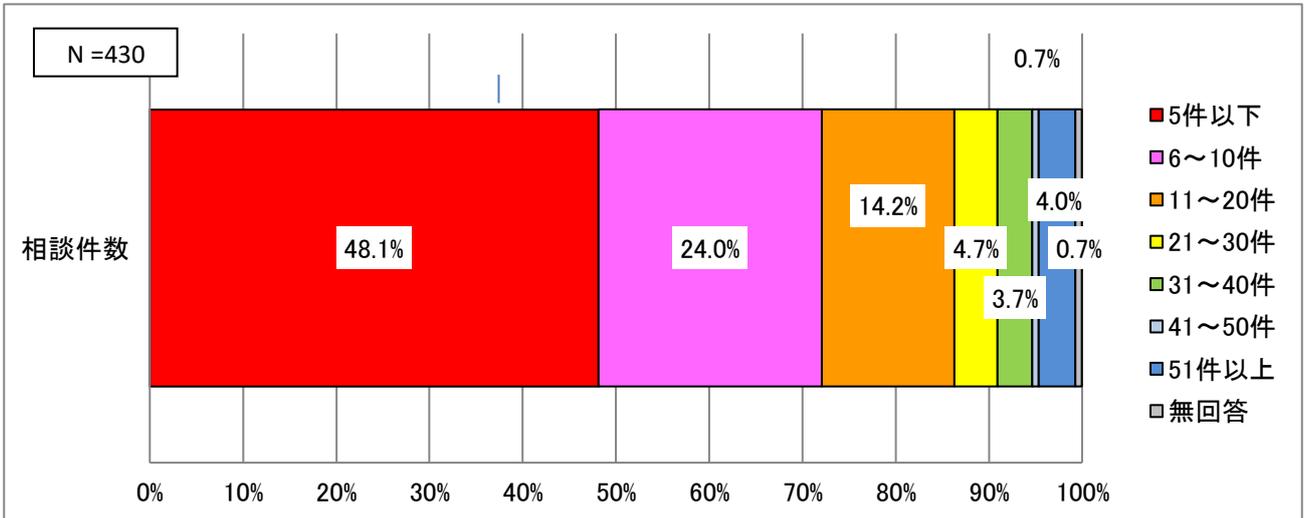
【参考：昨年度調査】



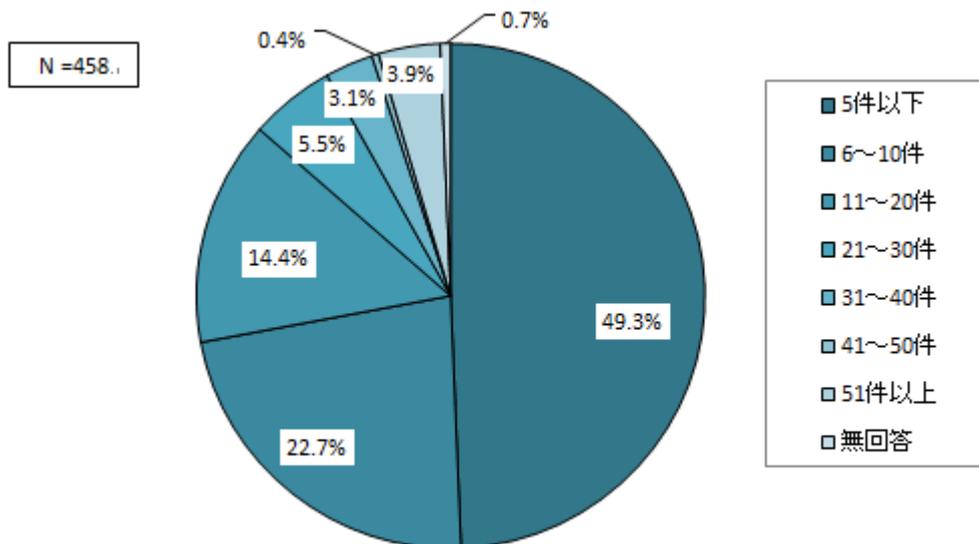
< (2) 相談件数 >

○相談を受けたことがあると回答した大学等（430校）に対し、相談件数を訪ねたところ、5件以下（48.1%）と回答した大学が最も多く、次いで「6～10件」（24.0%）、「11～20件」（14.2%）であった。

【学生からの相談件数（授業、ゼミ、実験が面接等の日程等と重なった時）】（単一回答）



【参考：昨年度調査】

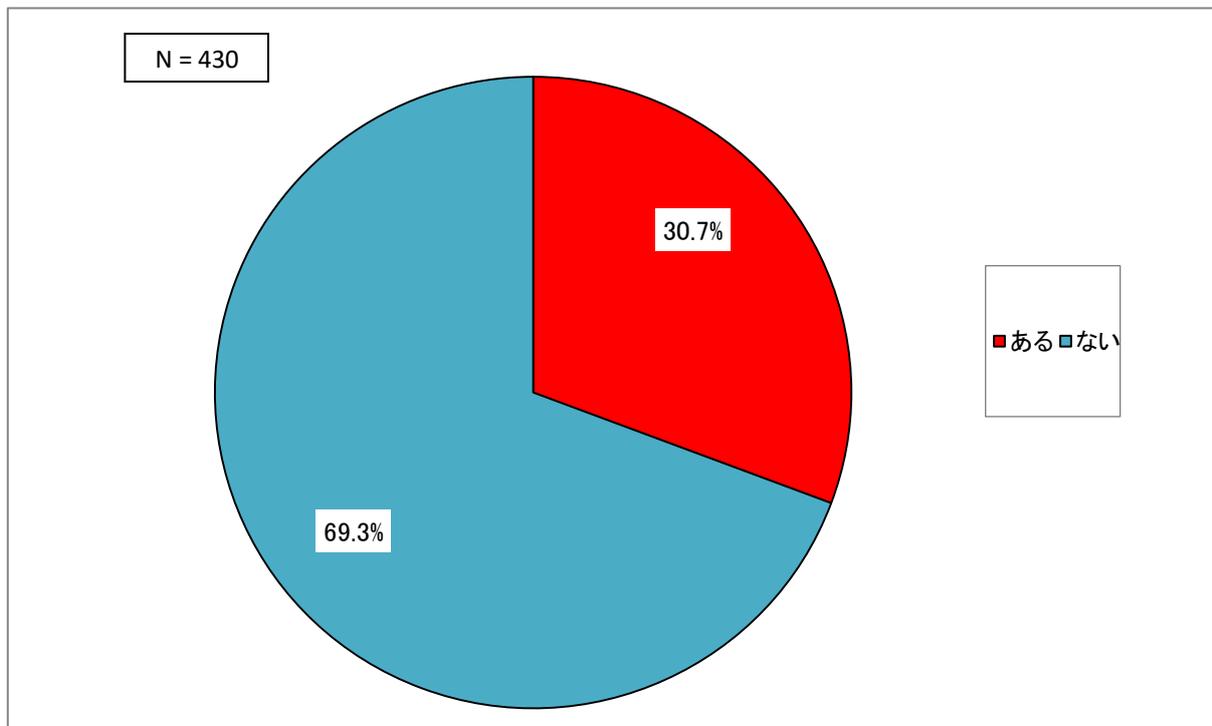


< (3) 大学から直接相談した割合 >

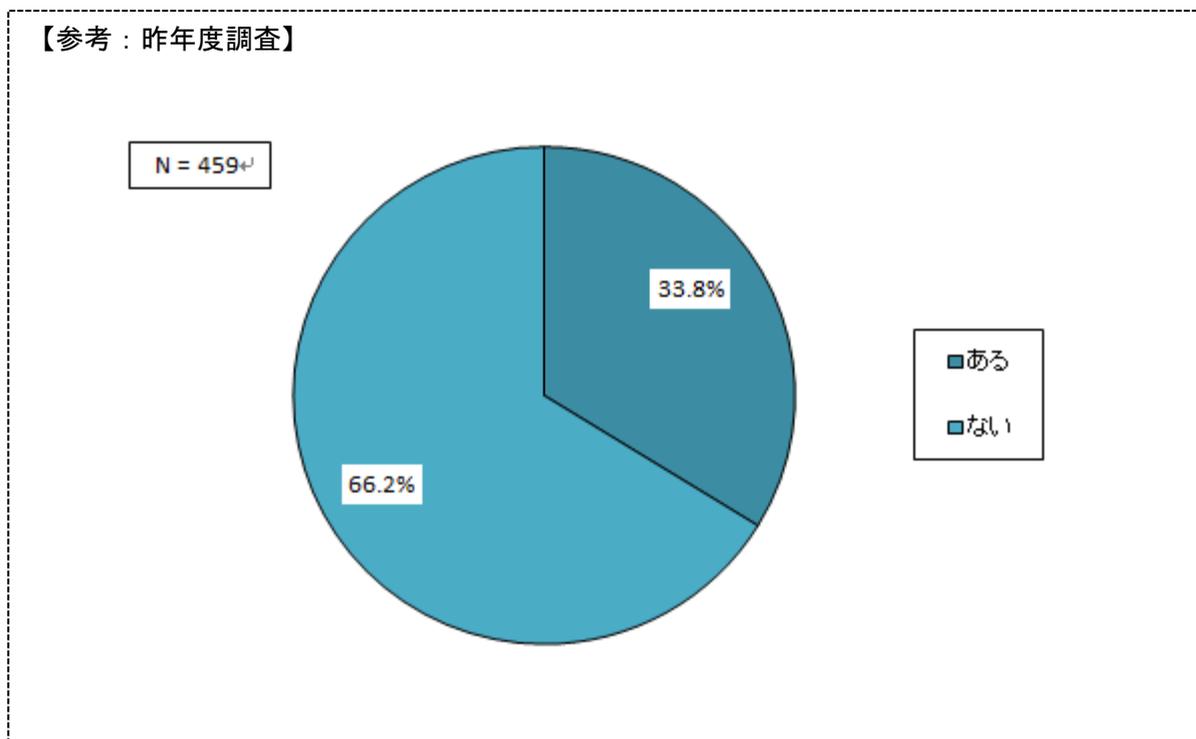
○相談を受けたことがあると回答した大学等（430 校）に対し、大学（就職支援担当部署等）から企業に相談をしたことはあるか尋ねたところ、「ある」と回答した大学の割合は30.7%であった。

【学生の相談を受け、大学等から企業に相談をしたことはありますか。（授業、ゼミ、実験が面接等の日程等と重複）】

(単一回答)



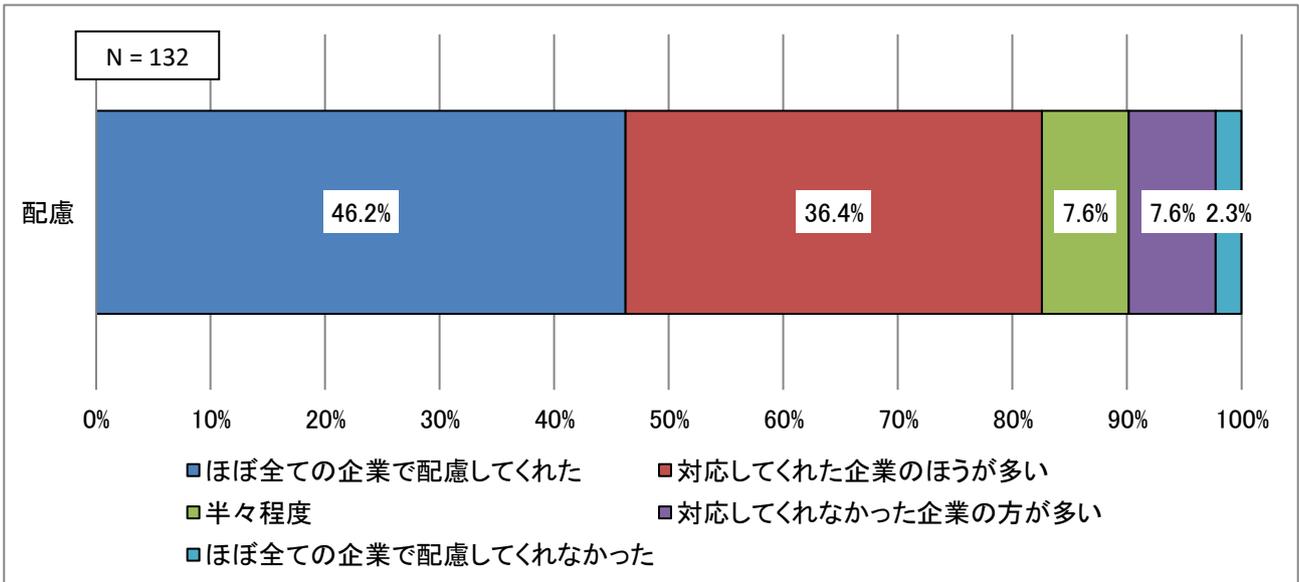
【参考：昨年度調査】



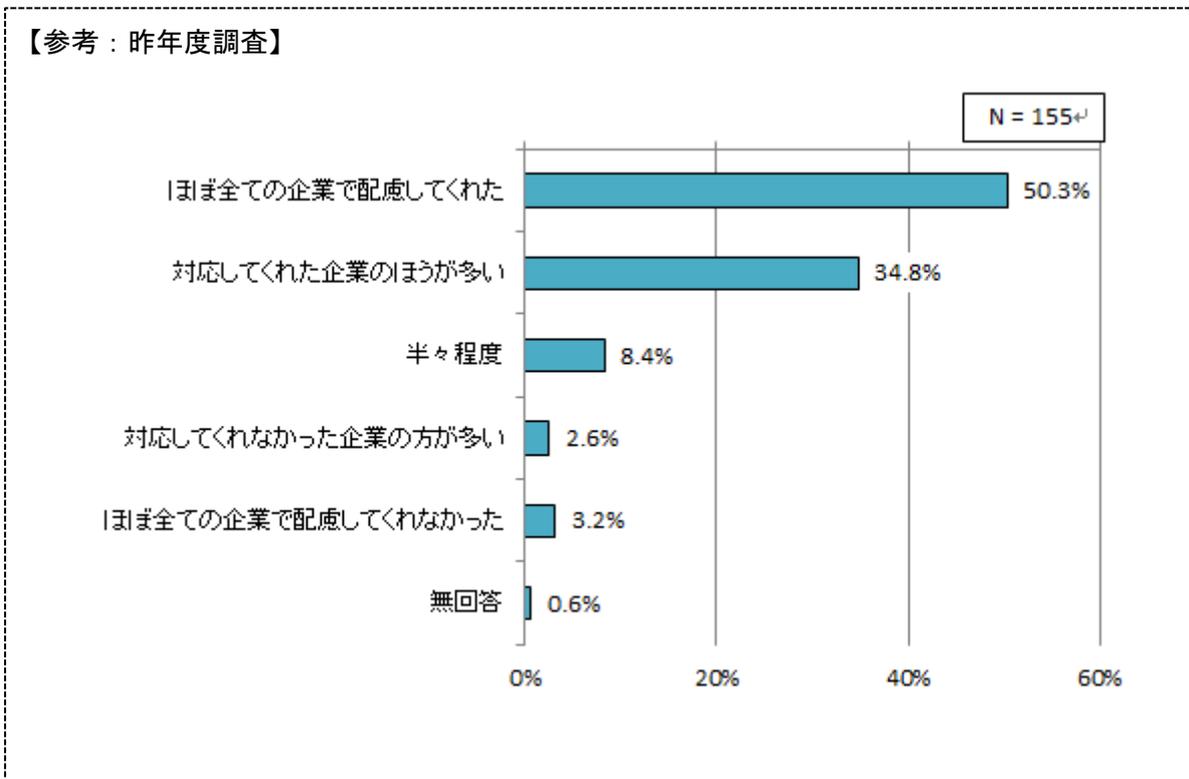
< (4) 大学から直接相談した場合の企業の対応 >

○大学から企業に相談したことがあると回答した大学等（132校）に対し、企業に相談をした結果、企業は配慮してくれたか尋ねたところ、「ほぼすべての企業で配慮してくれた」「対応してくれた企業のほうが多い」と回答した大学の合計は82.6%であった。

【大学等から企業に相談した結果、企業は配慮してくれましたか。（授業、ゼミ、実験が面接等の日程等と重複）】（単一回答）



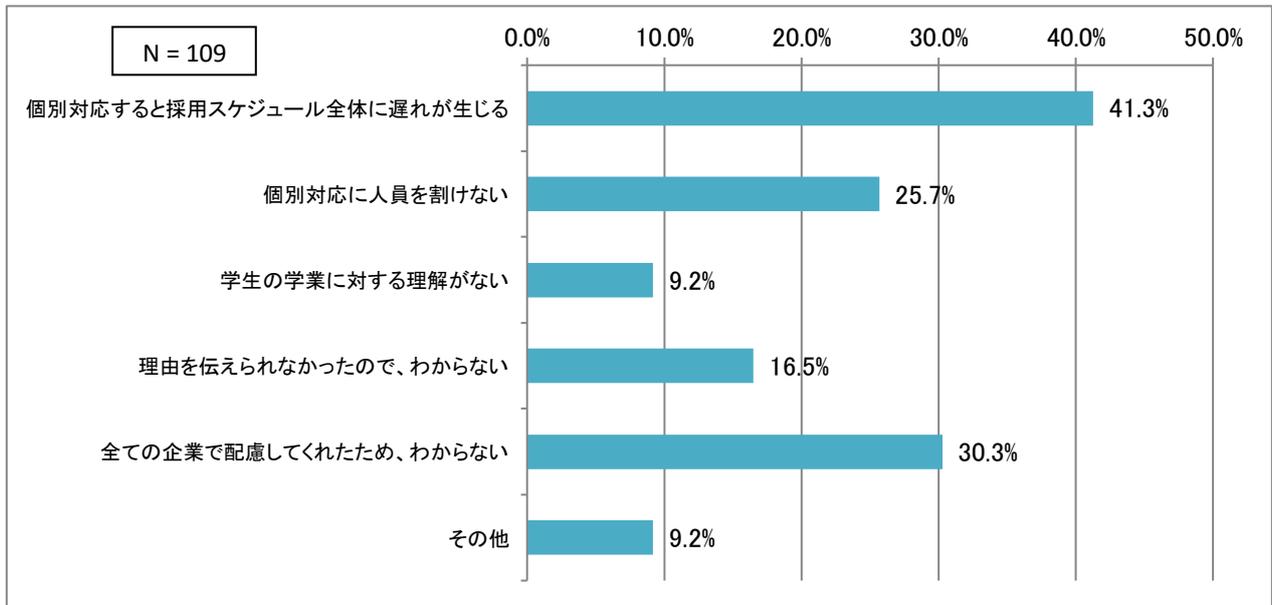
【参考：昨年度調査】



< (5) 配慮できなかった企業の事情 >

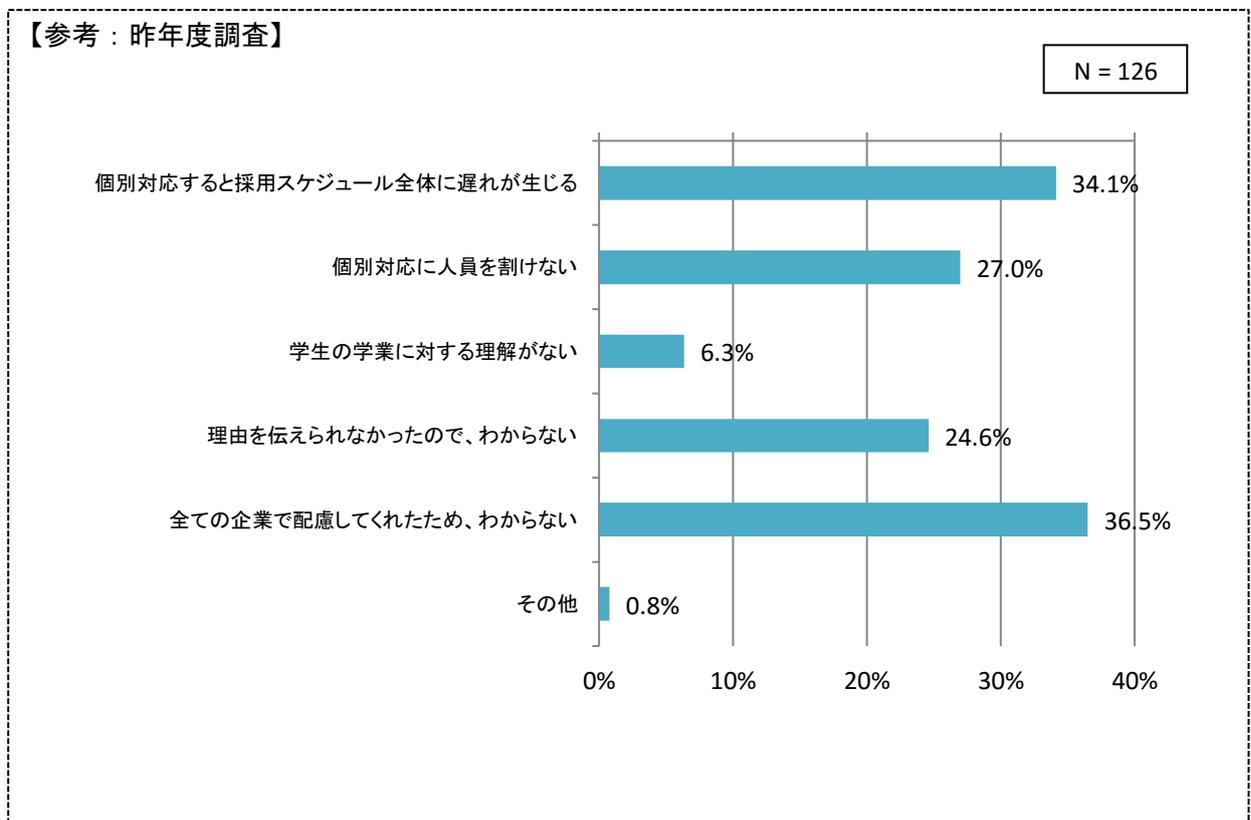
○大学から企業に相談したことがあると回答した大学等（132校）に対し、企業が配慮してくれなかった理由を尋ねたところ、「個別対応すると採用スケジュール全体に遅れが生じる」（41.3%）と回答した大学が最も多く、次いで「全ての企業で配慮してくれたため、わからない」（30.3%）、「個別対応に人員を割けない」（25.7%）だった。

【企業が配慮してくれなかった理由はどのようなものでしたか。】（複数回答）



※132校から無回答23校を除外。

【参考：昨年度調査】



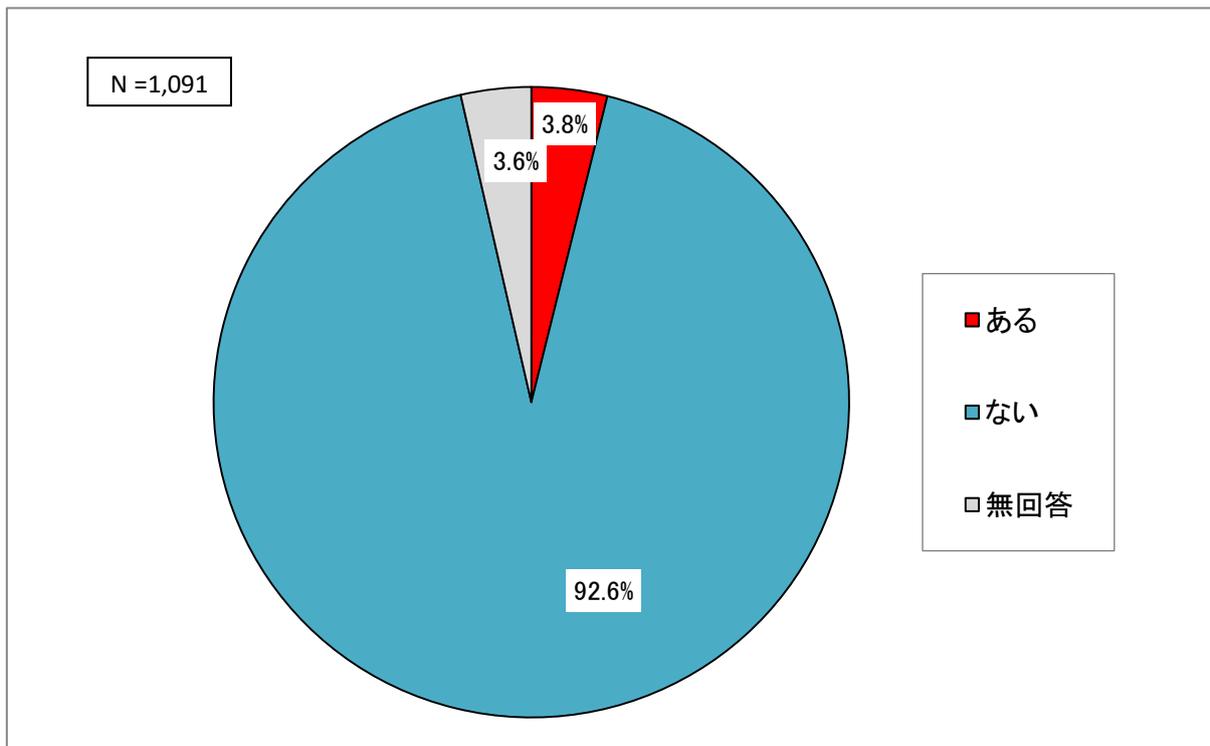
【留学時期と面接が重なった際の企業の対応】

< (1) 学生からの相談状況 >

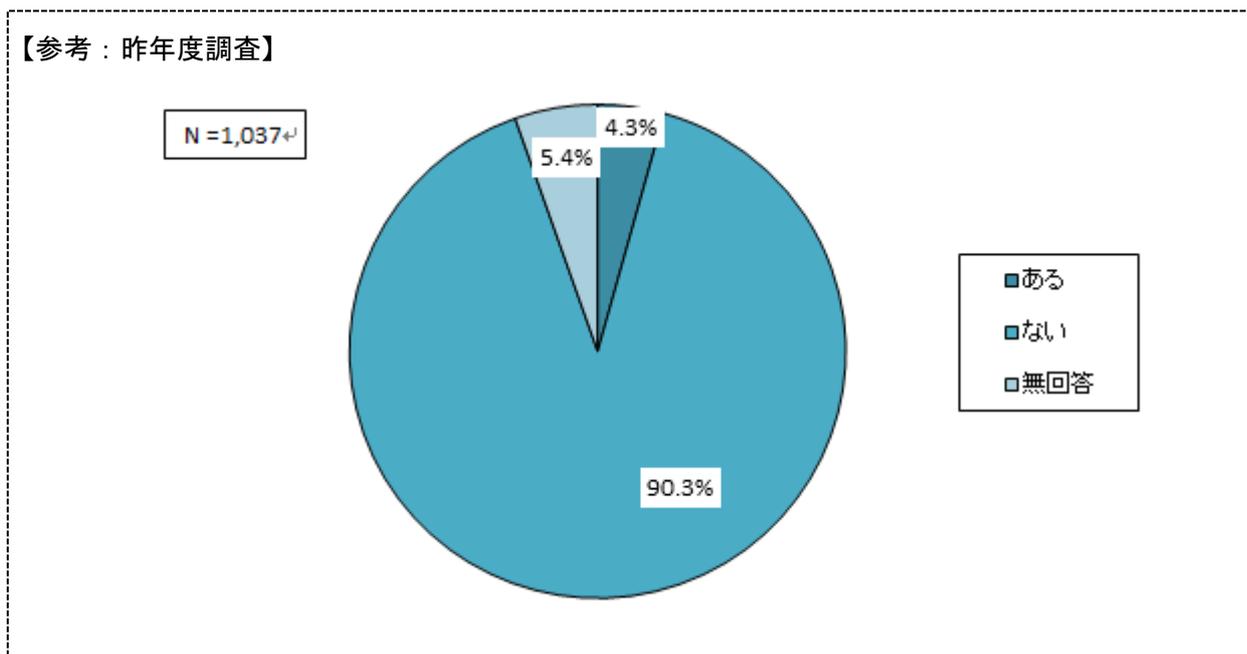
○留学時期と就職活動時期が重なってしまったため、面接等を別日程にする等の配慮をしてほしい旨、学生から相談を受けたことはあるか尋ねたところ、「ある」と回答した大学は3.8%であった。

【留学時期と就職活動時期が重なってしまったため、面接等を別日程にする等の配慮をしてほしい旨、学生から相談を受けたことはありましたか】

(単一回答)



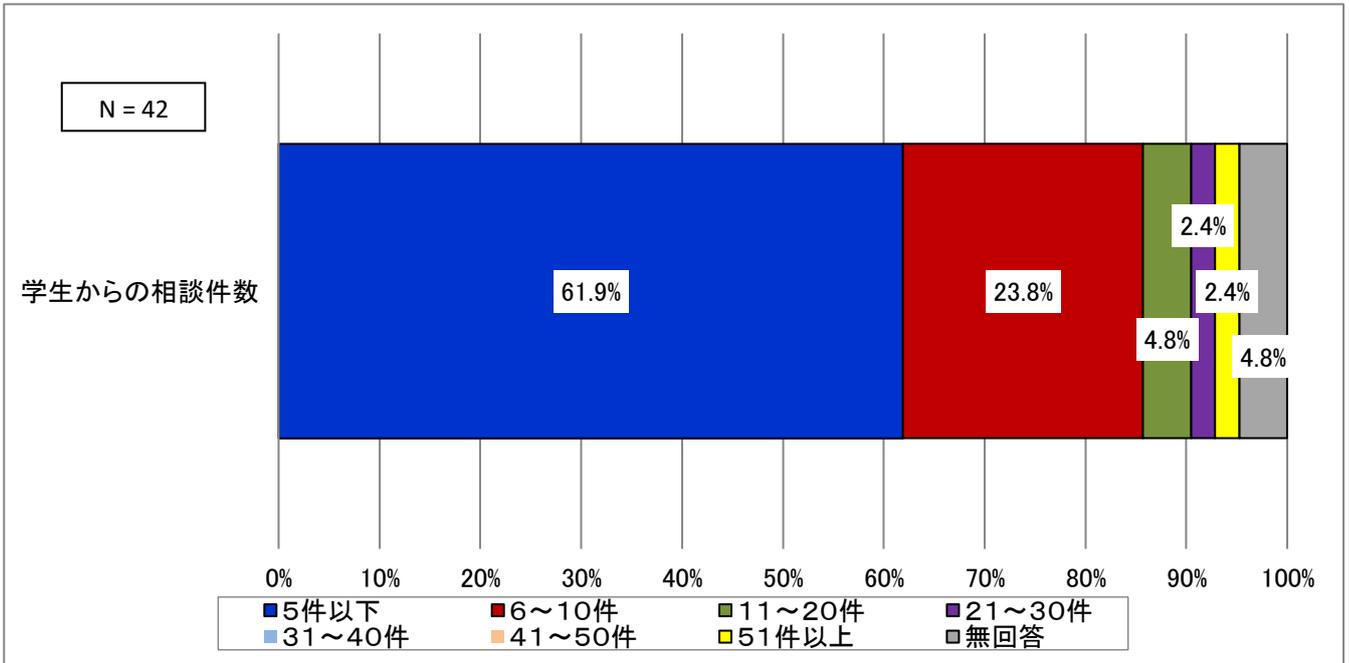
【参考：昨年度調査】



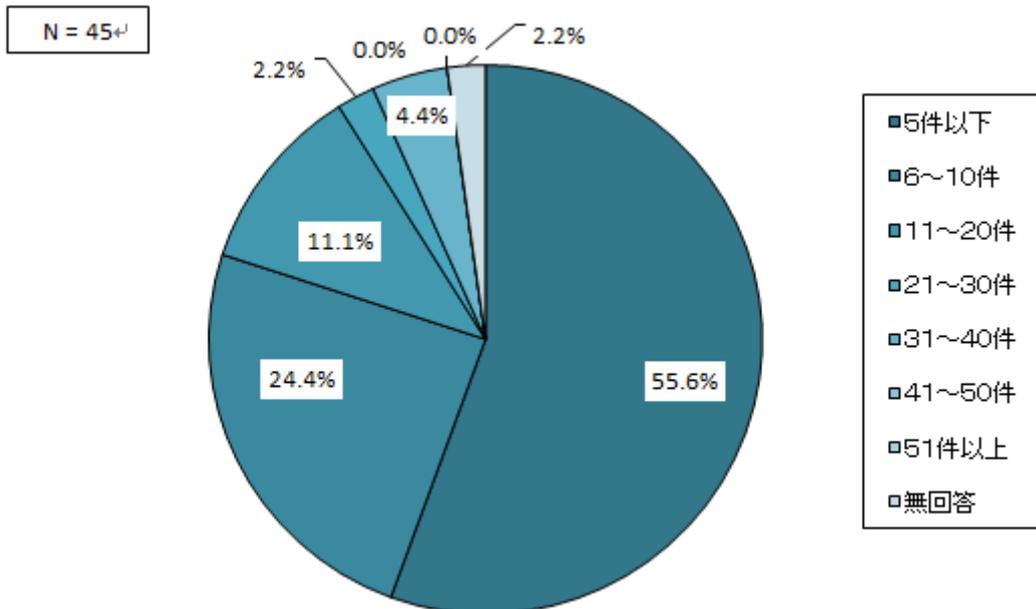
< (2) 相談件数 >

○相談を受けたことがあると回答した大学等（42校）に対し、学生からの相談件数を尋ねたところ、「5件以下」と回答した大学が61.9%と最も多く、続いて「6～10件」（23.8%）、「11～20件」（4.8%）であった。

【学生からの相談件数（留学時期と就職活動時期が重なった時）】（単一回答）



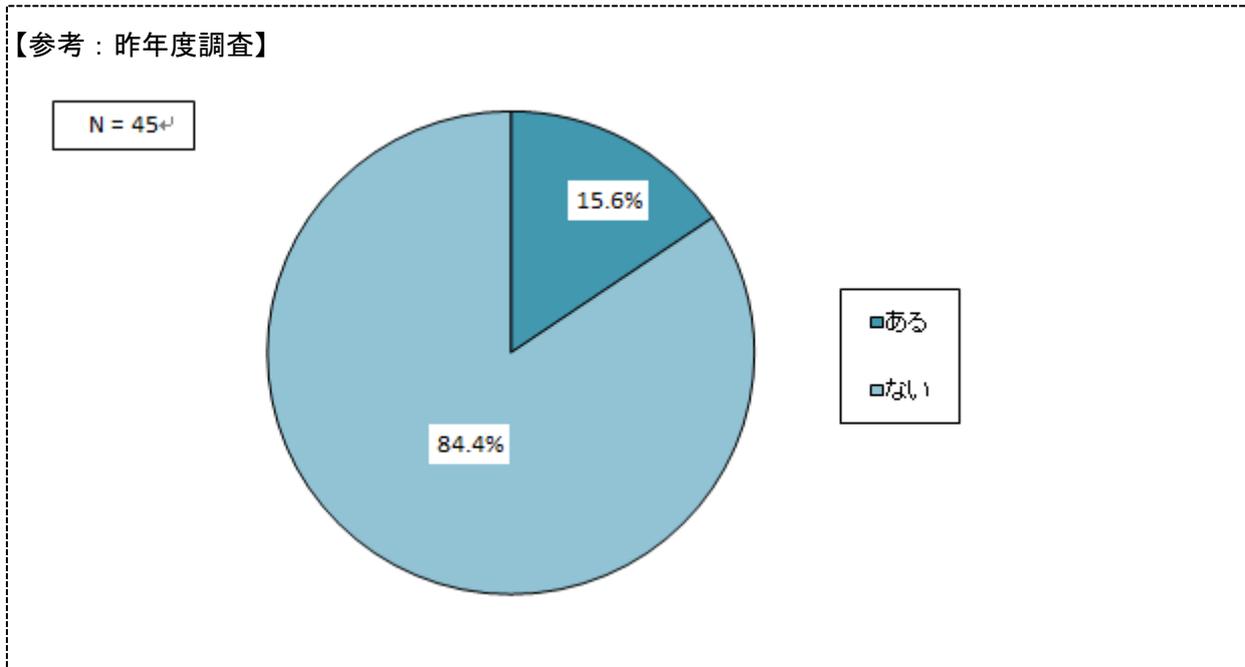
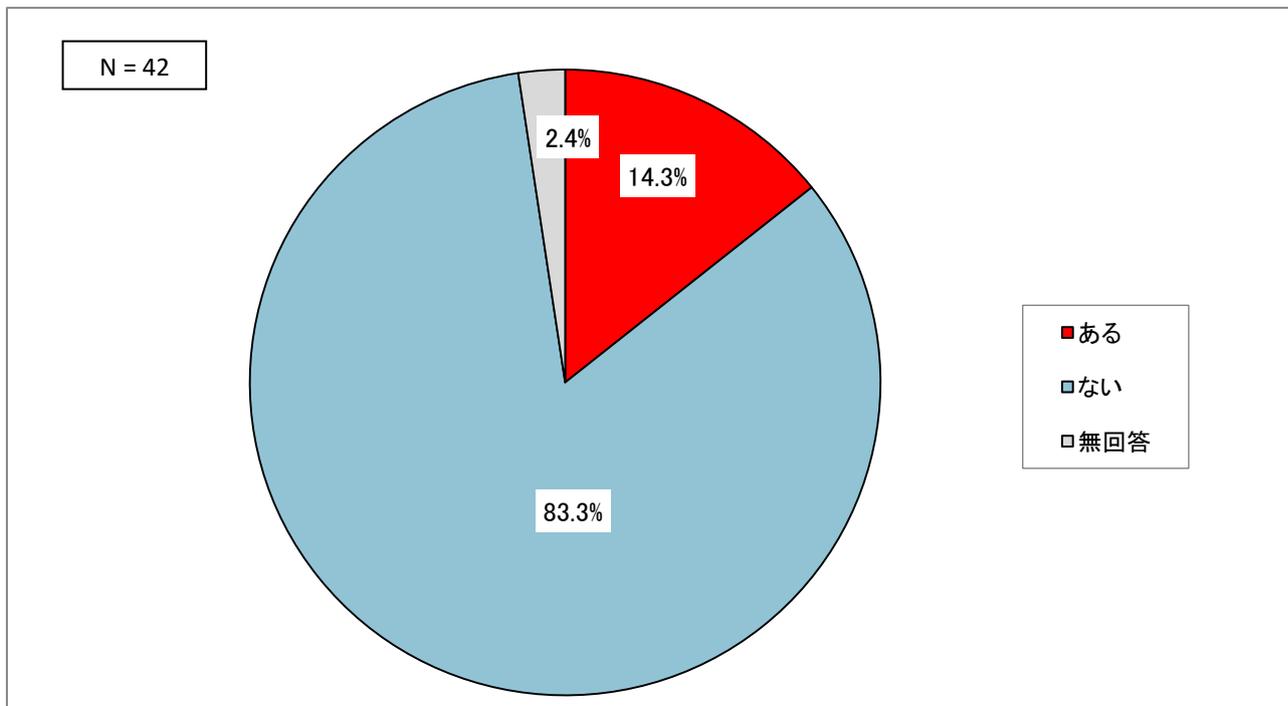
【参考：昨年度調査】



< (3) 大学から直接相談した割合 >

○相談を受けたことがあると回答した大学等（42校）に対し、大学（就職支援担当部署やキャリアセンター）から企業に相談をしたことはあるか尋ねたところ、「ある」と回答した大学は14.3%であった。

【学生からの相談を受け、大学から企業に相談をしたことはありましたか】（単一回答）



< (4) 大学から直接相談した場合の企業の対応 >

大学から企業に相談したことがあると回答した大学等（6校）に対し、企業に相談をした結果、企業が配慮してくれたか尋ねたところ、「ほぼ全ての企業が配慮してくれた」1件、「対応してくれた企業のほうが多い」0件、「半々程度」2件、「対応してくれなかった企業のほうが多い」1件、「ほぼ全ての企業が配慮してくれなかった」2件であった。（単一回答）

< (5) 配慮できなかった企業の事情 >

○大学から企業に相談したことがあると回答した大学等（6校）に対し、企業が配慮してくれなかった理由を尋ねたところ、「個別対応すると採用スケジュール全体に遅れが生じる」4件、「個別対応に人員を割けない。」1件、「学生の学業に対する理解がない。」1件、「理由を伝えられなかったので、わからない」2件、「全ての企業で配慮してくれたため、わからない。」0件、「その他」1件、「無回答」1件。（複数回答）

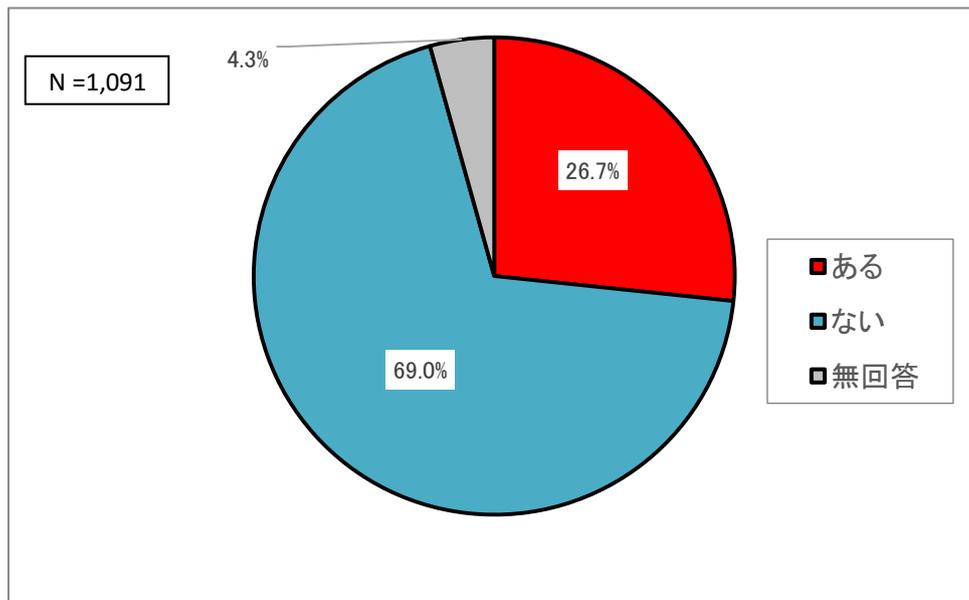
【教育実習と面接が重なった際の企業の対応】

< (1) 学生からの相談状況 >

○教育実習の時期と就職活動時期が重なってしまったため、面接等を別日程にする等の配慮をしてほしい旨、学生から相談を受けたことはあるか尋ねたところ「ある」と回答した大学は26.7%であった。

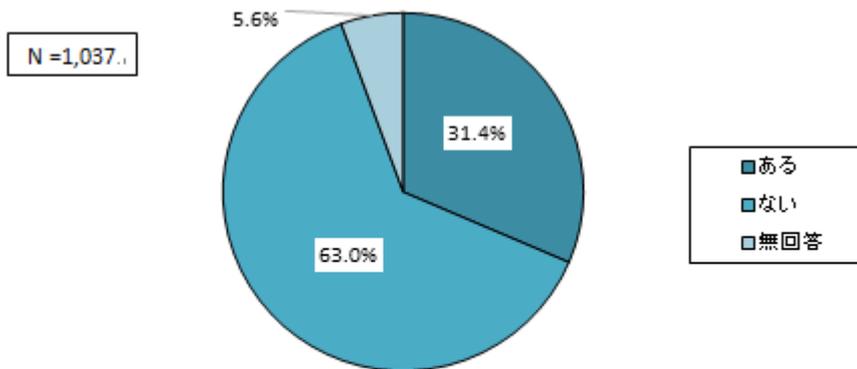
【教育実習の時期と就職活動時期が重なってしまったため、面接等を別日程にする等の配慮をしてほしい旨、学生から相談を受けたことはありましたか】

(単一回答)



教育系の学部、学科を設置していると回答した大学等(411校)のみで集計した結果は以下の通り。
「ある」(33.8%)、「ない」(64.2%)、「無回答」(1.9%)

【参考：昨年度調査】

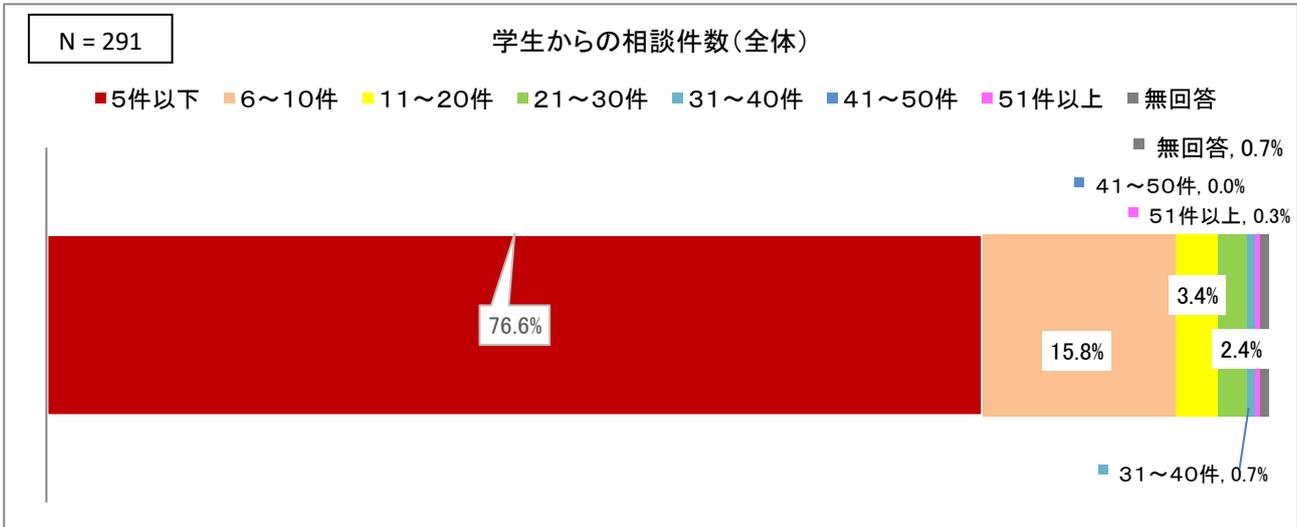


教育系の学部、学科を設置していると回答した大学(407校)のみで集計した結果は以下の通り。
「ある」(36.4%)、「ない」(60.9%)、「無回答」(2.7%)

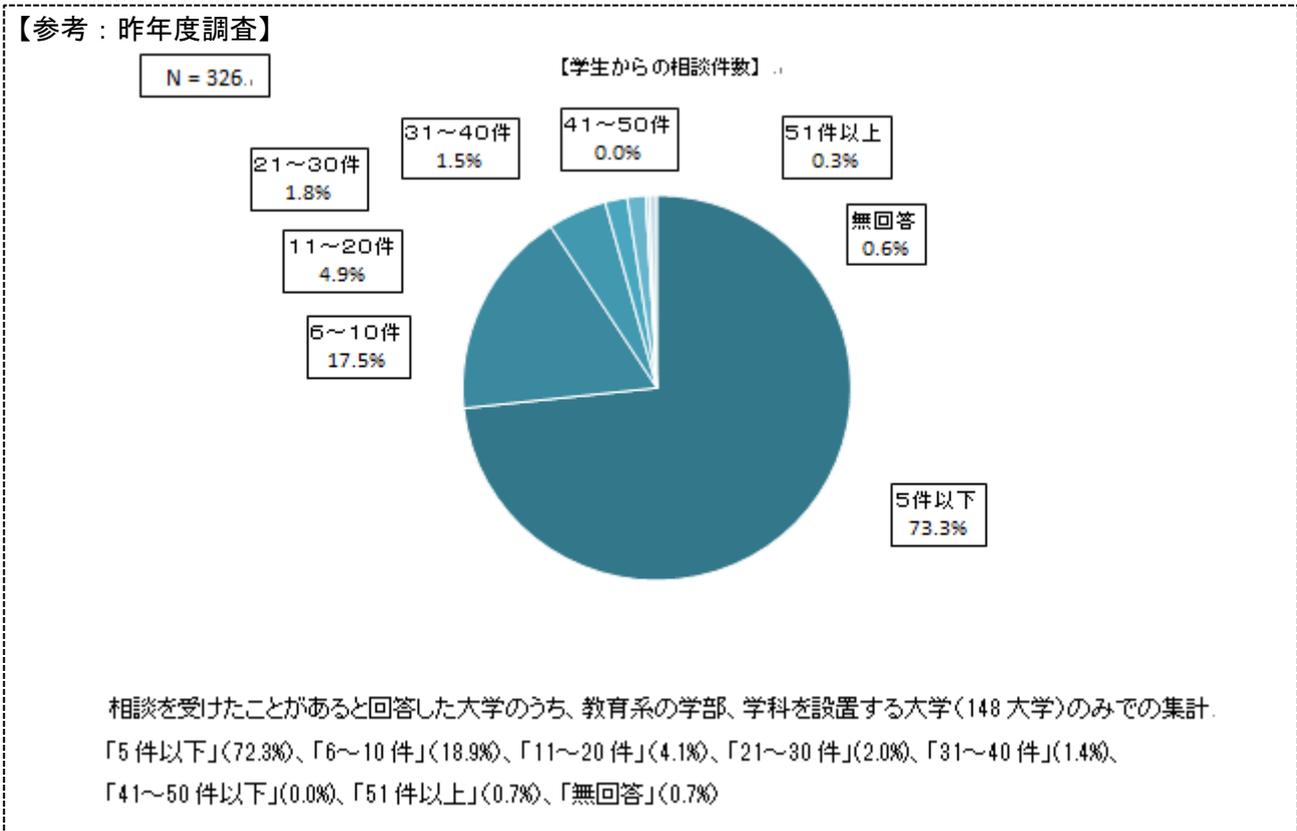
< (2) 相談件数 >

○相談を受けたことがあると回答した大学等 (291 校) に対し、学生からの相談件数を尋ねたところ、「5 件以下」と回答した大学が 76.6% と最も多く、続いて「6～10 件」(15.8%)、「11～20 件」(3.4%) であった。

【学生からの相談件数 (教育実習と面接日程の重複)】 (単一回答)



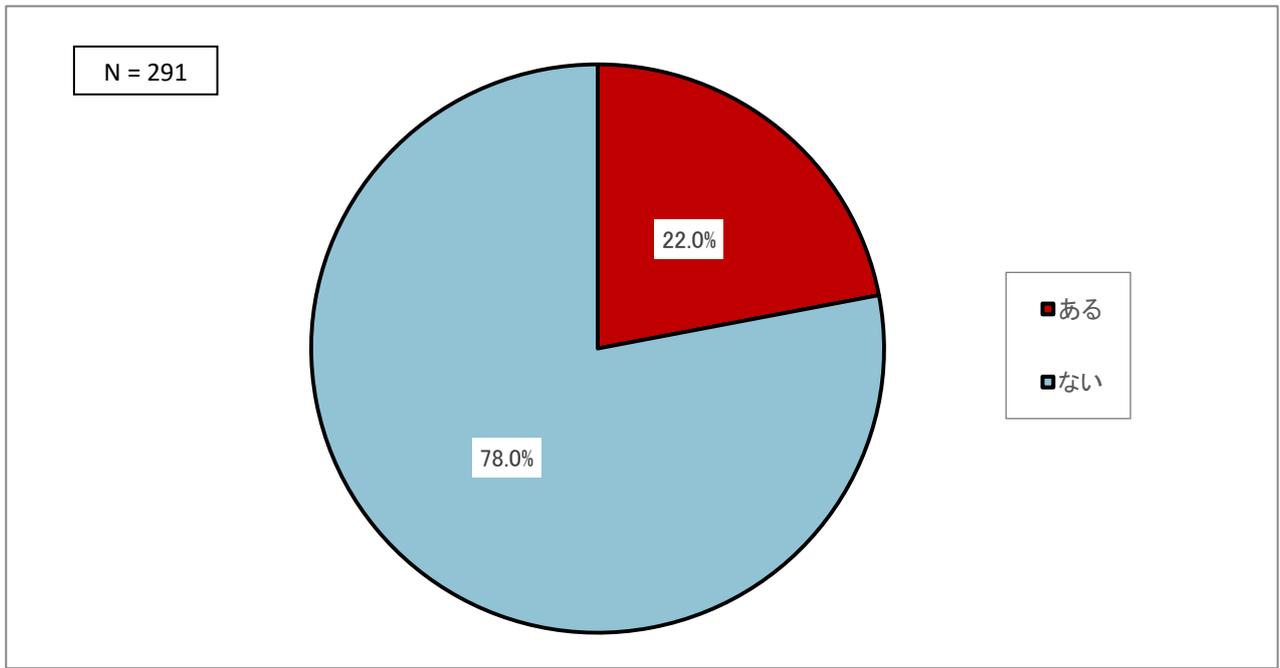
相談を受けたことがあると回答した大学のうち、教育系の学部、学科を設置する大学(139 大学)のみで集計したところ、「5 件以下」(66.9%)、「6～10 件」(20.1%) との回答が多かった。



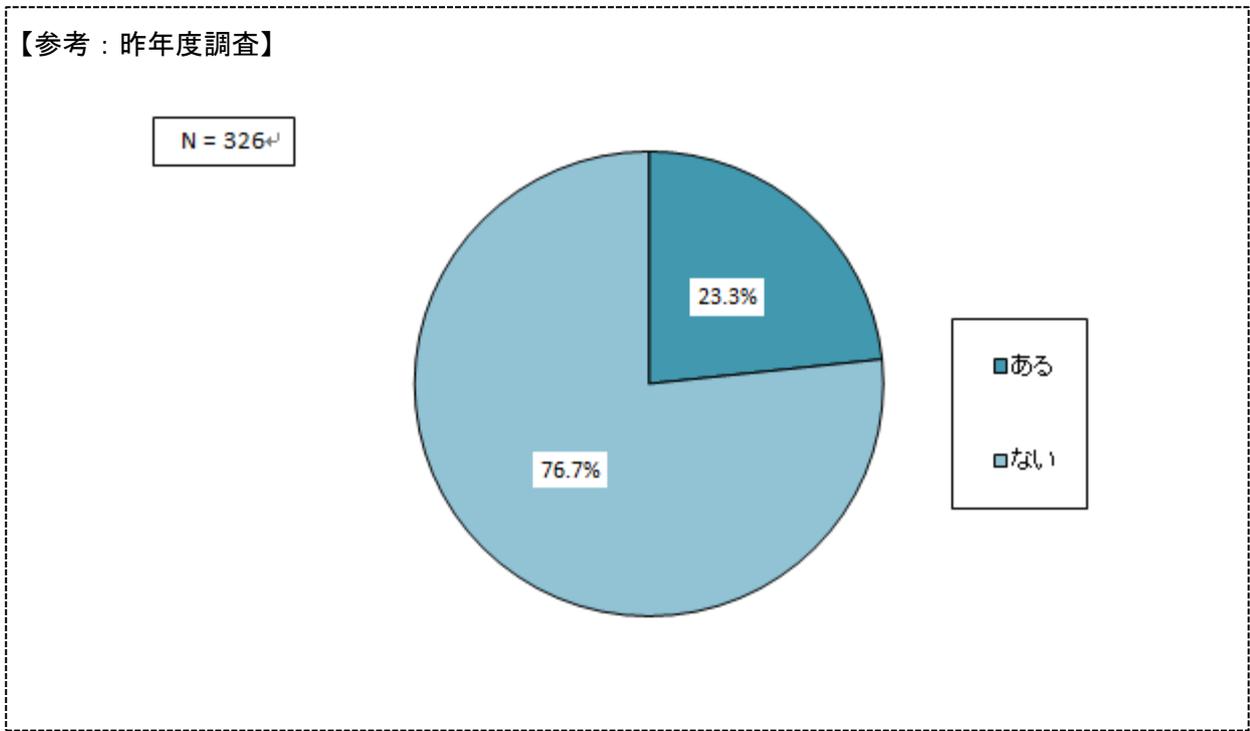
< (3) 大学から直接相談した割合 >

○相談を受けたことがあると回答した大学等（291校）に対し、大学（就職支援担当部署やキャリアセンター）から企業に相談をしたことはあるか尋ねたところ、「ある」と回答した大学は22.0%であった。

【学生からの相談を受け、大学から企業に相談をしたことはありましたか】（単一回答）



【参考：昨年度調査】

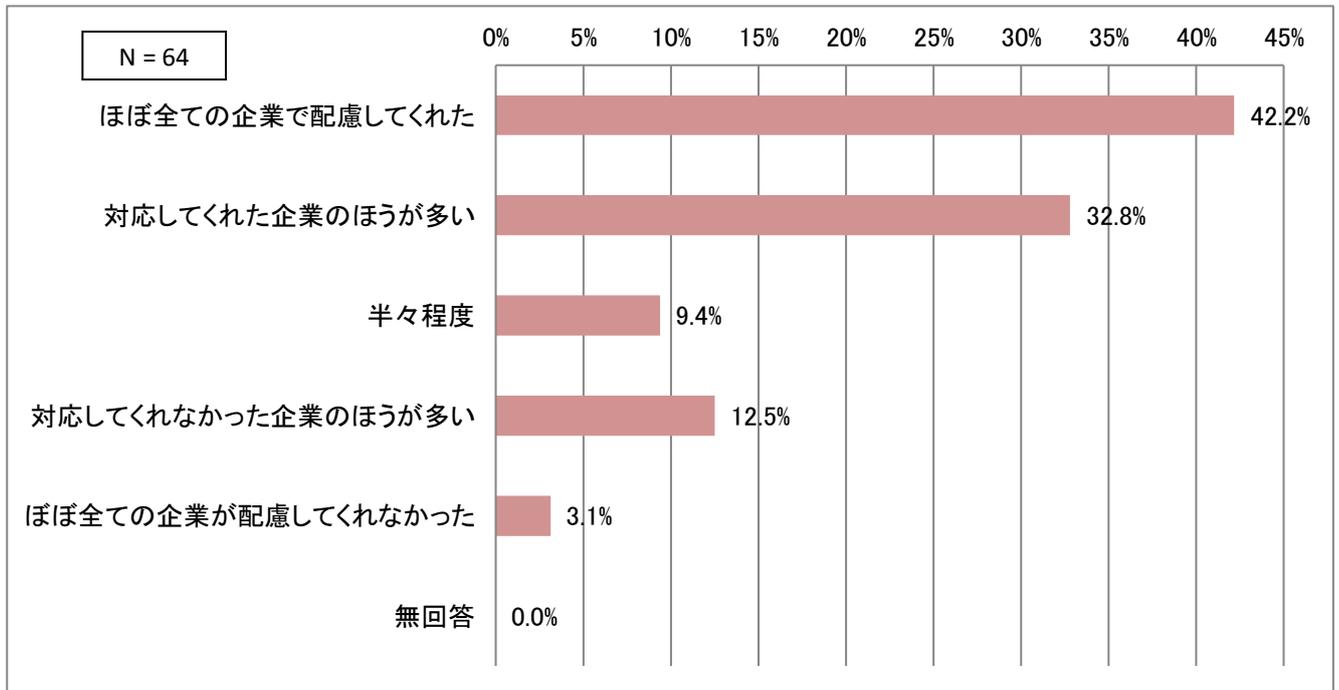


< (4) 大学から直接相談した場合の企業の対応 >

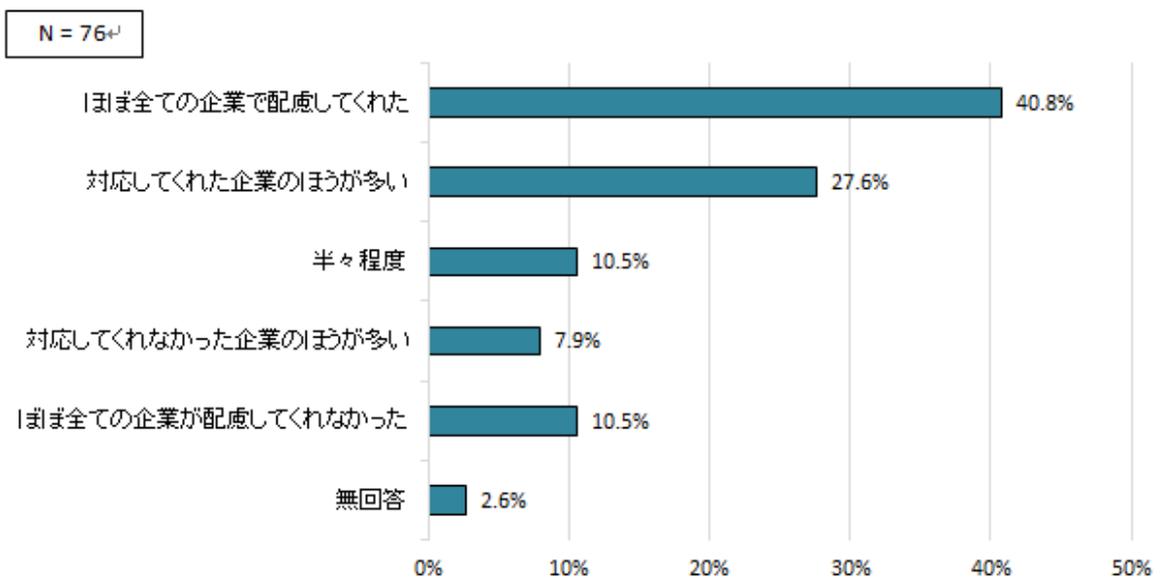
○大学から企業に相談したことがあると回答した大学等(64校)に対し、大学等(就職支援担当部署等)から企業に相談をした結果、企業が配慮してくれたか尋ねたところ、「ほぼ全ての企業で配慮してくれた」と回答した大学が(42.2%)と最も多く、次いで「対応してくれた企業のほうが多い」(32.8%)であった。

※母数(企業に相談した大学等)は64件と限られており、調査結果には注意が必要

【企業に配慮を求めたところ、企業は配慮してくれましたか】(単一回答)

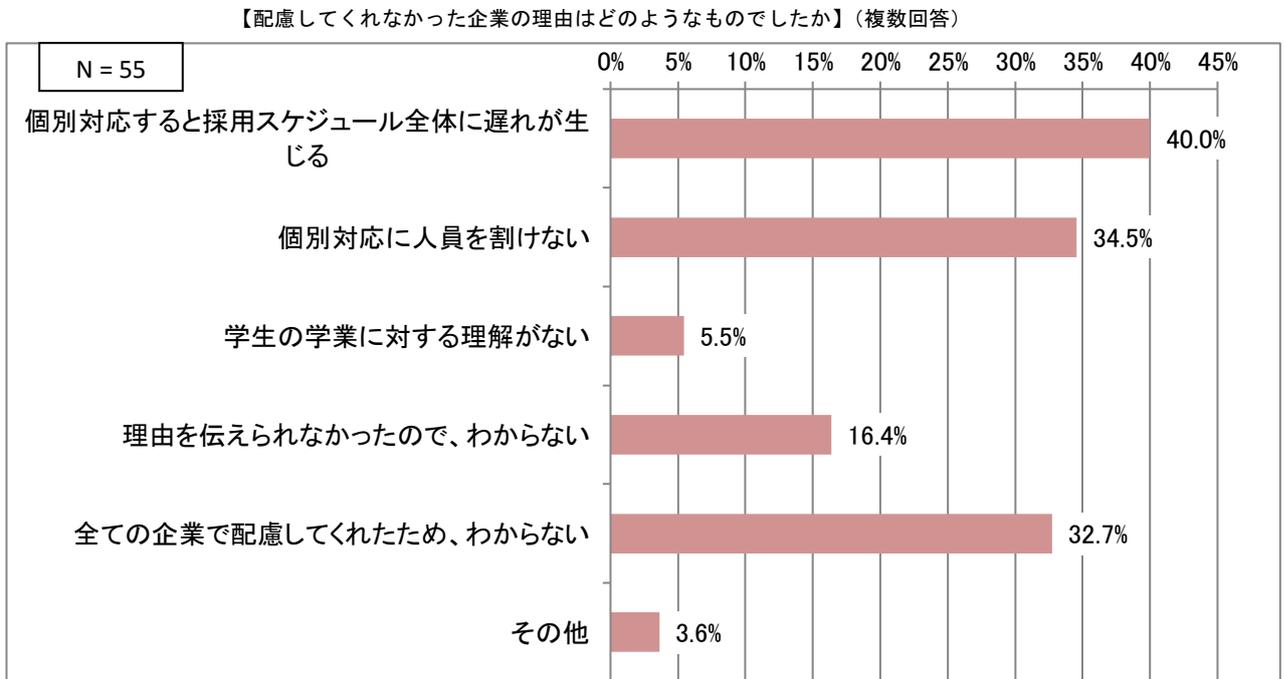


【参考：昨年度調査】



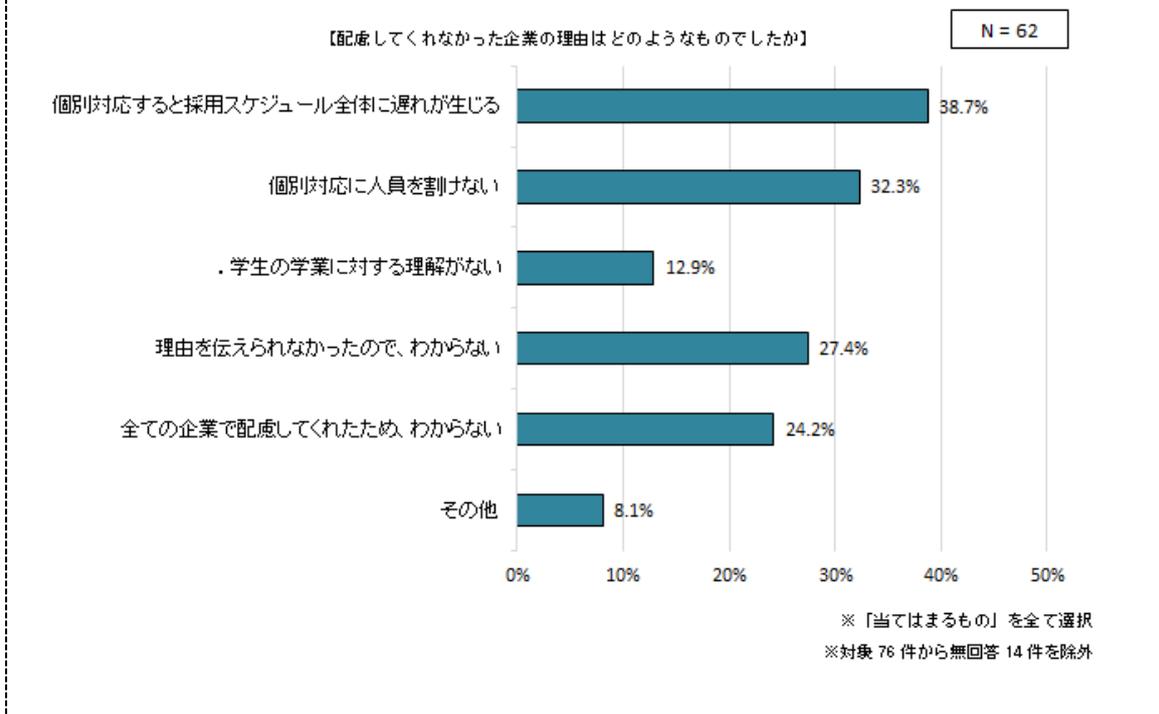
< (5) 配慮できなかった企業の事情 >

○大学から企業に相談したことがあると回答した大学等（64校）に対し、企業が配慮してくれなかった理由を尋ねたところ、「個別対応すると採用スケジュール全体に遅れが生じる」と回答した大学が40.0%と最も多く、次いで「個別対応に人員を割けない」（34.5%）であった。



※対象 64 校から無回答 9 校を除外。

【参考：昨年度調査】



VI. 就職・採用活動におけるハラスメント的な行為について

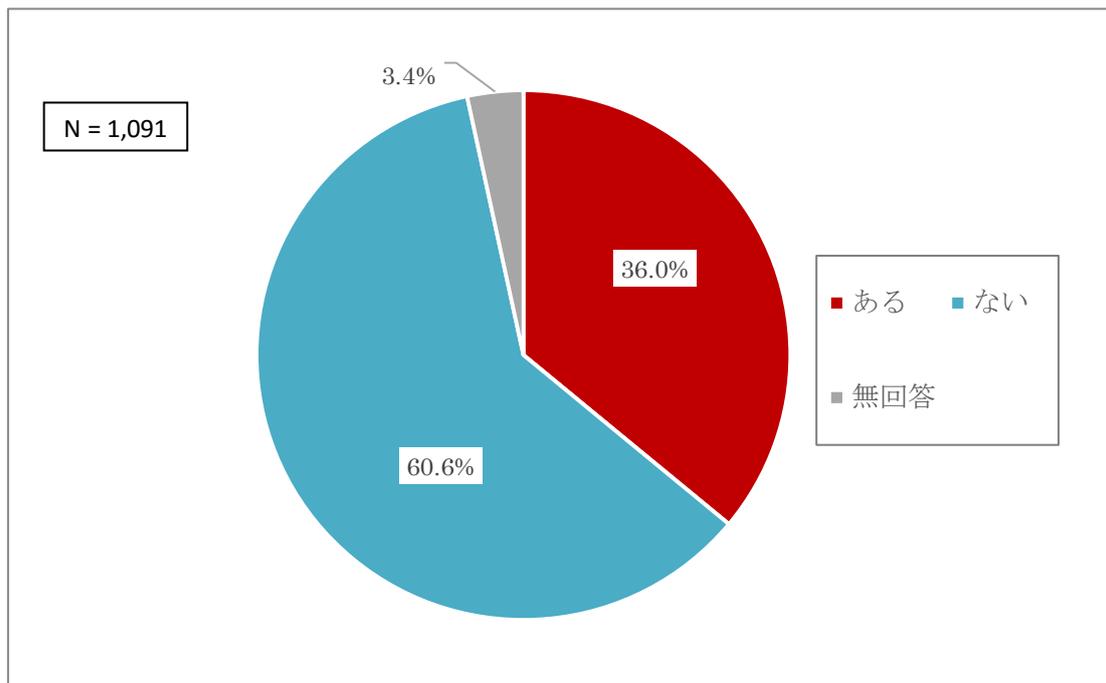
< (1) 学生からの相談状況 >

○本年度の就職・採用活動において、学生の意思に反して他の企業等への就職活動の終了を強要するようなハラスメント的な行為について、相談を受けたことはあるか尋ねたところ、「ある」と回答した大学は36.0%であった。

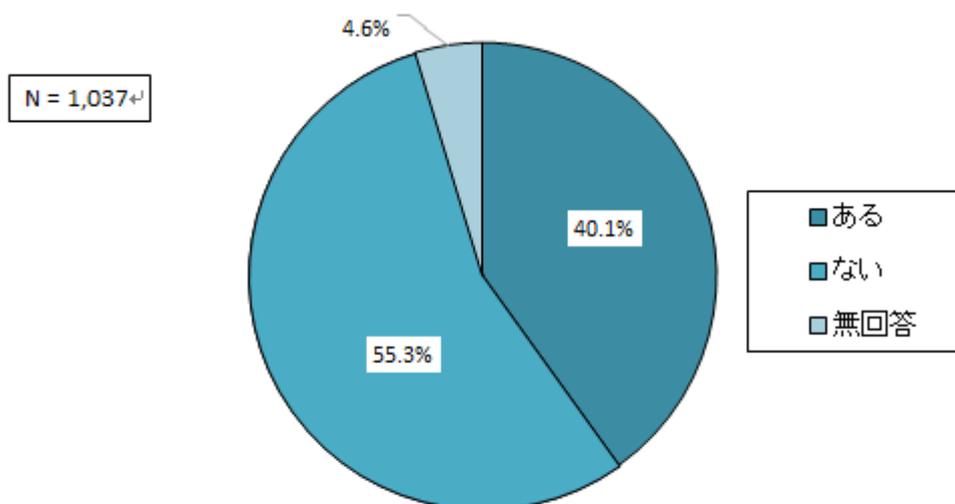
○昨年度調査と比べると、4.1ポイント減少した。

【学生の意思に反して他の企業等への就職活動の終了を強要するようなハラスメント的な行為について、相談を受けたことはありましたか】

(単一回答)



【参考：昨年度調査】

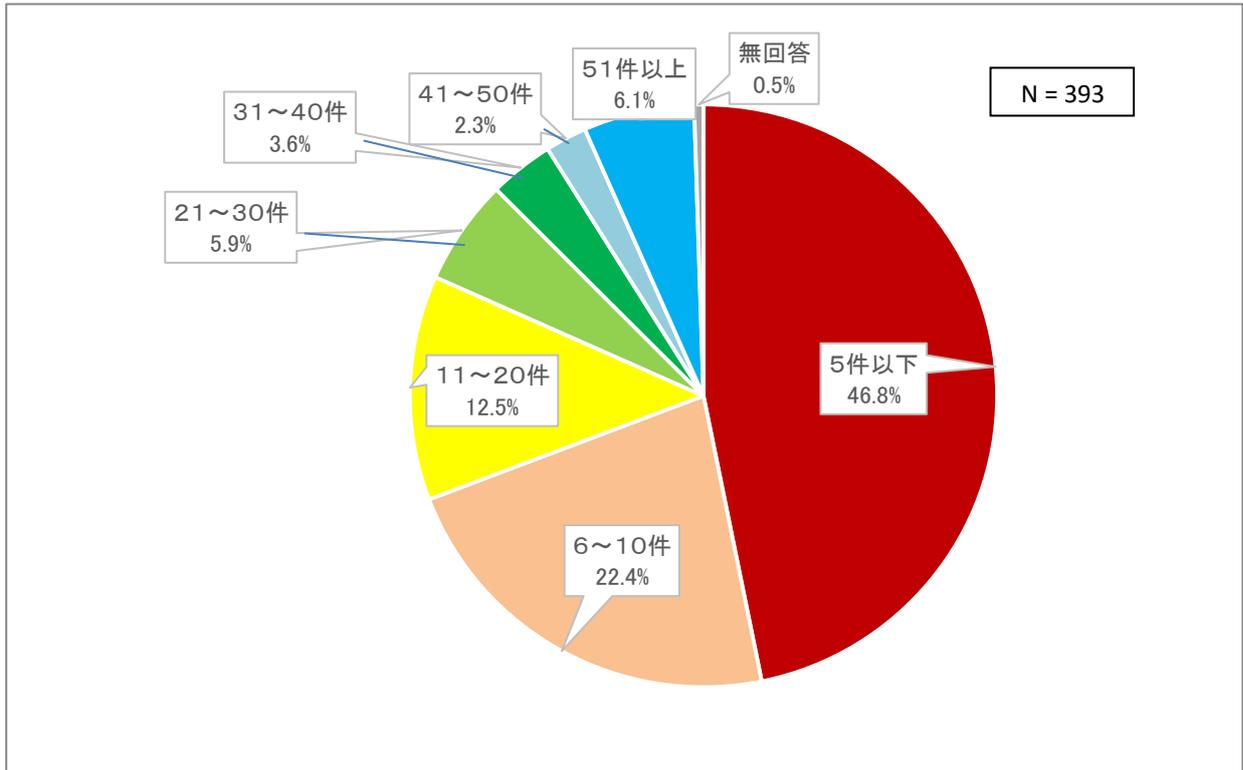


< (2) 相談件数 >

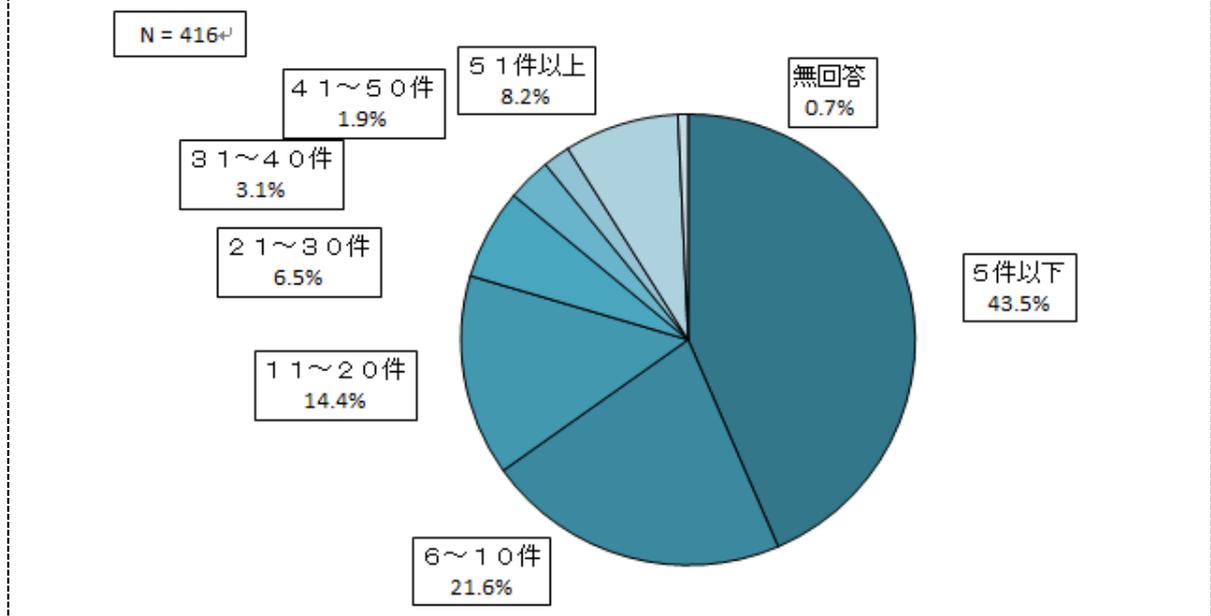
○相談を受けたことがあると回答した大学等（393校）に対し、学生からの相談件数を尋ねたところ、「5件以下」と回答した大学が46.8%と最も多く、次いで「6～10件」（22.4%）、「11～20件」（12.5%）であった。

○昨年度調査と比較すると、「5件以下」が3.3ポイント増加する一方で、「51件以上」が2.1ポイント減少している。

【本年度の相談件数はおおよそ何件程度でしたか（2018年3月1日から8月1日まで）】（単一回答）



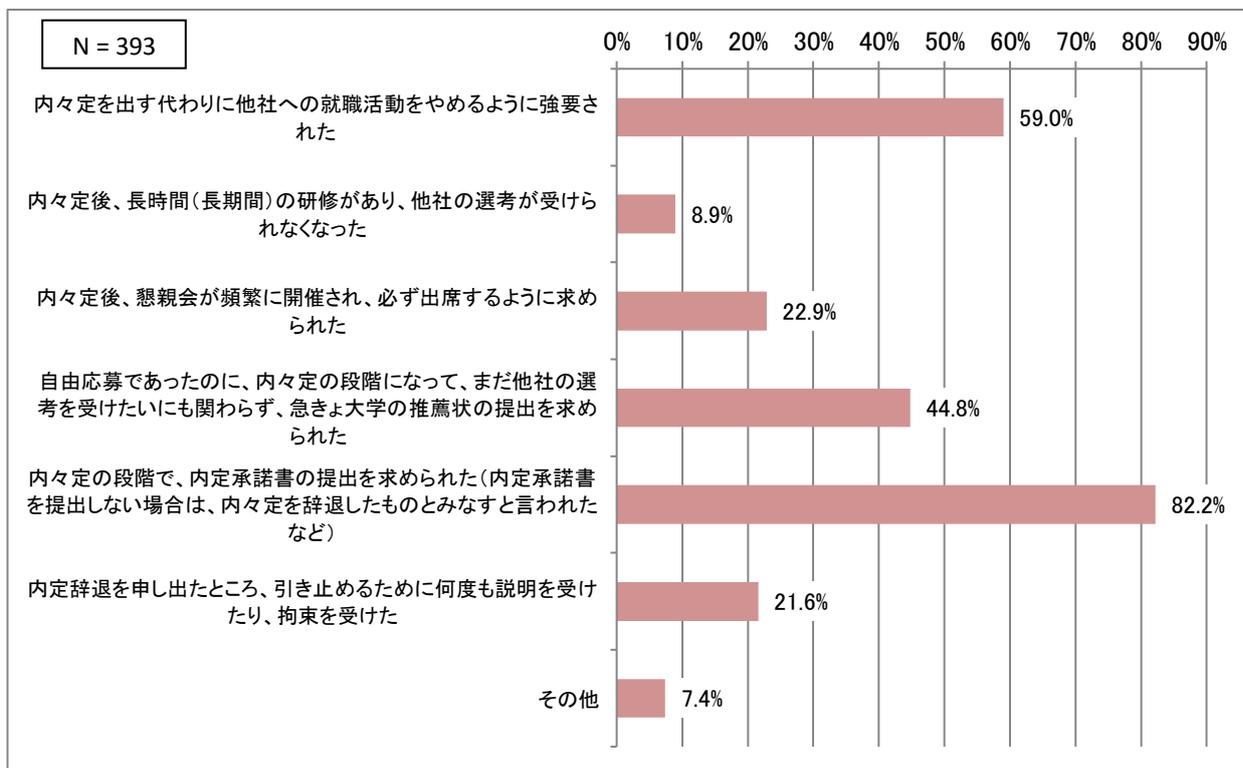
【参考：昨年度調査】



< (3) 相談内容 >

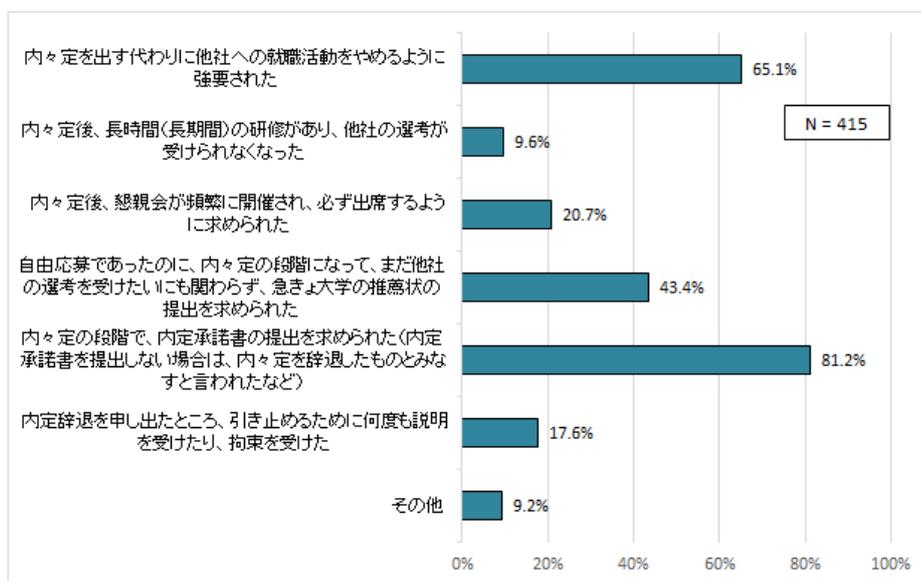
○相談を受けたことがあると回答した大学等（393校）に対し、どのようなハラスメント的な行為について相談を受けたか尋ねたところ、「内々定の段階で、内定承諾書の提出を求められた（内定承諾書を提出しない場合は、内々定を辞退したものとみなすと言われたなど）」と回答した大学が82.2%と最も多かった。次いで、「内々定を出す代わりに他社への就職活動をやめるように強要された」（59.0%）であった。

【どのようなハラスメント的な行為について相談を受けましたか】（複数回答）



※対象 393 社

【参考：昨年度調査】

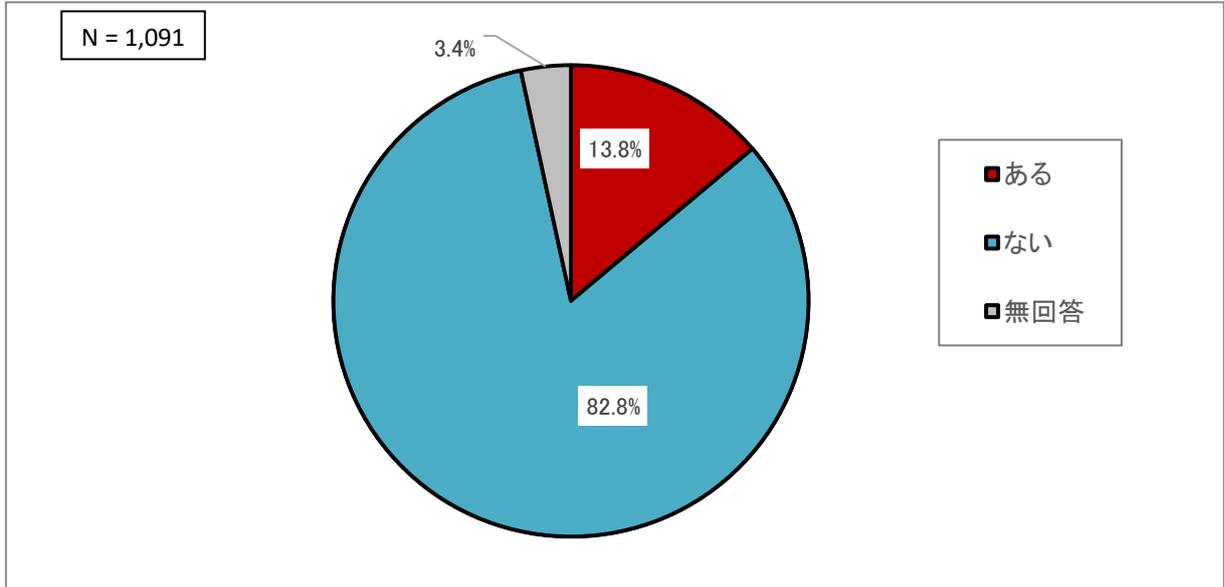


※「当てはまるもの」を全て選択
 ※対象 416 件から無回答 1 件を除外

< (4) 内々定の辞退 >

○学生が内々定を辞退したことで、企業からクレームを受けたことがあるかと尋ねたところ、「ある」と回答した大学は、13.8%だった。

【学生が内々定を辞退したことで、企業からクレームを受けたことがありますか】(単一回答)

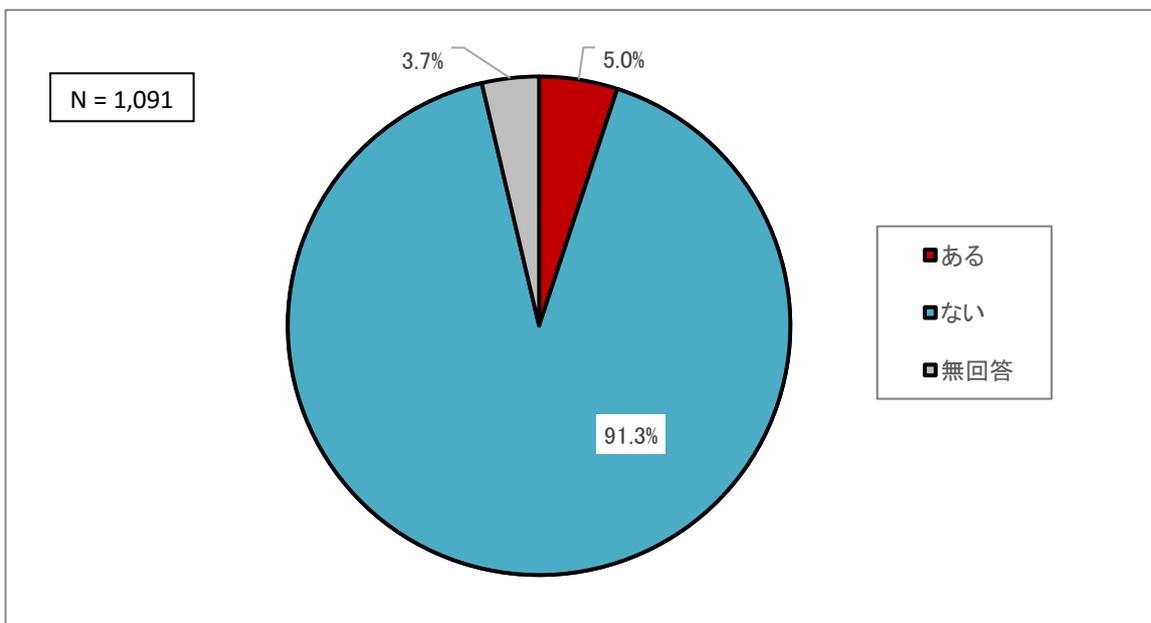


< (5) セクシャル・ハラスメント行為 >

○本年度の就職・採用活動において、学生からセクシャル・ハラスメントのような行為について、相談を受けたことがあるかと尋ねたところ、「ある」と回答した大学は5.0%だった。

※本調査では、就職活動中の学生が企業の採用担当者等の性的な言動により、不快な思いをしたり、人権侵害を受けたと考えるすべての行為を指すものとして回答いただいた。

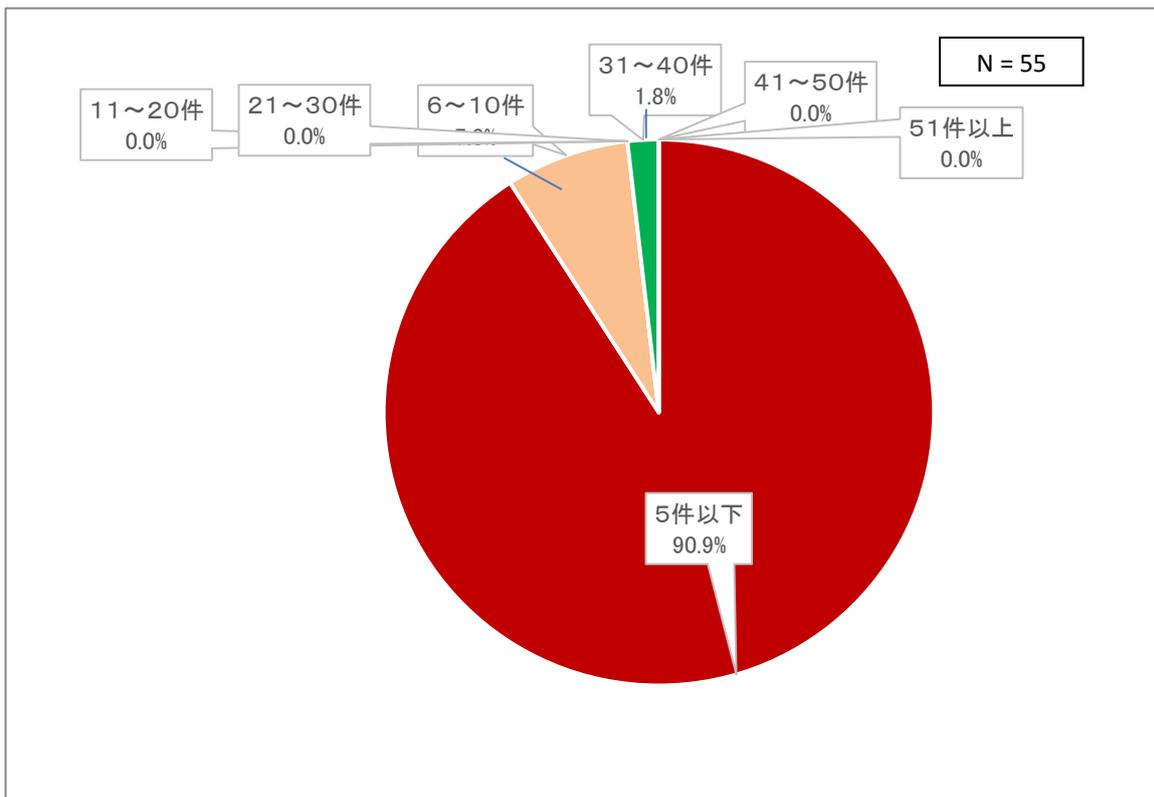
【本年度の就職・採用活動においてセクシャルハラスメント的な行為について相談受けましたか】(単一回答)



< (5) セクシャル・ハラスメント行為相談件数 >

○本年度の就職・採用活動において、学生からセクシャル・ハラスメントのような行為について、相談を受けたと回答した大学等（55校）に相談件数を尋ねたところ、「5件以下」が最も多く、90.9%であった。

【相談件数はおおよそ何件程度でしたか。】（単一回答）



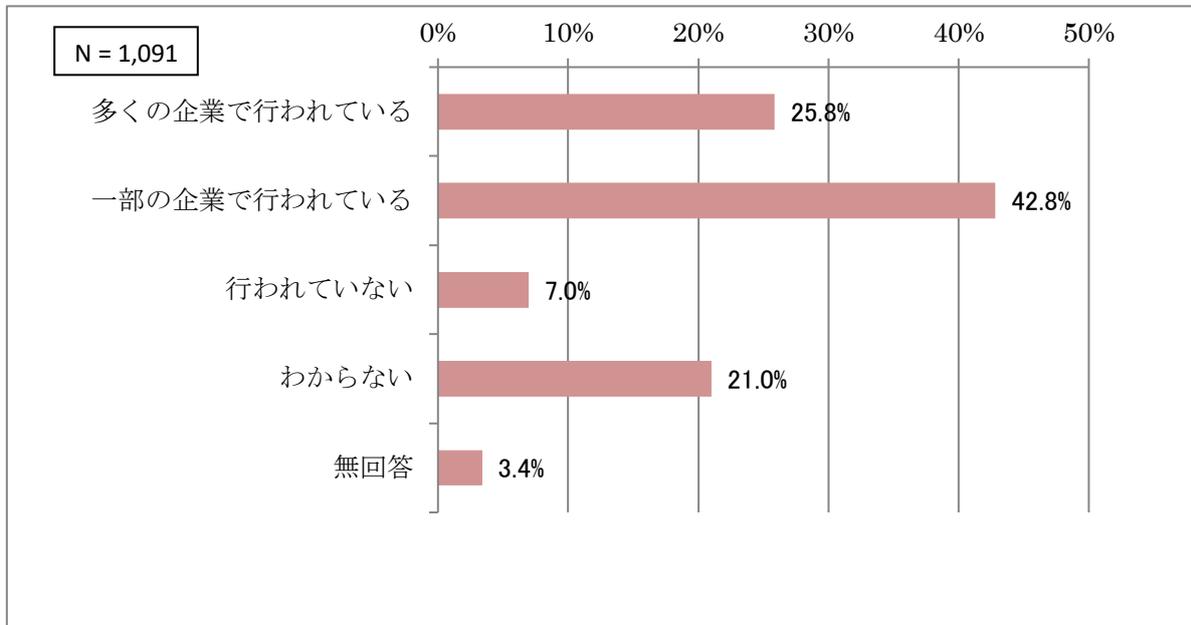
VII. 企業の採用選考活動における学生の評価について

< (1) 学業成果を表す書類の活用 >

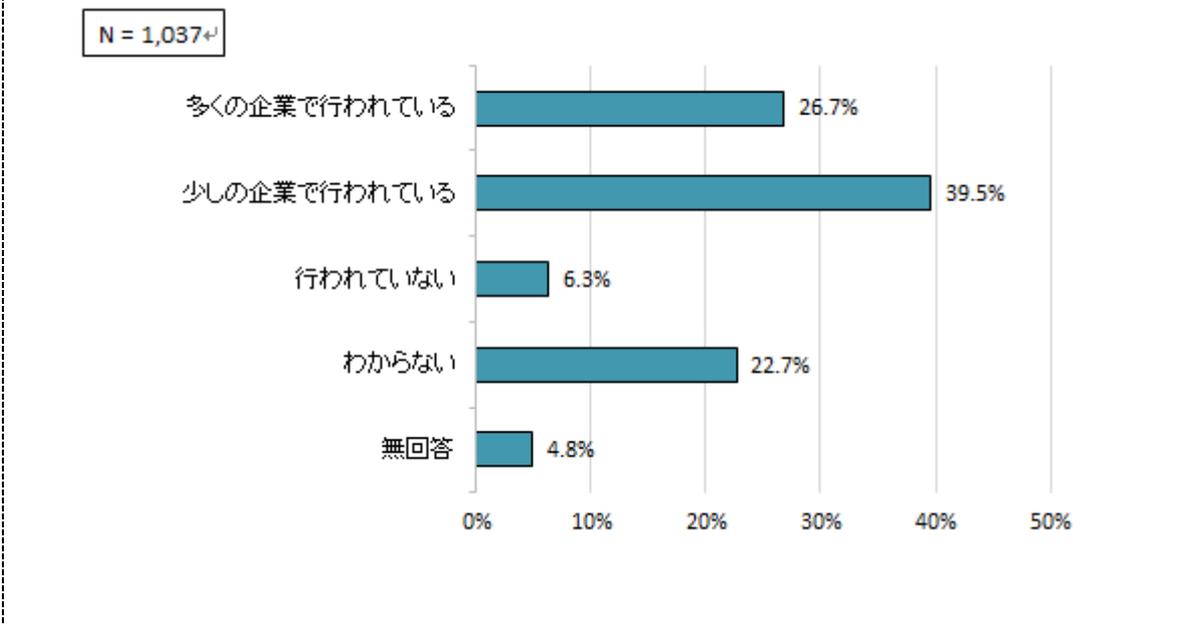
○学業成果を表す書類（例えば、成績証明書や履修履歴等）などを活用した面接が行われていると思うか尋ねたところ、「行われている」と回答した大学は68.6%であった。

○昨年度と比べると2.4ポイント増加した。

【学業成果を表す書類（例えば、成績証明書や履修履歴等）などを活用した面接が行われていると思いますか】（単一回答）



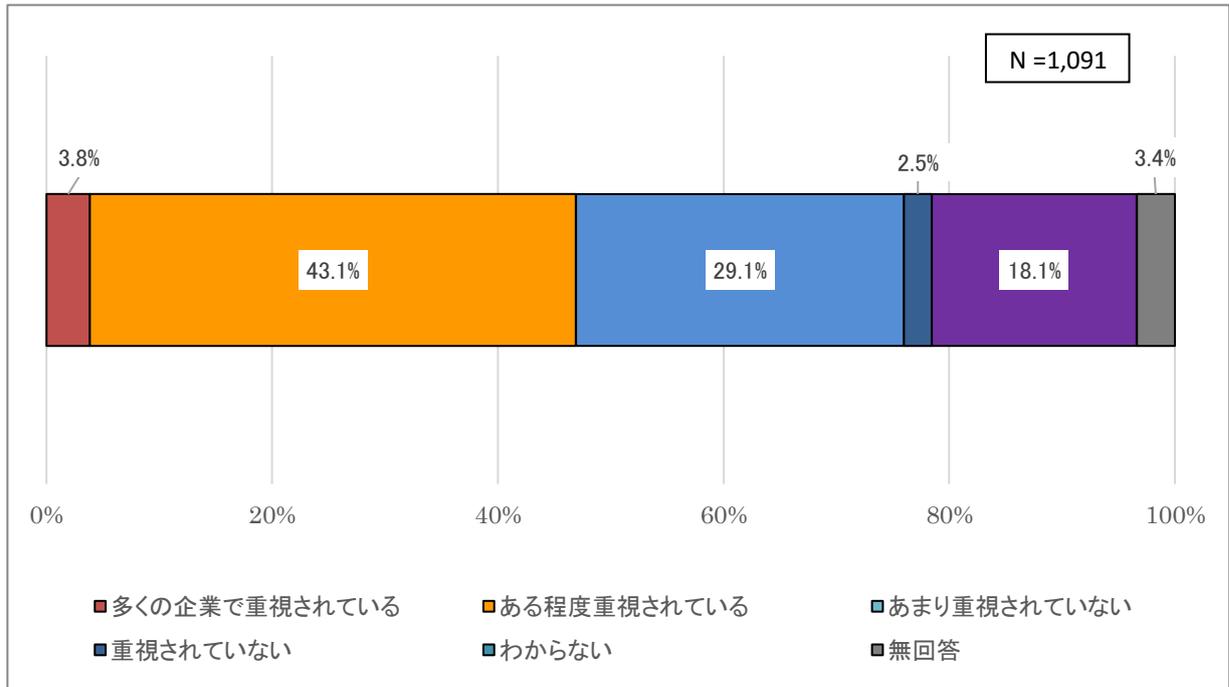
【参考：昨年度調査】



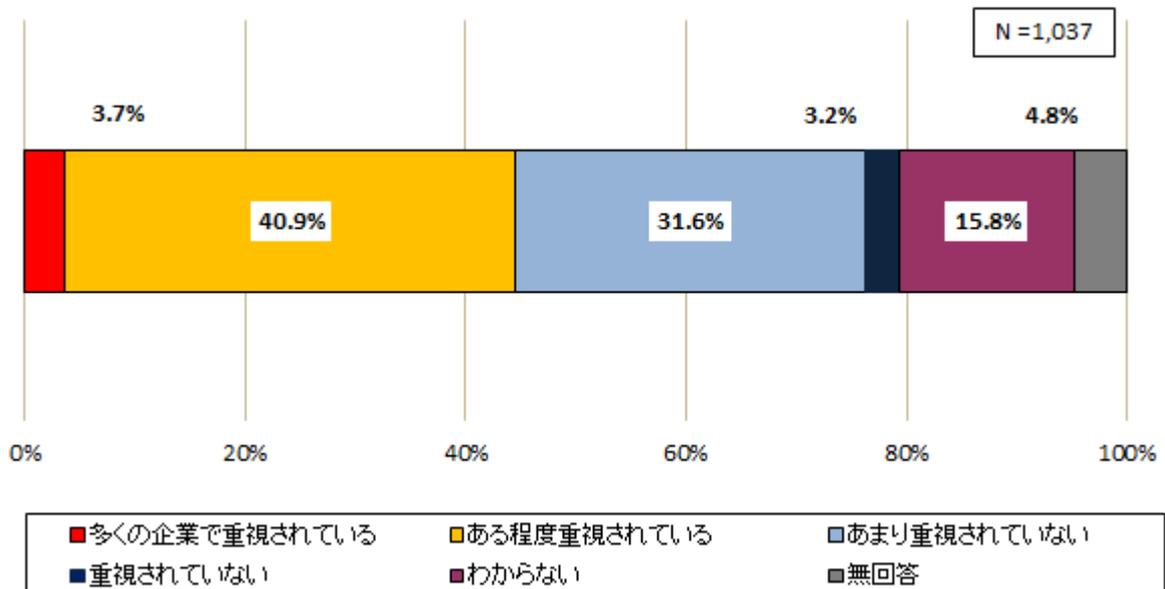
< (2) 学業成果を表す書類重視の割合 >

○企業の採用選考活動において、学生を評価する際に大学等における学業成果（成績や履修履歴等）が重視されていると思うか尋ねたところ、「多くの企業で重視されている」「ある程度重視されている」と回答した大学等は46.9%であった。
 ○昨年度と比べると2.3ポイント増加した。

【企業の採用選考活動において学生を評価する際に大学における学業成果（成績や履修履歴等）が重視されていると思いますか】（単一回答）



【参考：昨年度調査】

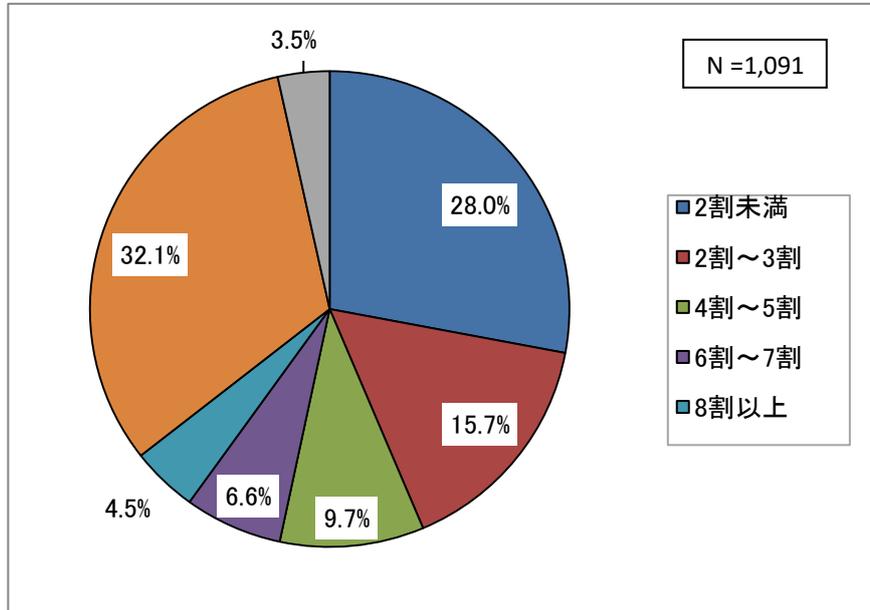


VIII. インターンシップについて

< (1) 学生のインターンシップへの参加状況 >

学生のうち、どのくらいが企業のインターンシップへ参加したか尋ねたところ、「2割未満」が最も多く28.0%、次いで「2割～3割」(15.7%)であった。

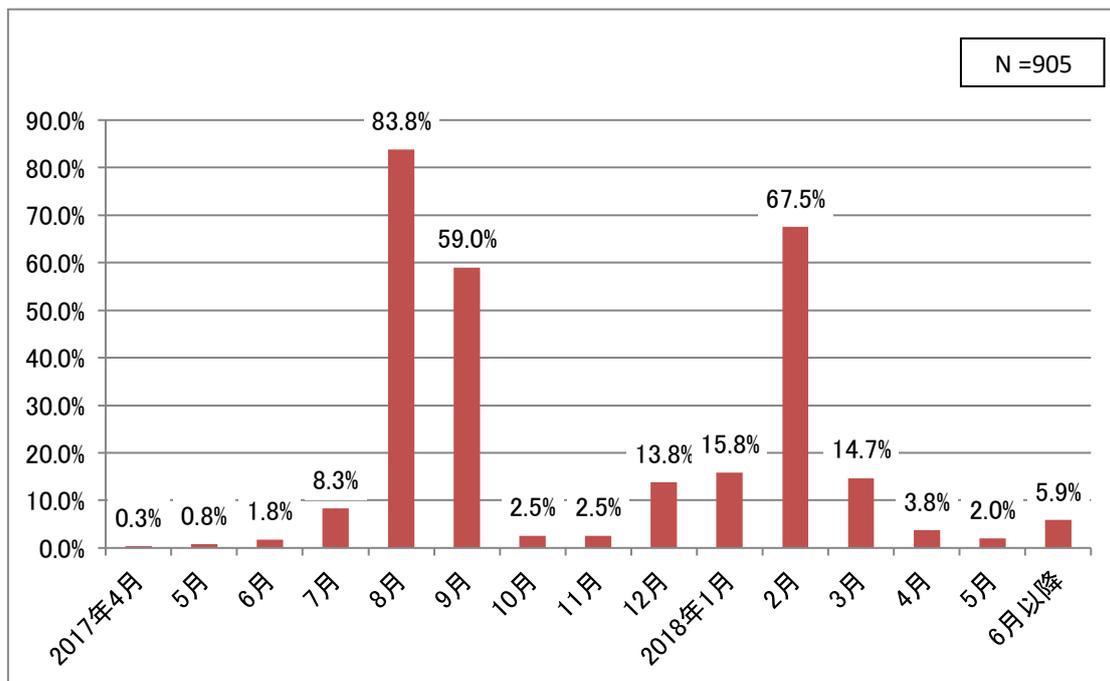
【学生のうち、どのくらいが企業のインターンシップへ参加しましたか】(単一回答)



< (2) インターンシップへの参加時期 >

学生が企業のインターンシップに参加した時期を尋ねたところ、8月が83.8%と最も多く、次いで、2月(67.5%)であった。

【学生が企業のインターンシップに参加した時期はいつですか】(複数回答)



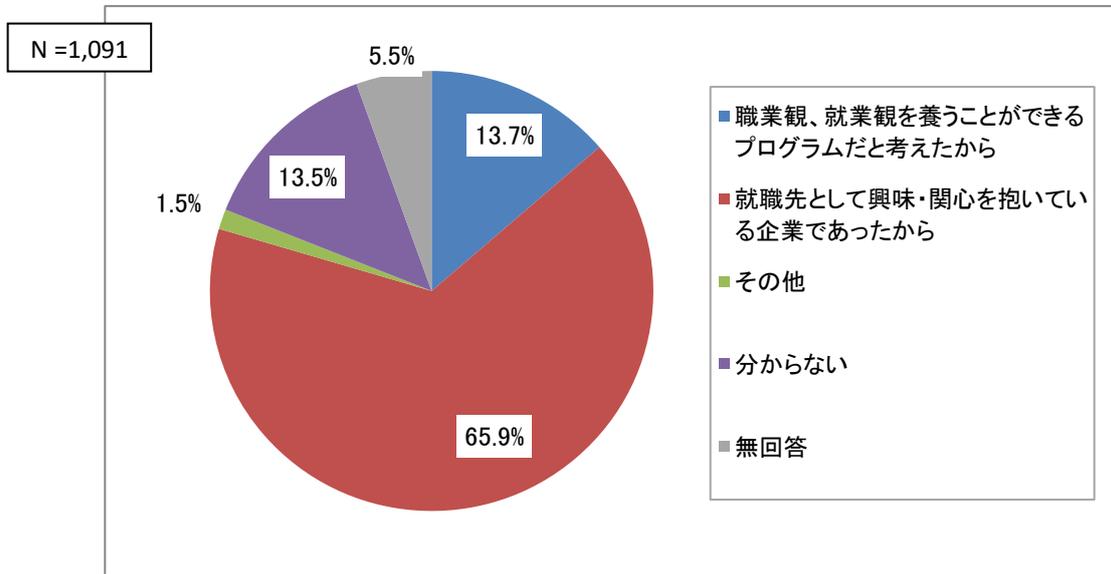
※多い順に3つ回答

※対象 1091 校から無回答 186 校を除外して集計

< (3) 学生がインターンシップを選択する基準 >

学生がインターンシップを選択する基準を訪ねたところ、「就職先として興味・関心を抱いている企業であったから」が最も多く65.9%であり、次いで、「職業観、就業観を養うことができるプログラムだと考えたから」(13.7%)であった。

【学生はどのような基準でインターンシップ先を選択していますか】(単一回答)

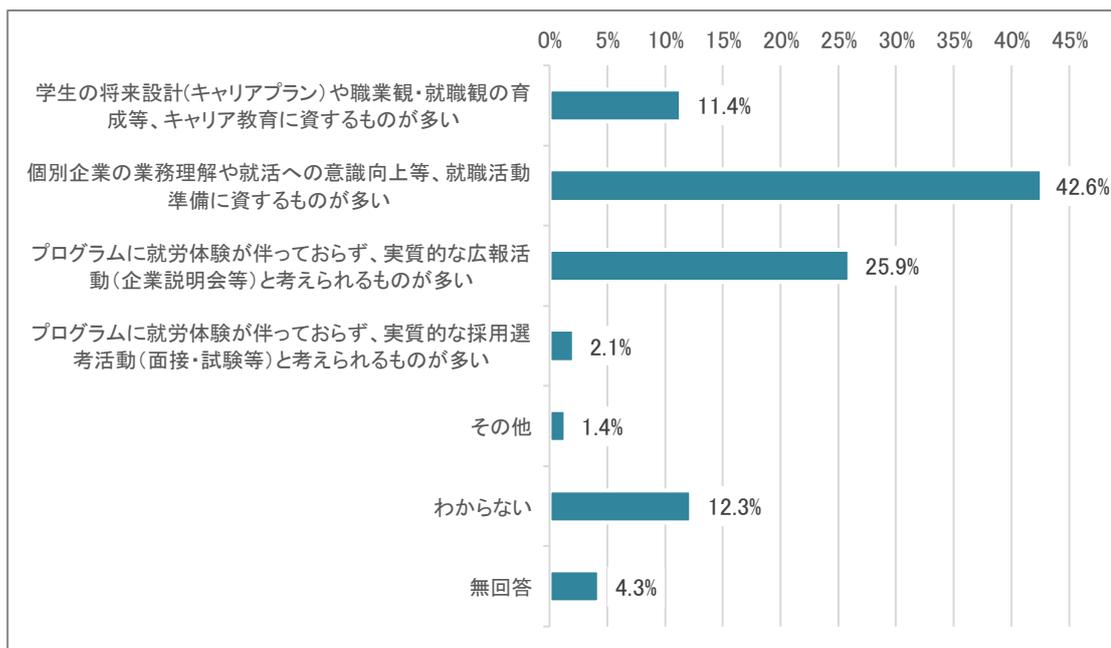


< (4) 企業のインターンシップについての認識 >

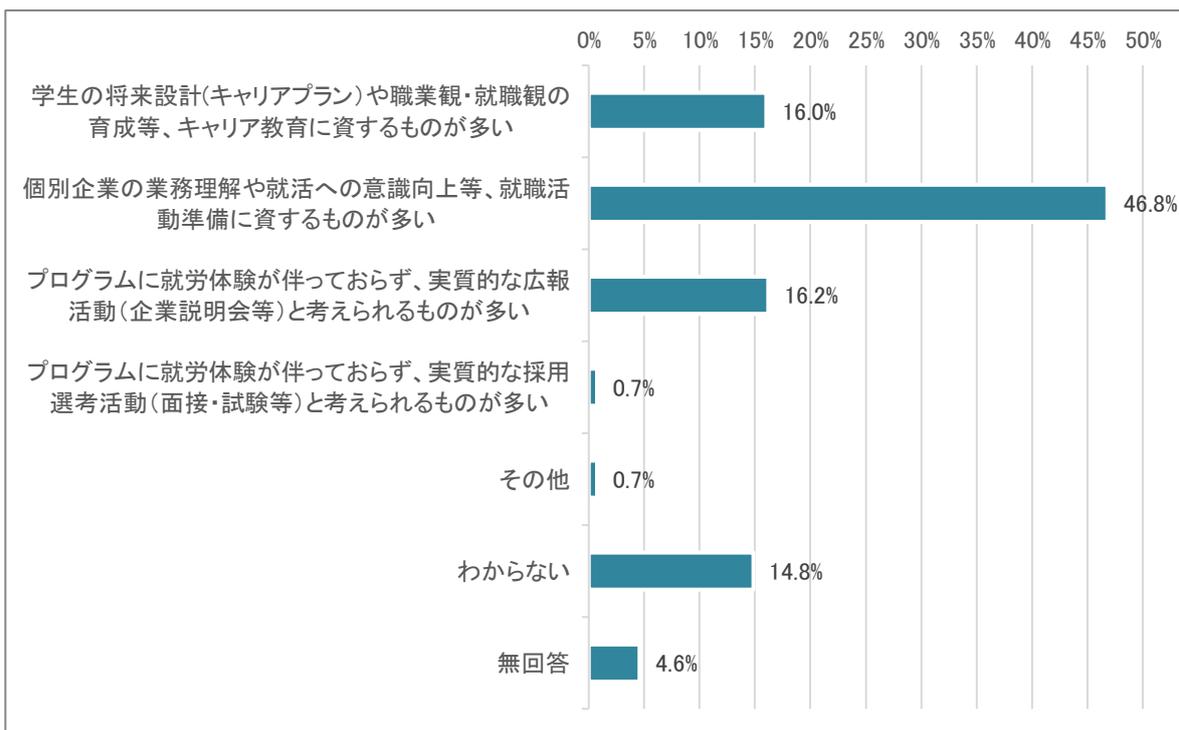
企業のインターンシップについての認識を訪ねたところ、インターンシップ全体及び8月頃のインターンシップについての認識では、「就職活動準備に資するものが多い」が最も多く、2月頃のインターンシップは「実質的な広報活動と考えられるものが多い。」が最も多かった。

【企業のインターンシップについて、どのような認識をお持ちですか】

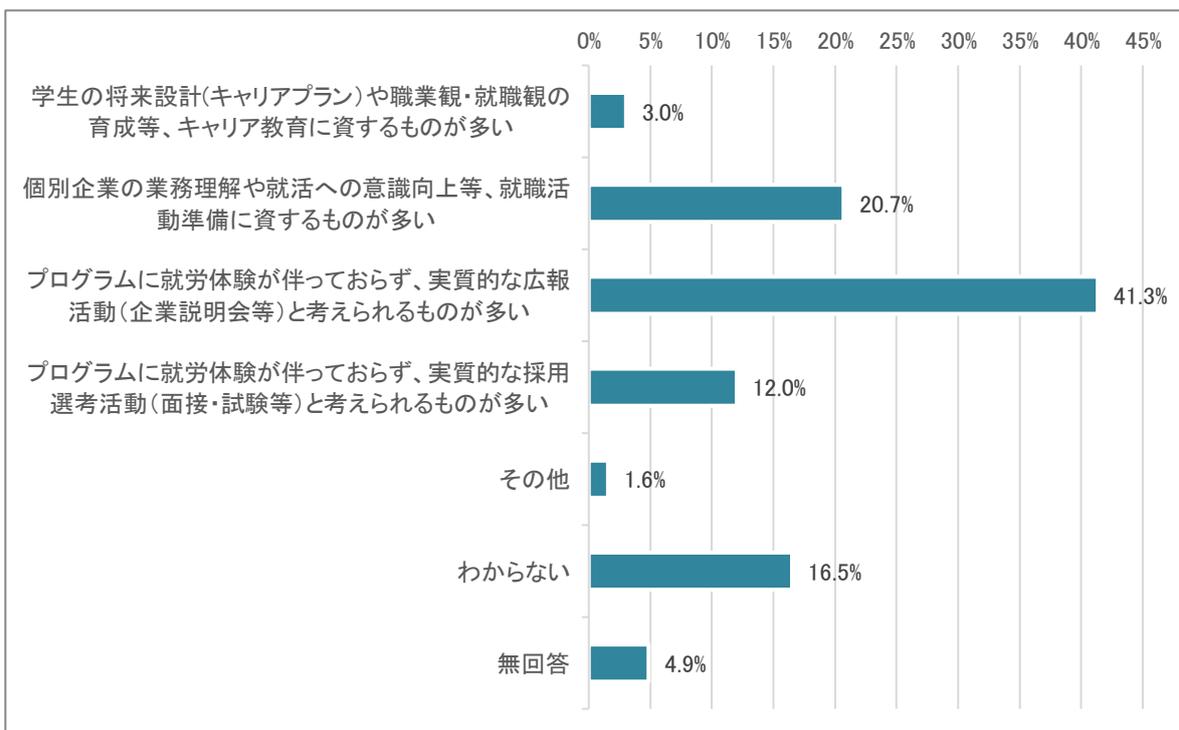
(i) インターンシップ全体についての認識



(ii) 8月頃(2017年8月)に行われたインターンシップについての認識



(iii) 2月頃(2018年2月)に行われたインターンシップについての認識

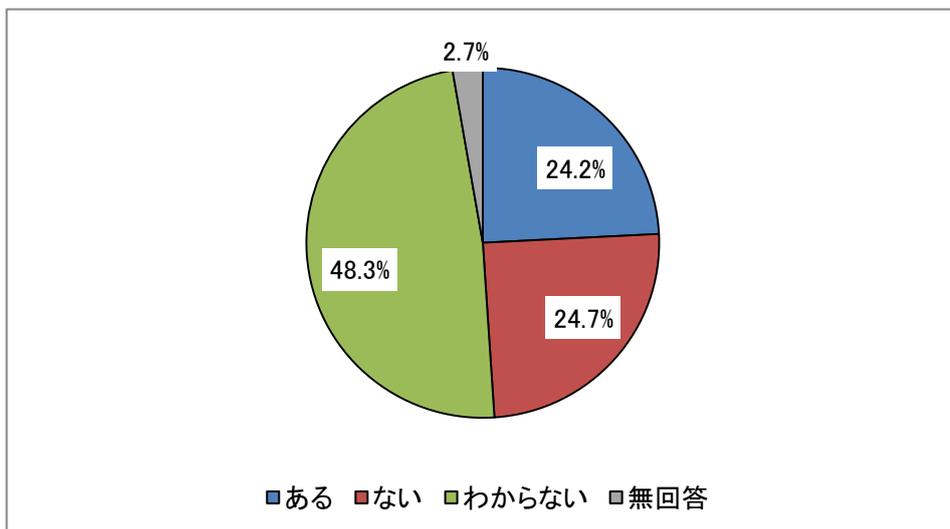


Ⅷ. 2020年度の就職・採用活動について

< (1) オリンピック・パラリンピック大会期間と就職・採用活動時期が重なることへの不安や課題 >

2020年度の就職・採用活動がオリンピック・パラリンピック大会期間と就職・採用活動時期が重なることについて、24.2%が不安や課題があると回答した。

【2020年度の就職・採用活動はオリンピック・パラリンピック大会期間と就職・採用活動時期が重なりますが、就職活動にとって不安や課題と考えることはありますか。】(単一回答)



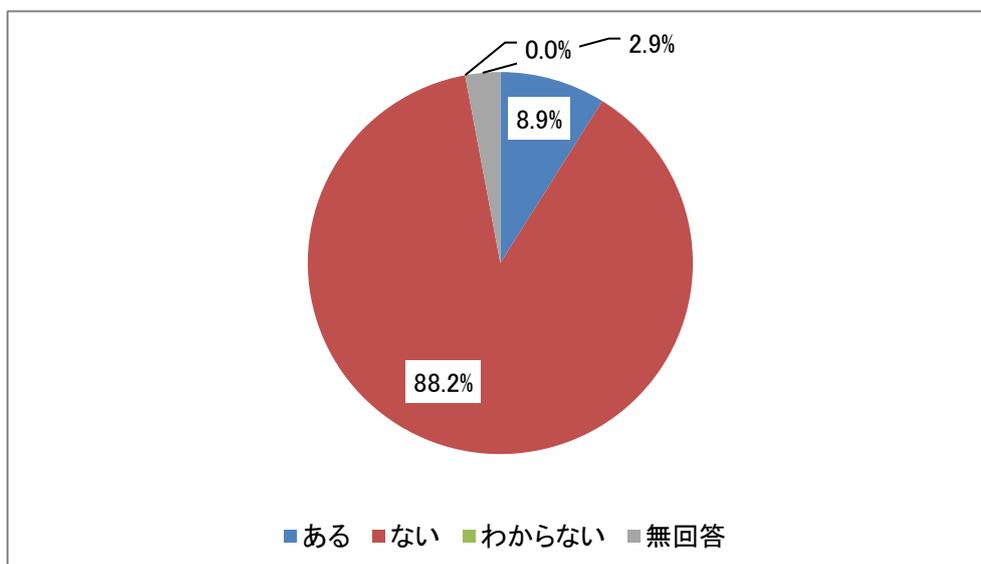
「ある」と回答した大学等のうち、自由記述として回答の多かったものは以下のとおり。

- ・ 宿泊先の確保や交通機関の利用が困難となり、地方大学所属の学生が不利になる。
- ・ 就活スケジュールが変更されると報じられていること。
- ・ 企業説明会の会場不足

< (2) 2020年度の就職活動のために特別な対応を行う予定の有無 >

現時点で、2020年度の就職・採用活動のために特別な対応を行う予定の大学等は8.9%であった。

【通常の特別支援とは別に特別な対応を行う予定はありますか】(単一回答)



以上